高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 ２０１６

最 終 報 告 書

木村 充, 裴 麗瑩, 小山田 建太, 伊勢坊 綾, 村松 灯, 田中 智輝,
山辺 恵理子, 町支 大祐, 渡邉 優子, 中原 淳

２０１７年１２月２０日

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室
日本教育研究イノベーションセンター

マナビラボ・プロジェクト宣言

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室と日本教育研究イノベーションセンターは、日本全国の高校で授業をなさっている先生方が、その授業をさらに「インタラクティブ」に、さらに「知的にわくわく」したものにするお手伝いをさせていただきたいと願い、「マナビラボ」プロジェクトを立ち上げました。

マナビラボ・プロジェクトでは、主に、下記の３つの活動にラボメンバー一同で従事しています。

１．日本全国の高校のアクティブラーニングの実態を「見える化」するべく、モニタリング調査を行わせていただくこと

２．アクティブラーニングの視点に立った高校の先進的な授業実践事例を収集し、多くの人々に知っていただく機会をつくりだすこと

３．それらをWeb、書籍、報告書などのメディアを用いて世に広く問い、アクティブ・ラーナーの育成に貢献すること

なお、マナビラボ立ち上げに際して、私たちは、下記の５つの信念を持っています。この５つの信念は、私たちが私たちたる由縁であり、「マナビラボ・プロジェクト宣言」と形容してもよいものです。

本報告をしたためるにあたり、この宣言に立ち返ることをもって、私たちは自らのアイデンティティを確認します。

私たちの１つ目の信念は、アクティブラーニングを「新しいもの」とは「みなさない」という信念です。

活動を始めてからというもの、高校の先生方にも様々ヒアリングなどもさせていただきましたが、強く感じたのはアクティブラーニングという言葉に対する強い拒否感、あるいはやらされ感でした。多くの先生方が思っているのは「確かに新しいけれど、今までだってあったよね」というものです。

マナビラボでは、多くの心ある先生方がお取り組みになってきたアクティブラーニング的な授業を「再発見」し、多くの人々により知って頂くお手伝いをさせていただこうと思っております。

私たちは、アクティブラーニングを「新しいもの」であるとはみなしません。それは心ある教員の方々が、これまでも追求してきたものであり、かつ、今後の社会を生き抜く人材にとって重要な学習機会であると考えます。

２つ目の信念は、「私たちはパブリックをめざす」というものです。

昨今、巷では、アクティブラーニングが大きな流行とも言える状況になっているわけですが、それを「商業化」のチャンスとみなす人も少なくありません。海外で仕入れた「洋風の手法」を日本に適用し、それをもって現場を塗り替えることを企図するものもあります。

あるいは、これまで特定の手法で教育運動を主導してきた教育業界の運動主が、自らの運動に「アクティブラーニング」という新たなコーティングを施して、自分の教育運動を普及させたり、再活性化さ

せたりしようとしているのが見て取れます。アクティブラーニングで「一旗揚げよう」という人もいないわけではありません。
　私たちは、プロジェクトメンバーの誰一人として、アクティブラーニングの「専業の研究者」ではありません。マナビラボ・プロジェクトのメンバーは、人材開発研究をしている人、哲学研究をしている人など、多岐にわたります。
　それぞれの立場から、新たな学びが高校に必要だと感じ、自らの研究のかたわら、この仕事をしています。私たちは、よりパブリックな立場から、アクティブラーニングを元気にするお手伝いをしたいと思います。
　私たちは、これからを生き抜く子どもたち、そして、そうした子どもたちと日々相対する先生方のために、パブリックな活動に従事します。

　３つ目の信念は、これからの学びを考えるときの姿勢です。
　これからの学びのあり方を議論する際には、教育機関だけを取り出して考えるのではなく、社会と教育機関とのつながりを考えて取り組むべきであると、私たちは信じています。
　例えば、高校を変えていかなければならないというのは、大学入試、その先の大学での教育、さらにその先の社会と、トータルに考えていく必要があります。そして、そこでの移行を円滑に進めていくということを目的にする必要があります。
　つまり、高校をひとりぼっちにしないということです。
　私たちは、志ある高校の授業を、社会につなぐお手伝いをさせていただきます。社会の心ある人々は、教育現場で日々格闘なさっている先生方と、適切なかたちで出会い、願わくば協力をしたいと思っています。これまで、多くの教育運動は「教育の世界」の独自性を主張するあまり、「教育」と「教育以外」の世界の「境界」を強固にし、固定化してきました。私たちは、そうした視点を一切とりません。教育のあり方を、社会や仕事のあり方と接続して考えます。

　４つ目の信念は、私たちは「見える化」にこだわるということです。
　例えば、教育制度の決め方がいわゆる審議会・協議会方式になっていることに代表されるように、教育改革談義・議論というのは、どうしても印象論・理念論で進んでしまっています。私は、今あるものが「見える化」していないのに、それを適切に「変えること」はできないと思います。
　「イメージ」できないものは「マネージ」できません。またイメージできないものは「達成」すらできないのです。なぜなら、「達成したかどうか」もわからないからです。
　生産的な議論を起こしていくのは、数字であり事例です。私たちは、アクティブラーニングにまつわる数字や事例を「見える化」するお手伝いをします。
　私たちは、印象論や理念論で教育や学習を語りません。しっかりとしたエビデンスに基づき、物事を語る姿勢を持ちます。

　最後の５つ目は、私たちは「対話の素材」を現場の先生方に提供したいということです。
　「現場を変えうる力」を持っているのは、私たちではありません。現場を本当に変えうる力を持っていらっしゃるのは、日々現場に立っておられる先生方の献身的な努力です。しかし、これまでの教育運動は、現場で日々相対している人々を「エンパワーメント」するどころか、意欲を減退する方向で行われてきました。

私たちは「無力」です。

私たちに為しえるのは、現場の改善や日々の実践に邁進しておられる先生方が、日々の実践を振り返ったり、新たな物事を構想していくときに必要になる対話の素材を提供することです。

本報告書の発表、および本プロジェクトをすすめるにあたり、以上の事柄を、私たちは宣言いたします。

Learning is fun!

マナビラボ・プロジェクトを代表して
中原　淳（東京大学・准教授）

はじめに

本報告書は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 一般財団法人日本教育研究イノベーションセンター が、2016年7月から9月にかけて共同研究として実施した「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査２０１６」（以下、本調査）の調査概要および集計結果をまとめたものである。本調査では、アクティブラーニングと同義で「参加型学習」という言葉を用いている。

本研究プロジェクトでは、高等学校におけるアクティブラーニングの現状と変化、その要因を質問紙調査の方法で把握することを目的に、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」という縦断調査を実施している。本調査は、その一連の調査の2年目に当たるものである。1年目の調査（2015年度）は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校3,893校を対象に実施し、62.0％に当たる2,414校から回答をいただいた。2年目の調査（2016年度）は、2015年度の調査回答校を対象に実施し、変化とその要因の把握を試みた。

これまで、第一次報告書、第二次報告書、第三次報告書と公刊してきたが、これらの中間報告は分析を進めながらの速報値であり、また、分析途中で取り上げることができなかった事項も少なくなかった。本報告書は、最終報告である。本調査のデータを利用する際には、本報告書のものをご参照いただきたい。

本調査が可能となったのは、ご多忙な中で、本調査の趣旨を理解し、回答をお寄せくださった全国の高等学校の先生方の熱意とご協力による。この場をかりて、心から厚く感謝を申し上げたい。また、このたびの調査の趣旨をご理解いただき、様々な支援をいただいた一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターの皆様に心より感謝する。本当にありがとうございました。

多くの方々のご理解とご協力の賜物である本調査の結果が、今後の高等学校におけるアクティブラーニングの在り方を考える際の基礎資料として各方面で活用され、高等学校の学びの活性化や改善に寄与することを願う。

2017年12月20日
研究プロジェクトメンバー全員を代表して

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室
准教授　中原淳（研究代表者）

最終報告書について

本報告書は、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査２０１６」（以下、本調査）の調査概要及び集計結果をまとめたものである。2017 年１月４日に発行された第一次報告書、2017 年４月５日に発行された第二次報告書、2017 年８月９日に発行された第三次報告書の内容を統合し、本調査の分析結果を網羅的に報告したものである。本報告書が最終報告であるため、本調査のデータを利用する際には、本報告書のものをご参照いただきたい。

調査結果の掲載・引用について

本報告書に掲載されている図版や調査結果の掲載や引用をご希望される場合には、ご自由に引用・転載していただいて構いません。また、引用・転載にあたっては、事前にご連絡をいただく必要はありませんが、必ず以下の【出典記載例】に則って、出典をご明記ください。

【出典記載例】

木村 充，裴 麗瑩，小山田 建太，伊勢坊 綾，村松 灯，田中 智輝，山辺 恵理子，町支 大祐，渡邉 優子，中原 淳 (2017). 東京大学－日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 2016: 最終報告書. http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2017/12/finalreport.pdf

目　次

マナビラボ・プロジェクト宣言 ······························ 1

はじめに ·· 4

最終報告書について ·· 5

調査結果の掲載・引用について ······························ 5

1.　調査の概要 ·· 8

1.　調査の概要 ·· 8
2.　調査の目的 ·· 9
3.　調査の実施主体 ·· 9
4.　調査の対象 ·· 10
5.　調査の方法 ·· 10
6.　調査票の構成と内容 ·· 10
7.　回収率 ·· 11

2.　調査の結果 ·· 14

1.　回答者の基本属性 ·· 14
1.1.　設置者 ··· 14
1.2.　回答者の教科主任着任時期 ································· 14
2.　教科主任調査の集計結果 ···································· 15
2.1.　現在の参加型授業への取り組み状況 ························· 15
2.2.　参加型授業への取り組み状況と今後の見通し ················· 17
2.3.　各科目における参加型授業への取り組み状況 ················· 18
2.4.　参加型授業の推進に向けた教科主任の行動 ··················· 36
2.5.　参加型授業の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ ····· 42
2.6.　効果の実感の変化 ··· 48
2.7.　悩みの変化 ··· 54
2.8.　組織文化 ··· 60
2.9.　校内研修 ··· 63
2.10.　参加型授業への学習環境の導入・活用状況 ··················· 65
3.　教員調査の集計結果 ·· 69
3.1.　実施された科目 ··· 69
3.2.　実施された学年 ··· 71
3.3.　扱った分野・テーマなど ··································· 71
3.4.　学習活動の種類 ··· 76

3.5. 参加型授業を実施したタイミング........ 83
3.6. 参加型授業を実施した頻度........ 84
3.7. 参加型授業で使用した教材........ 85
3.8. 参加型授業の効果........ 88
3.9. 学習成果を判断する際の根拠........ 95
3.10. 各教科の実践事例........ 96
3.11. 効果のある参加型授業の学習活動........ 115
4. 参加型授業の効果の実感に変化のあった教科となかった教科の違い........ 118
4.1. 教科主任の行動の違いによる効果の実感の変化........ 118
4.2. 教科主任の管理職への働きかけの違いによる効果の実感の変化........ 118
4.3. 組織文化の違いによる効果の実感の変化........ 119
5. 生徒の進路先による学校タイプとの関連........ 120
5.1. 生徒の進路先による学校タイプの分類........ 120
5.2. 学校タイプによる参加型授業実施率の違い........ 120
5.3. 学校タイプによる教科主任の行動の違い........ 121
6. 2015年度から2016年度の間に参加型授業に取り組むようになった教科の特徴 122
6.1. 教科別の参加型授業への取り組みの変化........ 122
6.2. カリキュラム・マネジメント........ 122
6.3. 学習環境の整備........ 124
付録 125

1.　調査の概要

本章では、調査の目的や方法など、調査の概要について説明する。

1.　調査の概要

名称：高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査２０１６ (注1)

目的：高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実態の把握

対象：

普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校のうち、2015 年度に実施した「高等学校における参加型学習に関する実態調査」に回答した学校（計 2,414 校）に所属する以下の教員に対して調査を実施。

・教科主任調査：各教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の教科主任

・教員調査：各教科でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業を実施している教員

方法：郵送法による質問紙調査

時期：2016 年 7 月～9 月

調査項目：

・教科主任調査

教科での参加型授業の実施状況、科目別参加型授業の実施率、教科主任としての働きかけ、前年からの効果の変化、前年からの悩みの変化 など

・教員調査

参加型授業を実施した科目、学年、分野・テーマ、学習活動、授業の流れ、振り返りの活動、タイミング、頻度、使用教材、効果、効果判断の根拠 など

回収数：

回答学校数	1,793 校	（対象校数 2,414 校、回収率 74.3%）

・教科主任調査		
・国語	1,748 票	（配布数 2,414 票、回収率 72.4%）
・地歴・公民	1,717 票	（配布数 2,414 票、回収率 71.1%）
・数学	1,750 票	（配布数 2,414 票、回収率 72.5%）
・理科	1,726 票	（配布数 2,414 票、回収率 71.5%）
・外国語	1,733 票	（配布数 2,414 票、回収率 71.8%）
合計	8,674 票	（配布数 12,070 票 (注2)、回収率 71.9%）
・教員調査		
・国語	1,575 票	（配布数 2,414 票、回収率 65.2%）
・地歴・公民	1,457 票	（配布数 2,414 票、回収率 60.4%）
・数学	1,314 票	（配布数 2,414 票、回収率 54.4%）
・理科	1,441 票	（配布数 2,414 票、回収率 59.7%）
・外国語	1,538 票	（配布数 2,414 票、回収率 63.7%）
合計	7,325 票	（配布数 12,070 票 (注3)、回収率 60.7%）

（注 1）調査票では「高等学校における参加型学習に関する実態調査」と表記。

（注 2）各学校に 5 部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。各教科の教科主任が回答。

（注 3）各学校に 5 部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。各教科でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に積極的に取り組んでいる教員 1 名が回答。

2. 調査の目的

「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」は、1）現在、未曾有のスピードで進行する大学改革－とりわけ円滑な高大接続を実現するための基礎資料として、現在の高校の教育実態を「大学」が学ぶこと、2）学習指導要領の改訂をにらんで、現在進んでいる高等学校におけるアクティブラーニングの現状を可視化し、高等学校の関係者の方々に利用していただくことを目的に、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター が共同で実施した縦断調査である。

大学改革の議論において、ここ数年、高大接続の重要性が指摘されている。変化の激しい現代社会を「生き抜く」若手層を育成するために、それぞれ個別に存在していた「高校の教育」と「大学の教育」を円滑に接続し、かつ総合的な思考力を見抜く大学入学者選抜を実現することが、社会的に要請されている。本調査は、こうした社会的背景に鑑み、高校の教育のリアルな実態を明らかにし、そこから大学が多くのことを学ぶために企図された。

一方、2014 年 11 月に発表された中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」をきっかけに、全国の高等学校においてアクティブラーニングの視点を取り入れた授業への取り組みが普及しはじめている。この諮問は、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について、育成すべき資質・能力をふまえた教育目標・内容の改善、アクティブラーニングの充実、学習評価の改善などを掲げたものである。新しい学習指導要領では、課題解決能力や主体的学習態度が重視されており、このような知識・技能、態度を身につけるためには、一方的に教師の講義を聴くだけの授業ではなく、生徒による議論や学び合い、発表などを組み込むなど、教育内容・方法の改善が不可欠である。一方、高校の教育の実態に関しては、それを正確に把握する手段がこれまで存在していなかった。

本調査は、こうした社会的背景を後景とし、高校の教育改革、大学の教育改革、ひいては大学の選抜手法の改革に資する基礎的資料として、社会の多くの関係者に利用されることを願い、実施されたものである。

1 年目となる 2015 年度の調査では、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校 3,893 校を対象に実施し、62.0%に当たる 2,414 校から回答をいただき、2015 年度における全国の高等学校におけるアクティブラーニングの実態把握を行った。2 年目となる 2016 年度の調査では、1）各教科におけるアクティブラーニングの実態をより詳細に把握すること、2）2015 年から 1 年間の参加型授業の実践状況の変化を把握すること、3）参加型授業を促進する組織的要因を把握すること、を主な目的としている。より詳細には、1）各高等学校の各教科において、アクティブラーニングの視点に立った参加型授業がどのように実施されているかを詳細に把握すること、2）各高等学校の各教科において、2015 年から 2016 年にかけてアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実践状況にどのような変化があり、かつどのような課題が生じているかを把握すること、3）各高等学校において、各教科主任の教員が、アクティブラーニングの促進をめざして教科の中でどのような行動をとり、かつ管理職に対してどのような上方影響力を行使しているかを把握すること、4）各高等学校において、アクティブラーニングを促進する組織文化的要因を把握すること、を目的に、調査票の設計等を行った。

3. 調査の実施主体

本調査の実施主体は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター である。調査の方法、調査票の内容の検討などは、両者の協議によって行われた。

4. 調査の対象

本調査の対象は、2015 年度に実施した「高等学校における参加型学習に関する実態調査」に回答した全国の高等学校（計 2,414 校）である。「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査２０１５」の調査対象は、調査票配布時（2015 年 7 月）に普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校（計 3,893 校）であった。

本調査では、一方的な知識伝達型の講義を聴くだけという受動的な学習を乗り越える意味でのアクティブラーニングに焦点を当てるため、実技や演習等の授業に力を入れてきたと考えられる実業学校は、対象から除外した。また、同様の理由で、6 教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）以外の保健体育・芸術・家庭等の教科は対象から除外した。

5. 調査の方法

以上の手続きによって選定された調査対象の高等学校に対して、調査票を郵送した。本調査では、教科ごとの参加型授業への取り組み、参加型授業に取り組んでいる教員のより具体的な取り組みの状況という 2 つの視点から実態を把握するため、教科ごとの調査票の中に、教科主任調査と教員調査の 2 種類の調査を織り込んだ。2016 年 7 月 1 日に、調査票 5 部に加え、依頼状、返送用封筒を同封し、各高等学校に発送した。

回収作業は、2016 年 7 月 1 日の調査開始から、調査票回収の最終締切り期限となった 2016 年 9 月 16 日まで継続された。

6. 調査票の構成と内容

調査票の基本的構成と内容は以下の通りである。

〇教科主任調査：

教科主任着任時期、教科での現在の参加型授業の実施状況、科目別参加型授業の実施率、教科での今後の参加型授業の実施状況、教科主任としての行動、教科主任としての管理職への働きかけ、効果の変化、悩みの変化、組織文化、校内・校外研修、ICT 導入・活用状況 など

〇教員調査：

参加型授業を実施した科目、学年、分野・テーマ、学習活動、授業の流れ、振り返りの活動、タイミング、頻度、使用教材、効果、効果判断の根拠 など

高等学校において広まりつつある「アクティブラーニング」という語は、人によって様々なイメージで捉えられていたり、特定の「授業の型」のようなイメージを持たれていたりすることが想定される。本調査では、そのイメージによって回答が偏ることを避けるため、各学校に調査を依頼するに当たり、調査票中ではアクティブラーニングという語の代わりに「参加型学習」という語を用いた。また、アクティブラーニングまたは参加型学習という語について、現在のところ統一された定義があるわけではなく、回答者によって思い浮かべるものが異なると考えられるため、本調査では参加型学習の定義として図 1 のような定義を示した。

本報告書では、このような参加型学習の視点を取り入れた授業のことを「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」または単に「参加型授業」という語を用いて表現することとした。従って、本

報告書で「アクティブラーニング」または「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」という言葉を用いた場合、調査票では「参加型学習」という言葉を用いていたことになる。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング　　など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文　　など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習　　など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。
ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

図1 参加型学習の定義

7. 回収率

本調査の対象となる高等学校は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校のうち、2015年度に実施した「高等学校における参加型学習に関する実態調査」に回答した高等学校（計2,414校）である。すべて白紙であった調査票や重複して返送された調査票を除いた有効調査票数を整理した結果、有効な調査票を返送した高等学校の数は1,793校であった。教科主任調査・教員調査の教科別の配布数、回収数、回収率を表1に示した。また、都道府県別・設置者別の配布数、回収数、回収率を表2、表3に示した。

表 1 教科別調査票配布・回収状況

項目		配布数	回収数	回収率
教科主任	国語	2,414	1,748	72.4%
	地歴・公民	2,414	1,717	71.1%
	数学	2,414	1,750	72.5%
	理科	2,414	1,726	71.5%
	外国語	2,414	1,733	71.8%
合計		12,070	8,674	71.9%
教員	国語	2,414	1,575	65.2%
	地歴・公民	2,414	1,457	60.4%
	数学	2,414	1,314	54.4%
	理科	2,414	1,441	59.7%
	外国語	2,414	1,538	63.7%
合計		12,070	7,325	60.7%

表 2 都道府県別調査票配布・回収状況

都道府県	配布数	教科主任					教員					全体	回収率
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語		
北海道	162	113	108	111	109	108	102	89	85	97	94	114	70.4%
青森県	39	32	32	32	31	32	29	26	27	26	24	32	82.1%
岩手県	44	33	33	34	33	33	30	30	28	29	28	34	77.3%
宮城県	53	36	35	35	33	35	34	29	27	30	30	37	69.8%
秋田県	33	25	26	26	25	25	25	26	22	22	23	26	78.8%
山形県	28	24	24	23	24	23	23	23	18	21	22	24	85.7%
福島県	43	38	38	38	39	37	36	28	24	29	32	40	93.0%
茨城県	63	50	47	49	50	47	40	39	34	39	42	50	79.4%
栃木県	44	41	41	41	40	41	39	33	29	33	33	41	93.2%
群馬県	49	36	38	35	36	37	36	36	31	32	35	38	77.6%
埼玉県	97	66	63	67	65	66	55	52	43	48	56	68	70.1%
千葉県	103	71	70	71	70	72	62	67	40	54	64	72	69.9%
山梨県	28	20	20	20	20	20	19	18	19	20	20	20	71.4%
東京都	174	112	114	115	109	116	109	100	76	90	100	121	69.5%
神奈川県	111	74	74	76	75	73	67	64	65	63	70	77	69.4%
新潟県	52	38	37	37	37	37	32	23	26	27	27	38	73.1%
富山県	28	24	23	24	22	24	20	22	18	20	24	24	85.7%
石川県	25	20	19	21	21	21	20	18	20	20	20	21	84.0%
福井県	17	14	13	14	14	13	13	11	12	12	12	14	82.4%
長野県	65	44	45	45	44	44	41	33	28	33	42	47	72.3%
静岡県	84	65	65	65	63	65	60	60	54	60	58	65	77.4%
愛知県	122	89	86	91	90	89	72	73	69	72	83	92	75.4%
岐阜県	42	29	28	29	29	28	27	26	21	23	27	30	71.4%
三重県	38	32	30	33	32	32	28	25	27	30	29	33	86.8%
滋賀県	30	21	20	19	20	21	20	18	12	18	21	21	70.0%
京都府	50	32	30	33	32	33	28	25	20	26	29	33	66.0%
大阪府	111	71	70	70	70	71	62	50	44	55	60	72	64.9%
兵庫県	100	69	66	69	67	67	60	56	43	55	58	71	71.0%
奈良県	24	16	16	16	15	15	15	13	11	13	11	16	66.7%
和歌山県	13	10	10	10	10	9	9	9	8	7	8	10	76.9%
鳥取県	15	13	13	13	13	13	12	11	11	12	12	13	86.7%
島根県	20	17	17	17	17	16	16	17	16	16	14	17	85.0%
岡山県	36	26	25	26	25	25	23	20	21	21	22	27	75.0%
広島県	67	46	44	46	46	47	44	39	41	40	44	47	70.1%
山口県	32	25	25	25	25	25	22	19	15	20	23	25	78.1%
徳島県	17	12	13	11	12	12	11	11	9	12	11	13	76.5%
香川県	16	13	14	14	14	14	10	11	10	11	12	14	87.5%
愛媛県	32	25	24	25	24	24	24	21	20	22	22	25	78.1%
高知県	23	19	19	19	18	19	18	17	11	15	15	19	82.6%
福岡県	82	60	61	60	60	60	58	53	54	52	53	61	74.4%
佐賀県	18	12	13	13	13	13	7	8	10	10	12	13	72.2%
長崎県	35	23	23	23	23	23	20	18	16	18	19	23	65.7%
熊本県	27	22	21	23	21	22	19	18	21	17	18	23	85.2%
大分県	28	20	19	19	19	20	19	17	17	14	19	20	71.4%
宮崎県	21	16	15	16	16	15	13	11	15	13	14	16	76.2%
鹿児島県	42	31	28	29	31	29	24	24	25	25	25	32	76.2%
沖縄県	31	23	22	22	24	22	22	20	21	19	21	24	77.4%
合計	2,414	1,748	1,717	1,750	1,726	1,733	1,575	1,457	1,314	1,441	1,538	1,793	74.3%

表 3 学校設置者別調査票配布・回収状況

設置者	配布数	教科主任					教員					全体	回収率
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語		
国立	9	7	6	8	8	7	7	6	7	7	7	8	88.9%
都道府県立	1,676	1,229	1,204	1,226	1,213	1,217	1,124	1,063	951	1,056	1,100	1,256	74.9%
その他公立	81	60	58	58	59	58	57	50	43	55	55	61	75.3%
私立	648	452	449	458	446	451	387	338	313	323	376	468	72.2%
合計	2,414	1,748	1,717	1,750	1,726	1,733	1,575	1,457	1,314	1,441	1,538	1,793	74.3%

（注）表 2、表 3 中の「全体」とは、教科主任調査・教員調査のいずれかの調査票に 1 票でも回答した学校数を集計したものである。

74.3％という回収率は、2015 年度と同様に、学校を対象とする調査の回収率としては際立って高い数字と言える。回答学校数は 1,793 校、回答者数はのべ 15,999 名と、高等学校におけるアクティブラーニングに関する縦断調査としては前例のない非常に大規模なものであり、多くの方々のご協力によりこのような調査を実施できたことは、大きな成果であった。

一方で、2015 年度・2016 年度と 2 年連続で調査票に回答した学校は、アクティブラーニングへの関心が高いなど、何らかの偏りがあると考えられる。回答数は多いとはいえ、結果を解釈する際には、一定のバイアスを伴う可能性があることに、慎重な配慮が求められるだろう。

2.　調査の結果

1.　回答者の基本属性

「1. 調査の概要」で示したように、本調査の回答学校数は 1,793 校であり、回答者数は教科主任調査で 8,674 名、教員調査で 7,325 名であった。

本節では、回答した学校がどのような学校であったのか、その基本属性を示す。

1.1.　設置者

調査回答校の学校設置者は、国立が 8 校、都道府県立が 1,256 校、市立が 58 校、町立が 2 校、組合立が 1 校、私立が 468 校であった（表 4）。表 3 で示したように、学校の設置者による回収率の偏りはほぼない。

回答の全体の傾向を捉えやすくするため、分析の際には、市立・町立・組合立を合わせて「その他公立」に再分類した項目を用いる。

表 4 学校の設置者

項目	度数	%
国立	8	0.4
都道府県立	1,256	70.1
市立	58	3.2
町立	2	0.1
組合立	1	0.1
私立	468	26.1
合計	1,793	100.0

1.2.　回答者の教科主任着任時期

教科主任調査の回答者は、58.5%が 2016 年 3 月以前に着任した教科主任であり、41.5%が 2016 年 4 月以降に着任した教科主任であった（表 5）。

本調査において参加型授業への取り組みの変化を尋ねる際、2016 年 3 月以前に着任した場合には 2015 年 9 月～2016 年 8 月の実績・計画について回答し、2016 年 4 月以降に着任した場合には 2016 年 4 月～2016 年 8 月の実績・計画について回答するように教示した。

表 5 教科別回答者の教科主任着任時期（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
2016年3月以前	973	56.1	1,147	67.6	958	55.2	998	58.4	940	55.1	5,016	58.5
2016年4月以降	760	43.9	550	32.4	776	44.8	710	41.6	766	44.9	3,562	41.5
有効回答数	1,733	100.0	1,697	100.0	1,734	100.0	1,708	100.0	1,706	100.0	8,578	100.0
無効回答	1		0		0		0		0		1	
無回答	14		20		16		18		27		95	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 無回答とは、記入漏れや回答拒否など何らかの理由により設問への回答がなかった回答を指す。無効回答とは、有効回答・無回答以外の、ルールに違反した回答や判別が困難な回答などを指す。（以下同様）

2. 教科主任調査の集計結果

2.1. 現在の参加型授業への取り組み状況

各教科での現在の参加型授業への取り組み状況は、「教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる」(70.7%)、「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」(14.9%)であった。組織的に、あるいは組織的にとまではいかないものの何らかの形で参加型授業に取り組んでいる教科が合わせて 85.5%あった一方で、まったく取り組んでいないという教科も 14.5%あった。(図 2)

教科別に見ると、「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」のは外国語科が 24.4%と、他教科の 10.5%〜15.4%という取り組み状況に比べると多かった。(表 6、図 3)

「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」と回答した教科に対しては、その取り組み内容を尋ねた。その結果、「教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている」が 60.1%で高い割合を示した。一方で、「教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている」(39.7%)、「教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」(33.5%)という教科は低い割合に留まることがわかった。(表 7)

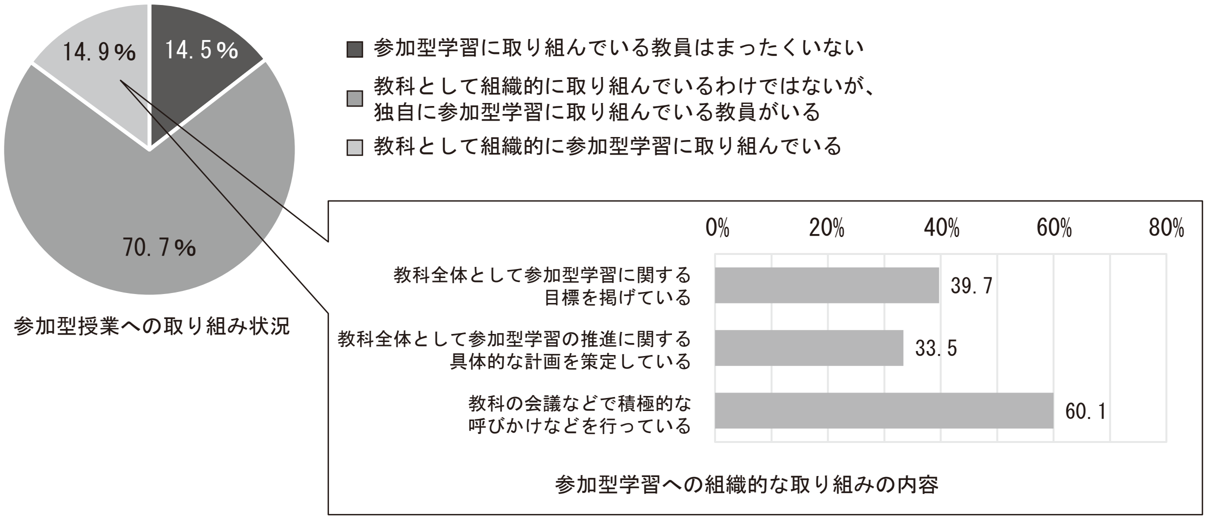


図 2 現在の参加型授業への取り組み状況

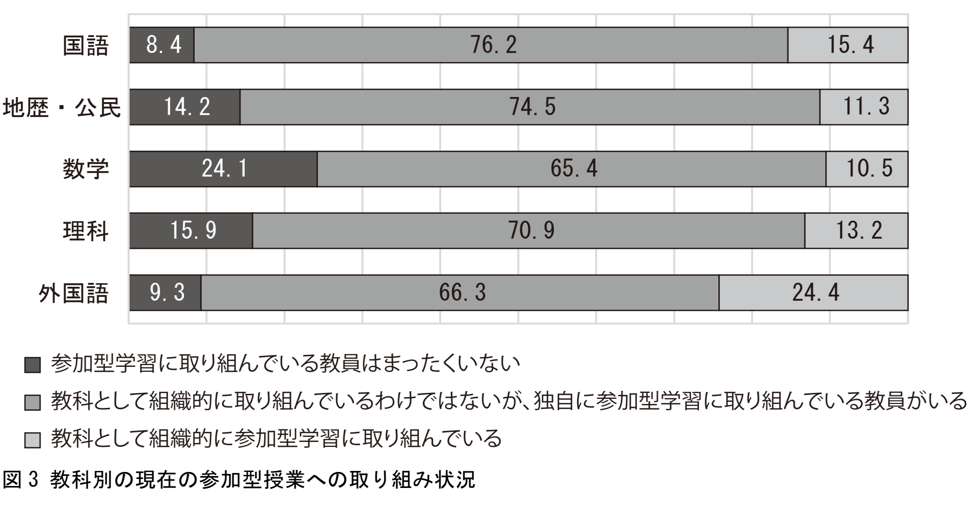


図 3 教科別の現在の参加型授業への取り組み状況

表 6 教科別の現在の参加型授業への取り組み状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない	140	8.4	233	14.2	411	24.1	263	15.9	150	9.3	1,197	14.5
教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる	1,268	76.2	1,226	74.5	1,113	65.4	1,176	70.9	1,067	66.3	5,850	70.7
教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる	256	15.4	186	11.3	179	10.5	219	13.2	392	24.4	1,232	14.9
有効回答数	1,664	100.0	1,645	100.0	1,703	100.0	1,658	100.0	1,609	100.0	8,279	100.0
無効回答	1		0		1		0		0		2	
無回答	83		72		46		68		124		393	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 各教科での現在の参加型授業への取り組み状況について、「参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない」「教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる」「教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 7 現在の参加型授業への組織的な取り組みの内容（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている	78	32.0	79	45.9	53	32.5	97	45.5	160	41.6	467	39.7
教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している	78	32.0	51	29.7	40	24.5	72	33.8	153	39.7	394	33.5
教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている	158	64.8	110	64.0	106	65.0	113	53.1	220	57.1	707	60.1
有効回答数	244		172		163		213		385		1,177	
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無回答	96		86		63		74		131		450	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 各教科での現在の参加型授業への組織的な取り組みについて、「教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている」「教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している」「教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。

3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

2.2. 参加型授業への取り組み状況と今後の見通し

各教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通しは、「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」(22.5%)、「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」(25.2%)、「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」(0.3%)と、「すでに取り組んでいる」と回答した教科は全体の 48.0%であった(表 8)。2015 年度の 43.9%と比べると、約 4 ポイントの増加となっている。

教科別に見ると、国語科が 54.1%と最も高く、外国語科 53.6%、理科 51.0%、地歴・公民科 46.6%、数学科 34.5%と続いた。2015 年度との比較では、数学科、理科で約 8 ポイントの増加であった一方で、国語科、地歴・公民科、外国語科は約 1～2 ポイントの増加に留まった。(表 8、図 4)

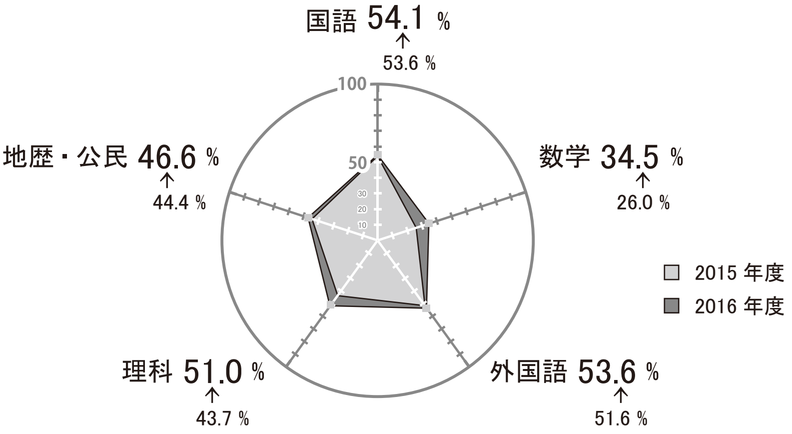


図 4 教科別の参加型授業実施率と 2015 年度からの変化

表 8 参加型授業への取り組み状況と今後の見通し(単一選択)

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
今後取り組む見込みはない	47	2.8	52	3.2	105	6.3	45	2.8	23	1.4	272	3.3
ここ数年間で取り組む予定はない	174	10.4	188	11.5	357	21.5	216	13.2	142	8.6	1,077	13.1
ここ数年間で取り組むことを検討している	518	30.9	583	35.8	599	36.1	503	30.7	537	32.7	2,740	33.2
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	29	1.7	46	2.8	27	1.6	38	2.3	61	3.7	201	2.4
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	4	0.2	5	0.3	4	0.2	7	0.4	2	0.1	22	0.3
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	487	29.1	406	24.9	289	17.4	455	27.8	442	26.9	2,079	25.2
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	416	24.8	348	21.4	280	16.9	372	22.7	436	26.5	1,852	22.5
すでに取り組んでいる(小計)	907	54.1	759	46.6	573	34.5	834	51.0	880	53.6	3,953	48.0
有効回答数	1,675	100.0	1,628	100.0	1,661	100.0	1,636	100.0	1,643	100.0	8,243	100.0
無効回答	1		2		1		3		0		7	
無回答	72		87		88		87		90		424	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

(注) 1. 教科主任調査の結果による。

2. 各教科での参加型授業への取り組み状況と今後の見通しについて、「今後取り組む見込みはない」「ここ数年間で取り組む予定はない」「ここ数年間で取り組むことを検討している」「ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である」「すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である」「すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

2.3. 各科目における参加型授業への取り組み状況

各教科における科目別・学年別のアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実施状況を表 9～表 41 に示した。また、平均的な学校における実施率として、各回答の中央値を図 5～図 14 に示した。

なお、実施率については、教科や科目によって本調査における参加型授業の定義の当てはまりやすさに違いがあるため、教科・科目間で単純に比較することはできず、データには解釈の余地があることに留意されたい。また、あくまで本調査における参加型授業の定義にあてはまると回答者が判断した授業の主観的な割合であることを付記しておく。

2.3.1. 国語科の各科目における参加型授業への取り組み状況

国語科における参加型授業の実施率の中央値は、10～25%の科目が多く、いずれの科目においても多くの授業で参加型授業が実施されていた。特に、3 年の国語表現では 50～75%と、かなり高い実施率を示した。(図 5)

2015 年度（図 6）と比べると、1 年の現代文 A・B で実施率が伸びている。

科目	1年	2年	3年
国語総合	10～25% (1,548)	10～25% (142)	1～10% (57)
国語表現	10～25% (39)	25～50% (228)	50～75% (646)
現代文A・B	10～25% (72)	10～25% (1,483)	10～25% (1,421)
古典A・B	1～10% (72)	10～25% (1,383)	10～25% (1,322)

凡例：0%／1～10%／10～25%／25～50%／50～75%／75～100%

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 各科目で行われているすべての授業のうち、参加型授業がどの程度の割合で実施されているかについて、「0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）」「およそ 10%未満の授業で取り入れている」「およそ 10%以上 25%未満の授業で取り入れている」「およそ 25%以上 50%未満の授業で取り入れている」「およそ 50%以上 75%未満の授業で取り入れている」「およそ 75%以上の授業で取り入れている」「授業が設置されていない」の選択肢からあてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 括弧（ ）内は、授業を設置している学校の数を示している。

以上の注は図 6～図 14、表 9～表 41 についても同様。

図 5 2016 年度の国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
国語総合	10～25% (2,155)	10～25% (276)	1～10% (153)
国語表現	10～25% (97)	50～75% (368)	75～100% (925)
現代文A・B	1～10% (149)	10～25% (2,087)	10～25% (2,016)
古典A・B	1～10% (154)	10～25% (1,977)	10～25% (1,899)

凡例：0%／1～10%／10～25%／25～50%／50～75%／75～100%

図 6 2015 年度の国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 9 参加型授業の実施状況（国語総合）（単一選択）

国語総合	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	116	7.5	26	18.3	20	35.1
1～10%	302	19.5	36	25.4	17	29.8
10%～25%	385	24.9	42	29.6	11	19.3
25%～50%	290	18.7	13	9.2	4	7.0
50%～75%	324	20.9	16	11.3	2	3.5
75%～100%	131	8.5	9	6.3	3	5.3
有効回答数	1,548	100.0	142	100.0	57	100.0
授業が設置されていない	16		1,439		1,523	
無効回答	2		0		0	
無回答	182		167		168	
合計	1,748		1,748		1,748	

表 10 参加型授業の実施状況（国語表現）（単一選択）

国語表現	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	12	30.8	25	11.0	42	6.5
1～10%	7	17.9	22	9.6	48	7.4
10%～25%	5	12.8	34	14.9	75	11.6
25%～50%	3	7.7	40	17.5	122	18.9
50%～75%	8	20.5	45	19.7	174	26.9
75%～100%	4	10.3	62	27.2	185	28.6
有効回答数	39	100.0	228	100.0	646	100.0
授業が設置されていない	1,161		978		544	
無効回答	0		0		1	
無回答	548		542		557	
合計	1,748		1,748		1,748	

表 11 参加型授業の実施状況（現代文 A・B）（単一選択）

現代文A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	15	20.8	128	8.6	167	11.8
1～10%	20	27.8	316	21.3	343	24.1
10%～25%	18	25.0	377	25.4	359	25.3
25%～50%	6	8.3	278	18.7	235	16.5
50%～75%	9	12.5	274	18.5	220	15.5
75%～100%	4	5.6	110	7.4	97	6.8
有効回答数	72	100.0	1,483	100.0	1,421	100.0
授業が設置されていない	1,490		72		133	
無効回答	0		2		2	
無回答	186		191		192	
合計	1,748		1,748		1,748	

表 12 参加型授業の実施状況（古典Ａ・Ｂ）（単一選択）

古典A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	22	30.6	221	16.0	253	19.1
1～10%	22	30.6	351	25.4	342	25.9
10%～25%	15	20.8	315	22.8	299	22.6
25%～50%	5	6.9	207	15.0	174	13.2
50%～75%	5	6.9	208	15.0	173	13.1
75%～100%	3	4.2	81	5.9	81	6.1
有効回答数	72	100.0	1,383	100.0	1,322	100.0
授業が設置されていない	1,438		121		182	
無効回答	0		1		1	
無回答	238		243		243	
合計	1,748		1,748		1,748	

2.3.2. 地歴・公民科の各科目における参加型授業への取り組み状況

地歴・公民科における参加型授業の実施率の中央値は、どの科目でも全体的に 1～10%であり、1 年の現代社会において 10～25%とやや高い割合を示した。前節で確認したように、教科としては 46.6%と約半数の学校で実施しているが、その学校の中で実施している授業の割合としては、多くの科目で 10%未満に留まっていることがわかった。(図 7)

2015 年度（図 8）と比べると、中央値には実施率の変化は表れていない。とはいえ、どの科目においても、「0%（実施されていない)」の割合は 2015 年度よりも減っていた。地歴・公民科において、参加型授業にまったく取り組んでいないという学校は減っていると言える。

科目	1年	2年	3年
世界史A・B	1～10% (747)	1～10% (1,154)	1～10% (1,090)
日本史A・B	1～10% (277)	1～10% (1,297)	1～10% (1,288)
地理A・B	1～10% (332)	1～10% (1,012)	1～10% (1,060)
現代社会	10～25% (948)	1～10% (392)	1～10% (518)
倫理	1～10% (130)	1～10% (301)	1～10% (654)
政治経済	1～10% (135)	1～10% (337)	1～10% (1,076)

0%
1～10%
10～25%
25～50%
50～75%
75～100%

図 7 2016 年度の地歴・公民科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
世界史A・B	1～10% (992)	1～10% (1,590)	1～10% (1,440)
日本史A・B	1～10% (373)	1～10% (1,743)	1～10% (1,768)
地理A・B	1～10% (417)	1～10% (1,384)	1～10% (1,413)
現代社会	10～25% (1,244)	1～10% (508)	1～10% (706)
倫理	1～10% (153)	1～10% (388)	1～10% (905)
政治経済	1～10% (153)	1～10% (402)	1～10% (1,459)

0%
1～10%
10～25%
25～50%
50～75%
75～100%

図 8 2015 年度の地歴・公民科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 13 参加型授業の実施状況（世界史Ａ・Ｂ）（単一選択）

世界史A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	249	33.3	320	27.7	366	33.6
1～10%	194	26.0	302	26.2	311	28.5
10%～25%	125	16.7	226	19.6	174	16.0
25%～50%	72	9.6	136	11.8	118	10.8
50%～75%	66	8.8	103	8.9	70	6.4
75%～100%	41	5.5	67	5.8	51	4.7
有効回答数	747	100.0	1,154	100.0	1,090	100.0
授業が設置されていない	734		326		388	
無効回答	0		0		1	
無回答	236		237		238	
合計	1,717		1,717		1,717	

表 14 参加型授業の実施状況（日本史Ａ・Ｂ）（単一選択）

日本史A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	104	37.5	358	27.6	411	31.9
1～10%	65	23.5	359	27.7	353	27.4
10%～25%	56	20.2	254	19.6	221	17.2
25%～50%	24	8.7	158	12.2	148	11.5
50%～75%	20	7.2	106	8.2	93	7.2
75%～100%	8	2.9	62	4.8	62	4.8
有効回答数	277	100.0	1,297	100.0	1,288	100.0
授業が設置されていない	1,182		158		168	
無回答	258		262		261	
合計	1,717		1,717		1,717	

表 15 参加型授業の実施状況（地理Ａ・Ｂ）（単一選択）

地理A・B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	101	30.4	269	26.6	303	28.6
1～10%	81	24.4	262	25.9	278	26.2
10%～25%	56	16.9	185	18.3	188	17.7
25%～50%	53	16.0	128	12.6	137	12.9
50%～75%	25	7.5	92	9.1	77	7.3
75%～100%	16	4.8	76	7.5	77	7.3
有効回答数	332	100.0	1,012	100.0	1,060	100.0
授業が設置されていない	1,033		350		303	
無効回答	1		1		1	
無回答	351		354		353	
合計	1,717		1,717		1,717	

表 16 参加型授業の実施状況（現代社会）（単一選択）

現代社会	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	170	17.9	100	25.5	123	23.7
1～10%	222	23.4	99	25.3	140	27.0
10%～25%	214	22.6	78	19.9	109	21.0
25%～50%	141	14.9	45	11.5	66	12.7
50%～75%	108	11.4	38	9.7	47	9.1
75%～100%	93	9.8	32	8.2	33	6.4
有効回答数	948	100.0	392	100.0	518	100.0
授業が設置されていない	484		1,042		917	
無回答	285		283		282	
合計	1,717		1,717		1,717	

表 17 参加型授業の実施状況（倫理）（単一選択）

倫理	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	52	40.0	100	33.2	218	33.3
1～10%	32	24.6	73	24.3	184	28.1
10%～25%	18	13.8	45	15.0	89	13.6
25%～50%	16	12.3	30	10.0	65	9.9
50%～75%	6	4.6	27	9.0	45	6.9
75%～100%	6	4.6	26	8.6	53	8.1
有効回答数	130	100.0	301	100.0	654	100.0
授業が設置されていない	971		800		444	
無回答	616		616		619	
合計	1,717		1,717		1,717	

表 18 参加型授業の実施状況（政治経済）（単一選択）

政治経済	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	51	37.8	105	31.2	287	26.7
1～10%	32	23.7	93	27.6	305	28.3
10%～25%	19	14.1	57	16.9	188	17.5
25%～50%	14	10.4	35	10.4	137	12.7
50%～75%	13	9.6	24	7.1	85	7.9
75%～100%	6	4.4	23	6.8	74	6.9
有効回答数	135	100.0	337	100.0	1,076	100.0
授業が設置されていない	1,195		988		245	
無回答	387		392		396	
合計	1,717		1,717		1,717	

2.3.3. 数学科の各科目における参加型授業への取り組み状況

数学科における参加型授業の実施率の中央値は、ほとんどの科目で 1～10%であり、3 年の数学活用において 10～25%とやや高かったものの、全体としては低い割合を示した。前節で確認したように、教科としては 34.5%と約 1/3 の学校で実施されているが、その学校の中で実施している授業の割合としては、多くの科目で 10%未満に留まっていることがわかった。(図 9)

一方で、多くの科目で半数以上が「0%（実施されていない)」であった 2015 年度（図 10）と比べると、2016 年度は「0%（実施されていない)」の科目は減り、「1～10%」の科目が増加している（図 9)。数学科において、この 1 年の間に参加型授業に取り組み始めた学校の数は、着実に増加していると言える。

科目	1年	2年	3年
数学Ⅰ	1～10% (1,512)	1～10% (133)	1～10% (119)
数学Ⅱ	1～10% (322)	1～10% (1,439)	1～10% (563)
数学Ⅲ	0% (48)	1～10% (271)	1～10% (1,238)
数学A	1～10% (1,323)	1～10% (313)	1～10% (223)
数学B	1～10% (92)	1～10% (1,289)	1～10% (508)
数学活用	1～10% (17)	1～10% (35)	10～25% (138)

0% / 1～10% / 10～25% / 25～50% / 50～75% / 75～100%

図 9 2016 年度の数学科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
数学Ⅰ	1～10% (2,074)	0% (249)	0% (248)
数学Ⅱ	1～10% (507)	1～10% (1,998)	0% (807)
数学Ⅲ	0% (135)	1～10% (447)	1～10% (1,738)
数学A	1～10% (1,855)	0% (501)	0% (420)
数学B	0% (178)	1～10% (1,786)	0% (794)
数学活用	0% (35)	0% (62)	1～10% (206)

0% / 1～10% / 10～25% / 25～50% / 50～75% / 75～100%

図 10 2015 年度の数学科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 19 参加型授業の実施状況（数学Ⅰ）（単一選択）

数学Ⅰ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	361	23.9	61	45.9	57	47.9
1～10%	400	26.5	28	21.1	24	20.2
10%～25%	287	19.0	21	15.8	12	10.1
25%～50%	174	11.5	7	5.3	7	5.9
50%～75%	189	12.5	7	5.3	10	8.4
75%～100%	101	6.7	9	6.8	9	7.6
有効回答数	1,512	100.0	133	100.0	119	100.0
授業が設置されていない	39		1,420		1,429	
無効回答	1		1		1	
無回答	198		196		201	
合計	1,750		1,750		1,750	

表 20 参加型授業の実施状況（数学Ⅱ）（単一選択）

数学Ⅱ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	101	31.4	417	29.0	217	38.5
1～10%	81	25.2	364	25.3	131	23.3
10%～25%	56	17.4	271	18.8	82	14.6
25%～50%	33	10.2	166	11.5	52	9.2
50%～75%	30	9.3	137	9.5	48	8.5
75%～100%	21	6.5	84	5.8	33	5.9
有効回答数	322	100.0	1,439	100.0	563	100.0
授業が設置されていない	1,204		92		959	
無効回答	0		2		2	
無回答	224		217		226	
合計	1,750		1,750		1,750	

表 21 参加型授業の実施状況（数学Ⅲ）（単一選択）

数学Ⅲ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	31	64.6	97	35.8	481	38.9
1～10%	6	12.5	69	25.5	300	24.2
10%～25%	5	10.4	37	13.7	148	12.0
25%～50%	2	4.2	33	12.2	107	8.6
50%～75%	1	2.1	20	7.4	103	8.3
75%～100%	3	6.3	15	5.5	99	8.0
有効回答数	48	100.0	271	100.0	1,238	100.0
授業が設置されていない	1,405		1,183		209	
無効回答	0		1		3	
無回答	297		295		300	
合計	1,750		1,750		1,750	

表 22 参加型授業の実施状況（数学 A）（単一選択）

数学A	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	364	27.5	134	42.8	104	46.6
1～10%	330	24.9	60	19.2	43	19.3
10%～25%	243	18.4	46	14.7	25	11.2
25%～50%	155	11.7	27	8.6	16	7.2
50%～75%	145	11.0	24	7.7	21	9.4
75%～100%	86	6.5	22	7.0	14	6.3
有効回答数	1,323	100.0	313	100.0	223	100.0
授業が設置されていない	196		1,207		1,296	
無効回答	1		2		2	
無回答	230		228		229	
合計	1,750		1,750		1,750	

表 23 参加型授業の実施状況（数学 B）（単一選択）

数学B	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	42	45.7	406	31.5	209	41.1
1～10%	20	21.7	316	24.5	113	22.2
10%～25%	12	13.0	217	16.8	67	13.2
25%～50%	10	10.9	151	11.7	38	7.5
50%～75%	3	3.3	115	8.9	43	8.5
75%～100%	5	5.4	84	6.5	38	7.5
有効回答数	92	100.0	1,289	100.0	508	100.0
授業が設置されていない	1,399		206		981	
無効回答	0		3		1	
無回答	259		252		260	
合計	1,750		1,750		1,750	

表 24 参加型授業の実施状況（数学活用）（単一選択）

数学活用	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	7	41.2	12	34.3	43	31.2
1～10%	3	17.6	7	20.0	25	18.1
10%～25%	1	5.9	2	5.7	17	12.3
25%～50%	1	5.9	4	11.4	12	8.7
50%～75%	1	5.9	5	14.3	15	10.9
75%～100%	4	23.5	5	14.3	26	18.8
有効回答数	17	100.0	35	100.0	138	100.0
授業が設置されていない	1,036		1,018		914	
無回答	697		697		698	
合計	1,750		1,750		1,750	

2.3.4. 理科の各科目における参加型授業への取り組み状況

理科における参加型授業の実施率の中央値は、多くの科目で 1～10%、あるいは 10～25%であった。理科課題研究においては 1 年～3 年まで 75～100%、50～75%と非常に高い割合を示した。前節で確認したように、教科としては 51.0%と約半数の学校で実施しているが、その学校の中で実施している授業の割合としては、多くの科目で 25%未満に留まっていることがわかった。(図 11)

2015 年度とは質問時の科目の分け方が異なるため単純に比較することはできないが、2015 年度（図 12）と比べると 10～25%という科目が増加しており（図 11)、全体として参加型授業への取り組みは増えていると言える。

科目	1年	2年	3年
科学と人間生活	1～10% (362)	1～10% (148)	1～10% (109)
物理基礎	1～10% (585)	10～25% (882)	1～10% (212)
物理	1～10% (30)	1～10% (794)	1～10% (1,242)
化学基礎	10～25% (898)	1～10% (761)	1～10% (371)
化学	1～10% (36)	10～25% (995)	1～10% (1,273)
生物基礎	1～10% (937)	10～25% (780)	1～10% (436)
生物	1～10% (43)	1～10% (868)	1～10% (1,303)

科目	1年	2年	3年
地学基礎	1～10% (190)	1～10% (498)	1～10% (351)
地学	1～10% 10～25% (8)	10～25% (43)	10～25% (115)
理科課題研究	75～100% (43)	75～100% (113)	50～75% (127)

0%
1～10%
10～25%
25～50%
50～75%
75～100%

図 11 2016 年度の理科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
科学と人間生活	1～10% (500)	1～10% (226)	1～10% (188)
物理基礎・物理	1～10% (828)	1～10% (1,791)	1～10% (1,729)
化学基礎・化学	1～10% (1,302)	1～10% (1,810)	1～10% (1,783)
生物基礎・生物	1～10% (1,333)	1～10% (1,746)	1～10% (1,853)
地学基礎・地学	1～10% (299)	1～10% (713)	1～10% (701)
理科課題研究	75～100% (78)	75～100% (171)	75～100% (187)

0%
1～10%
10～25%
25～50%
50～75%
75～100%

図 12 2015 年度の理科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 25 参加型授業の実施状況（科学と人間生活）（単一選択）

科学と人間生活	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	103	28.5	37	25.0	30	27.5
1～10%	85	23.5	41	27.7	25	22.9
10%～25%	76	21.0	21	14.2	15	13.8
25%～50%	42	11.6	22	14.9	18	16.5
50%～75%	29	8.0	16	10.8	12	11.0
75%～100%	27	7.5	11	7.4	9	8.3
有効回答数	362	100.0	148	100.0	109	100.0
授業が設置されていない	903		1,117		1,155	
無回答	461		461		462	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 26 参加型授業の実施状況（物理基礎）（単一選択）

物理基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	151	25.8	206	23.4	78	36.8
1～10%	154	26.3	204	23.1	37	17.5
10%～25%	115	19.7	193	21.9	35	16.5
25%～50%	59	10.1	96	10.9	21	9.9
50%～75%	60	10.3	99	11.2	21	9.9
75%～100%	46	7.9	84	9.5	20	9.4
有効回答数	585	100.0	882	100.0	212	100.0
授業が設置されていない	901		609		1,276	
無効回答	1		0		0	
無回答	239		235		238	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 27 参加型授業の実施状況（物理）（単一選択）

物理	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	12	40.0	185	23.3	320	25.8
1～10%	6	20.0	221	27.8	318	25.6
10%～25%	3	10.0	153	19.3	244	19.6
25%～50%	4	13.3	89	11.2	148	11.9
50%～75%	4	13.3	79	9.9	110	8.9
75%～100%	1	3.3	67	8.4	102	8.2
有効回答数	30	100.0	794	100.0	1,242	100.0
授業が設置されていない	1,445		670		214	
無効回答	0		1		1	
無回答	251		261		269	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 28 参加型授業の実施状況（化学基礎）（単一選択）

化学基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	224	24.9	190	25.0	130	35.0
1～10%	220	24.5	198	26.0	84	22.6
10%～25%	202	22.5	172	22.6	70	18.9
25%～50%	102	11.4	81	10.6	42	11.3
50%～75%	81	9.0	73	9.6	25	6.7
75%～100%	69	7.7	47	6.2	20	5.4
有効回答数	898	100.0	761	100.0	371	100.0
授業が設置されていない	609		750		1,143	
無効回答	0		2		0	
無回答	219		213		212	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 29 参加型授業の実施状況（化学）（単一選択）

化学	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	14	38.9	242	24.3	344	27.0
1～10%	7	19.4	245	24.6	311	24.4
10%～25%	4	11.1	223	22.4	286	22.5
25%～50%	6	16.7	125	12.6	138	10.8
50%～75%	3	8.3	83	8.3	90	7.1
75%～100%	2	5.6	77	7.7	104	8.2
有効回答数	36	100.0	995	100.0	1,273	100.0
授業が設置されていない	1,449		470		188	
無効回答	0		1		2	
無回答	241		260		263	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 30 参加型授業の実施状況（生物基礎）（単一選択）

生物基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	224	23.9	174	22.3	136	31.2
1～10%	271	28.9	195	25.0	108	24.8
10%～25%	195	20.8	175	22.4	76	17.4
25%～50%	94	10.0	101	12.9	56	12.8
50%～75%	83	8.9	81	10.4	32	7.3
75%～100%	70	7.5	54	6.9	28	6.4
有効回答数	937	100.0	780	100.0	436	100.0
授業が設置されていない	564		733		1,076	
無効回答	1		0		0	
無回答	224		213		214	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 31 参加型授業の実施状況（生物）（単一選択）

生物	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	14	32.6	195	22.5	322	24.7
1～10%	8	18.6	259	29.8	346	26.6
10%～25%	9	20.9	180	20.7	277	21.3
25%～50%	4	9.3	90	10.4	143	11.0
50%～75%	4	9.3	75	8.6	102	7.8
75%～100%	4	9.3	69	7.9	113	8.7
有効回答数	43	100.0	868	100.0	1,303	100.0
授業が設置されていない	1,448		605		159	
無効回答	0		1		1	
無回答	235		252		263	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 32 参加型授業の実施状況（地学基礎）（単一選択）

地学基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	46	24.2	125	25.1	110	31.3
1～10%	55	28.9	132	26.5	91	25.9
10%～25%	34	17.9	110	22.1	68	19.4
25%～50%	15	7.9	62	12.4	32	9.1
50%～75%	24	12.6	29	5.8	17	4.8
75%～100%	16	8.4	40	8.0	33	9.4
有効回答数	190	100.0	498	100.0	351	100.0
授業が設置されていない	970		735		844	
無回答	566		493		531	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 33 参加型授業の実施状況（地学）（単一選択）

地学	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	2	25.0	8	18.6	21	18.3
1～10%	2	25.0	10	23.3	27	23.5
10%～25%	2	25.0	10	23.3	32	27.8
25%～50%	0	0.0	6	14.0	13	11.3
50%～75%	1	12.5	3	7.0	12	10.4
75%～100%	1	12.5	6	14.0	10	8.7
有効回答数	8	100.0	43	100.0	115	100.0
授業が設置されていない	1,154		1,116		1,037	
無回答	564		567		574	
合計	1,726		1,726		1,726	

表 34 参加型授業の実施状況（理科課題研究）（単一選択）

理科課題研究	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	3	7.0	5	4.4	13	10.2
1～10%	1	2.3	6	5.3	11	8.7
10%～25%	1	2.3	3	2.7	8	6.3
25%～50%	3	7.0	7	6.2	14	11.0
50%～75%	5	11.6	17	15.0	18	14.2
75%～100%	30	69.8	75	66.4	63	49.6
有効回答数	43	100.0	113	100.0	127	100.0
授業が設置されていない	1,101		1,029		1,011	
無回答	582		584		588	
合計	1,726		1,726		1,726	

2.3.5. 外国語科の各科目における参加型授業への取り組み状況

外国語科における参加型授業の実施率の中央値は、多くの授業で 10～25%、あるいは 25～50%と、かなり高い割合を示した。特に、英語会話においては 1 年～3 年まで 50～75%と非常に高い割合を示した。教科としては 53.6%と半数以上の学校で実施されており、各学校の中でも多くの科目で参加型授業が実施されていることがわかった。(図 13)

2015 年度(図 14)と比べると、1～10%という科目が減り、25～50%という科目が増えている(図 13)。外国語科において、参加型授業への取り組みは 2015 年度よりも増えていると言える。

科目	1年	2年	3年
コミュニケーション英語基礎	10～25% (73)	10～25% (10)	10～25% (9)
コミュニケーション英語Ⅰ	25～50% (1,502)	10～25% (126)	10～25% (68)
コミュニケーション英語Ⅱ	25～50% (68)	25～50% (1,439)	10～25% (316)
コミュニケーション英語Ⅲ	10～25% (49)	25～50% (48)	10～25% (1,215)
英語表現Ⅰ	25～50% (1,073)	10～25% (312)	10～25% (221)
英語表現Ⅱ	25～50% (45)	25～50% (981)	10～25% (929)
英語会話	50～75% (176)	50～75% (197)	50～75% (356)

0%
1～10%
10～25%
25～50%
50～75%
75～100%

図 13 2016 年度の外国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

科目	1年	2年	3年
コミュニケーション英語基礎	10～25% (125)	1～10% (22)	1～10% (22)
コミュニケーション英語I	25～50% (2,120)	10～25% (247)	10～25% (161)
コミュニケーション英語II	1～10% (154)	10～25% (2074)	10～25% (530)
コミュニケーション英語III	1～10% (121)	1～10% (130)	10～25% (1,781)
英語表現I	10～25% (1,563)	10～25% (566)	10～25% (386)
英語表現II	1～10% (134)	10～25% (1,386)	10～25% (1,346)
英語会話	50～75% (255)	50～75% (311)	50～75% (525)

0%
1～10%
10～25%
25～50%
50～75%
75～100%

図 14 2015 年度の外国語科における科目別・学年別の参加型授業の実施状況

表 35 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語基礎）（単一選択）

コミュニケーション英語基礎	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	9	12.3	2	20.0	3	33.3
1～10%	19	26.0	0	0.0	0	0.0
10%～25%	17	23.3	4	40.0	3	33.3
25%～50%	12	16.4	2	20.0	2	22.2
50%～75%	12	16.4	2	20.0	1	11.1
75%～100%	4	5.5	0	0.0	0	0.0
有効回答数	73	100.0	10	100.0	9	100.0
授業が設置されていない	749		813		815	
無回答	911		910		909	
合計	1,733		1,733		1,733	

表 36 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語Ⅰ）（単一選択）

コミュニケーション英語Ⅰ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	102	6.8	16	12.7	6	8.8
1～10%	186	12.4	28	22.2	13	19.1
10%～25%	337	22.4	27	21.4	19	27.9
25%～50%	331	22.0	18	14.3	10	14.7
50%～75%	375	25.0	26	20.6	13	19.1
75%～100%	171	11.4	11	8.7	7	10.3
有効回答数	1,502	100.0	126	100.0	68	100.0
授業が設置されていない	40		1,419		1,479	
無効回答	2		0		1	
無回答	189		188		185	
合計	1,733		1,733		1,733	

表 37 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語Ⅱ）（単一選択）

コミュニケーション英語Ⅱ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	5	7.4	108	7.5	49	15.5
1～10%	10	14.7	197	13.7	56	17.7
10%～25%	16	23.5	337	23.4	66	20.9
25%～50%	13	19.1	316	22.0	65	20.6
50%～75%	19	27.9	334	23.2	60	19.0
75%～100%	5	7.4	147	10.2	20	6.3
有効回答数	68	100.0	1,439	100.0	316	100.0
授業が設置されていない	1,448		72		1,200	
無効回答	1		1		0	
無回答	216		221		217	
合計	1,733		1,733		1,733	

表 38 参加型授業の実施状況（コミュニケーション英語Ⅲ）（単一選択）

コミュニケーション英語Ⅲ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	5	10.2	8	16.7	141	11.6
1～10%	10	20.4	7	14.6	258	21.2
10%～25%	10	20.4	8	16.7	276	22.7
25%～50%	11	22.4	10	20.8	227	18.7
50%～75%	10	20.4	9	18.8	212	17.4
75%～100%	3	6.1	6	12.5	101	8.3
有効回答数	49	100.0	48	100.0	1,215	100.0
授業が設置されていない	1,342		1,342		164	
無効回答	0		0		3	
無回答	342		343		351	
合計	1,733		1,733		1,733	

表 39 参加型授業の実施状況（英語表現Ⅰ）（単一選択）

英語表現Ⅰ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	92	8.6	41	13.1	34	15.4
1～10%	177	16.5	51	16.3	36	16.3
10%～25%	224	20.9	67	21.5	47	21.3
25%～50%	204	19.0	57	18.3	35	15.8
50%～75%	250	23.3	67	21.5	44	19.9
75%～100%	126	11.7	29	9.3	25	11.3
有効回答数	1,073	100.0	312	100.0	221	100.0
授業が設置されていない	365		1,128		1,219	
無効回答	1		0		0	
無回答	294		293		293	
合計	1,733		1,733		1,733	

表 40 参加型授業の実施状況（英語表現Ⅱ）（単一選択）

英語表現Ⅱ	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	4	8.9	98	10.0	123	13.2
1～10%	9	20.0	185	18.9	197	21.2
10%～25%	8	17.8	199	20.3	211	22.7
25%～50%	7	15.6	206	21.0	164	17.7
50%～75%	13	28.9	205	20.9	154	16.6
75%～100%	4	8.9	88	9.0	80	8.6
有効回答数	45	100.0	981	100.0	929	100.0
授業が設置されていない	1,315		377		417	
無効回答	0		1		1	
無回答	373		374		386	
合計	1,733		1,733		1,733	

表 41 参加型授業の実施状況（英語会話）（単一選択）

英語会話	1年		2年		3年	
	度数	%	度数	%	度数	%
0%（実施されていない）	9	5.1	16	8.1	21	5.9
1～10%	9	5.1	14	7.1	27	7.6
10%～25%	11	6.3	16	8.1	26	7.3
25%～50%	22	12.5	26	13.2	55	15.4
50%～75%	58	33.0	59	29.9	94	26.4
75%～100%	67	38.1	66	33.5	133	37.4
有効回答数	176	100.0	197	100.0	356	100.0
授業が設置されていない	858		835		672	
無効回答	0		1		1	
無回答	699		700		704	
合計	1,733		1,733		1,733	

2.4. 参加型授業の推進に向けた教科主任の行動

参加型授業を推進する際の教科主任の役割を明らかにするため、参加型授業の推進に向けて教科主任としてどのようなことに取り組んできたか、22 項目の質問について「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

その結果、「教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている」（M=4.10, SD=0.865）、「教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている」（M=3.86, SD=1.147）、「各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている」（M=3.75, SD=1.002）などの働きかけが上位であった。一方、「教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している」（M=2.16, SD=1.233）、「各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している」（M=2.40, SD=1.160）、「校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている」（M=2.51, SD=1.210）などの働きかけが下位であった。（表 42、図 15）

因子分析の結果、これらの教科主任の行動は、「AL [注 4] 方針の明確化」「AL への動機づけ」「教科でのチームづくり」「AL の質の点検」「学習機会の支援」「役職を越えた教師間コミュニケーション」の 6 つに大きく分類できた（いずれの因子にも含まれなかった「教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている」の項目は「教員同士の授業実践の公開」という独自の分類を設けた）。

教科別の結果を表 43 に示した。分散分析の結果 [注 5]、「AL 方針の明確化」「AL への動機づけ」「教科でのチームづくり」「AL の質の点検」において、教科ごとの教科主任の行動に 5%水準で有意な差が見られた。一方で、効果量 [注 6] の値は小さかった。（「AL 方針の明確化」で $F(4,1359)=5.876$, $p<.001$, $\eta^2=.017$、「AL への動機づけ」で $F(4,1339)=4.338$, $p<.01$, $\eta^2=.013$、「教科でのチームづくり」で $F(4,1346)=7.050$, $p<.001$, $\eta^2=.021$、「AL の質の点検」で $F(4,1353)=4.765$, $p<.05$, $\eta^2=.014$、「学習機会の支援」で $F(4,1351)=1.773$, $n.s.$, $\eta^2=.005$、「役職を越えた教師間コミュニケーション」で $F(4,1359)=2.083$, $n.s.$, $\eta^2=.006$、「教員同士の授業実践の公開」で $F(4,1360)=2.085$, $n.s.$, $\eta^2=.006$）

従って、アクティブラーニングの推進に向けた教科主任の行動に、教科による差はほとんどないと言える。

記号凡例

M	平均値
SD	標準偏差
F	分散分析の統計量 F 値
p	有意確率
$n.s.$	5%水準で統計的に非有意(not significant)
η^2	差の効果量の値

（注 4）因子名においてはアクティブラーニングを AL と省略する。
（注 5）分散分析表は割愛する。
（注 6）効果量については、水本・竹内（2008）が、η^2=.01 以上で効果量小、η^2=.06 以上で効果量中、η^2=.14 以上で効果量大という基準を示している。

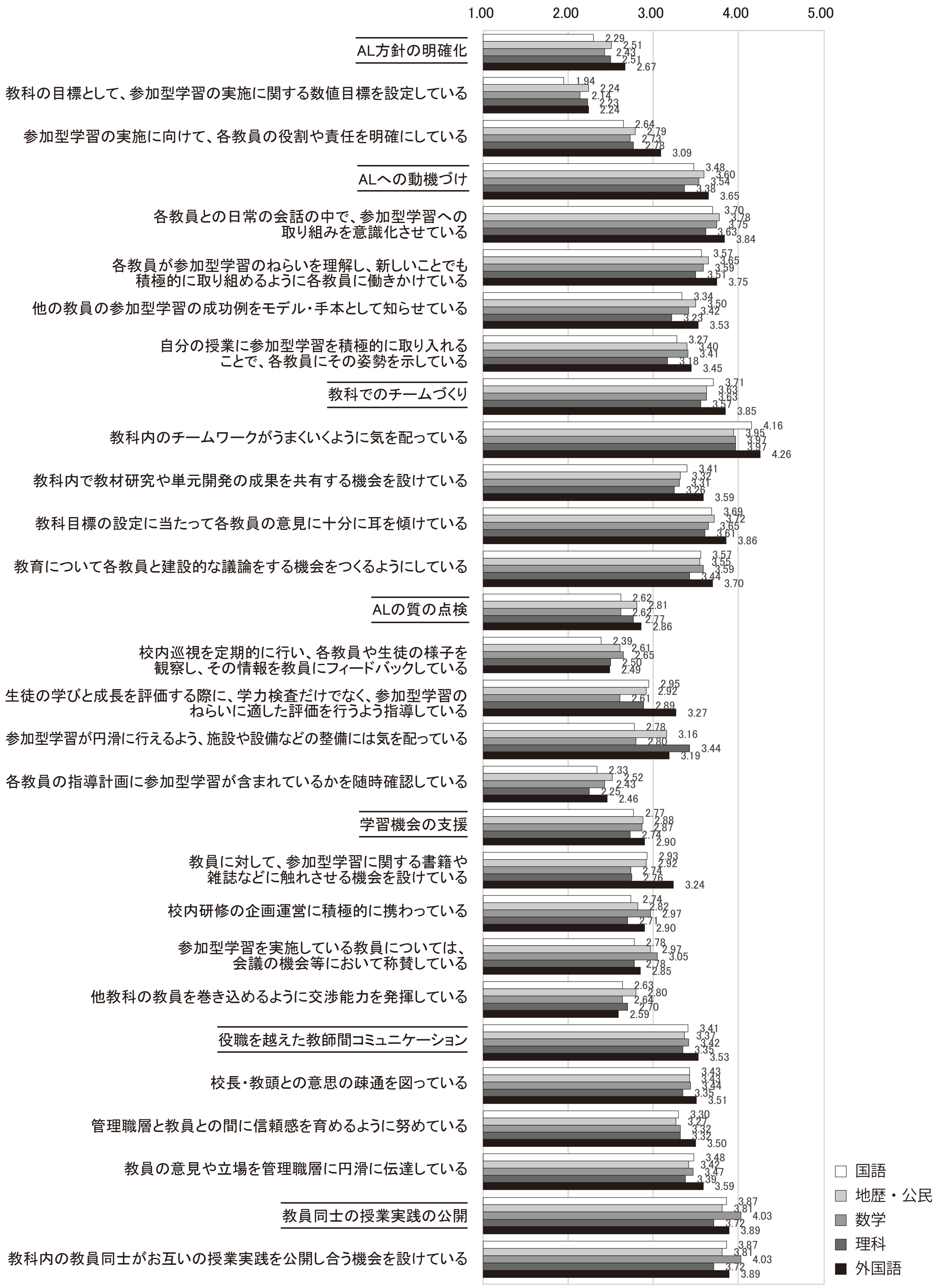


図 15 参加型授業の推進に向けた教科主任の行動

表 42 参加型授業の推進に向けた教科主任の行動（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
AL方針の明確化	1,364	2.51	1.049			
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	1,367	2.16	1.233	7,047	260	8,674
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	1,365	2.85	1.270	7,047	262	8,674
ALへの動機づけ	1,344	3.54	0.871			
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	1,359	3.75	1.002	7,047	268	8,674
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	1,362	3.63	1.030	7,047	265	8,674
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	1,360	3.42	1.168	7,047	267	8,674
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	1,364	3.35	1.144	7,047	263	8,674
教科でのチームづくり	1,351	3.71	0.753			
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	1,361	4.10	0.865	7,047	266	8,674
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	1,364	3.41	1.149	7,047	263	8,674
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	1,361	3.73	0.978	7,047	266	8,674
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	1,364	3.59	0.985	7,047	263	8,674
ALの質の点検	1,358	2.75	0.859			
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	1,365	2.51	1.210	7,047	262	8,674
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	1,364	2.99	1.211	7,047	263	8,674
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	1,363	3.09	1.185	7,047	264	8,674
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	1,365	2.40	1.160	7,047	262	8,674
学習機会の支援	1,356	2.84	0.904			
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	1,366	2.98	1.217	7,047	261	8,674
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	1,365	2.83	1.270	7,047	262	8,674
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	1,366	2.87	1.243	7,047	261	8,674
他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	1,362	2.66	1.086	7,047	265	8,674
役職を越えた教師間コミュニケーション	1,364	3.44	0.915			
校長・教頭との意思の疎通を図っている	1,367	3.44	1.114	7,047	260	8,674
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	1,366	3.37	1.031	7,047	261	8,674
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	1,366	3.49	0.984	7,047	261	8,674
教員同士の授業実践の公開	1,365	3.86	1.147			
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	1,365	3.86	1.147	7,047	262	8,674

続き

項目	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
AL方針の明確化					
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	72	168	233	334	560
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	132	340	356	261	276
ALへの動機づけ					
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	293	647	266	98	55
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	246	619	321	105	71
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	232	508	347	145	128
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	225	431	421	175	112
教科でのチームづくり					
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	484	608	216	29	24
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	223	511	353	160	117
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	275	629	333	65	59
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	214	592	404	90	64
ALの質の点検					
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	68	257	346	327	367
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	122	418	363	250	211
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	130	443	394	208	188
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	43	225	369	328	400
学習機会の支援					
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	130	388	386	244	218
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	148	287	388	269	273
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	128	320	433	213	272
他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	48	248	514	294	258
役職を越えた教師間コミュニケーション					
校長・教頭との意思の疎通を図っている	233	486	402	146	100
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	167	475	508	124	92
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	177	553	473	88	75
教員同士の授業実践の公開					
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	477	482	235	86	85

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 参加型授業の推進に向けた教科主任の行動について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 43 教科別の参加型授業の推進に向けた教科主任の行動（単一選択）

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
AL方針の明確化	284	2.29	1.059	206	2.51	1.027	187	2.43	0.992
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	285	1.94	1.197	207	2.24	1.317	188	2.14	1.154
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	284	2.64	1.282	206	2.79	1.215	187	2.73	1.271
ALへの動機づけ	280	3.48	0.903	203	3.60	0.791	186	3.54	0.905
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	284	3.70	1.063	206	3.78	0.930	186	3.75	0.999
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	283	3.57	1.047	207	3.65	0.983	187	3.59	1.066
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	283	3.34	1.229	206	3.50	1.039	187	3.42	1.217
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	285	3.27	1.179	205	3.40	1.110	187	3.41	1.172
教科でのチームづくり	278	3.71	0.777	205	3.63	0.686	186	3.63	0.786
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	282	4.16	0.831	205	3.95	0.873	187	3.97	0.921
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	283	3.41	1.167	206	3.32	1.092	187	3.31	1.231
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	284	3.69	1.016	206	3.72	0.914	186	3.65	1.019
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	284	3.57	1.056	207	3.55	0.917	187	3.59	0.976
ALの質の点検	283	2.62	0.824	206	2.81	0.856	186	2.62	0.878
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	284	2.39	1.182	207	2.61	1.185	187	2.65	1.271
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	284	2.95	1.155	206	2.92	1.180	187	2.61	1.219
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	283	2.78	1.183	207	3.16	1.169	187	2.80	1.205
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	284	2.33	1.157	207	2.52	1.153	187	2.43	1.126
学習機会の支援	283	2.77	0.887	207	2.88	0.903	184	2.87	0.967
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	285	2.93	1.185	207	2.92	1.212	186	2.74	1.289
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	284	2.74	1.236	207	2.82	1.268	187	2.97	1.360
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	285	2.78	1.291	207	2.97	1.208	187	3.05	1.260
他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	284	2.63	1.047	207	2.80	1.037	187	2.64	1.198
役職を越えた教師間コミュニケーション	284	3.41	0.916	207	3.37	0.913	186	3.42	0.997
校長・教頭との意思の疎通を図っている	285	3.43	1.100	207	3.43	1.072	187	3.44	1.173
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	285	3.30	1.038	207	3.27	1.007	187	3.32	1.142
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	284	3.48	1.021	207	3.42	0.956	187	3.47	1.069
教員同士の授業実践の公開	284	3.87	1.175	206	3.81	1.090	187	4.03	1.159
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	284	3.87	1.175	206	3.81	1.090	187	4.03	1.159

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
AL方針の明確化	239	2.51	1.085	448	2.67	1.033	1,364	2.51	1.049
教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	239	2.23	1.268	448	2.24	1.216	1,367	2.16	1.233
参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	239	2.78	1.327	449	3.09	1.223	1,365	2.85	1.270
ALへの動機づけ	237	3.38	0.928	438	3.65	0.826	1,344	3.54	0.871
各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	238	3.63	1.063	445	3.84	0.957	1,359	3.75	1.002
各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	238	3.51	1.054	447	3.75	1.003	1,362	3.63	1.030
他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	239	3.23	1.181	445	3.53	1.144	1,360	3.42	1.168
自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	239	3.18	1.225	448	3.45	1.069	1,364	3.35	1.144
教科でのチームづくり	237	3.57	0.803	445	3.85	0.704	1,351	3.71	0.753
教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	238	3.97	0.950	449	4.26	0.780	1,361	4.10	0.865
教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	239	3.26	1.130	449	3.59	1.119	1,364	3.41	1.149
教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	238	3.61	0.977	447	3.86	0.955	1,361	3.73	0.978
教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	239	3.44	1.022	447	3.70	0.943	1,364	3.59	0.985
ALの質の点検	238	2.77	0.827	445	2.86	0.877	1,358	2.75	0.859
校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	239	2.50	1.141	448	2.49	1.244	1,365	2.51	1.210
生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	239	2.89	1.192	448	3.27	1.213	1,364	2.99	1.211
参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	238	3.44	1.076	448	3.19	1.172	1,363	3.09	1.185
各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	239	2.25	1.090	448	2.46	1.209	1,365	2.40	1.160
学習機会の支援	237	2.74	0.897	445	2.90	0.889	1,356	2.84	0.904
教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	239	2.76	1.236	449	3.24	1.154	1,366	2.98	1.217
校内研修の企画運営に積極的に携わっている	239	2.71	1.232	448	2.90	1.270	1,365	2.83	1.270
参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	239	2.78	1.210	448	2.85	1.232	1,366	2.87	1.243
他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	237	2.70	1.126	447	2.59	1.061	1,362	2.66	1.086
役職を越えた教師間コミュニケーション	239	3.35	0.907	448	3.53	0.877	1,364	3.44	0.915
校長・教頭との意思の疎通を図っている	239	3.35	1.119	449	3.51	1.114	1,367	3.44	1.114
管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	239	3.32	0.992	448	3.50	1.001	1,366	3.37	1.031
教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	239	3.39	0.989	449	3.59	0.927	1,366	3.49	0.984
教員同士の授業実践の公開	239	3.72	1.188	449	3.89	1.123	1,365	3.86	1.147
教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	239	3.72	1.188	449	3.89	1.123	1,365	3.86	1.147

（注）1. 教科主任調査の結果による。
2. 参加型授業の推進に向けた教科主任の行動について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。
4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

2.5. 参加型授業の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ

参加型授業の推進に向けて教科主任として管理職にどのような働きかけをしているか、16 項目の質問について「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1〜5 点で得点化し、集計を行った。

その結果、「校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした」(M=2.51, SD=1.393)、「校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした」(M=2.23, SD=1.288)、「関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした」(M=2.23, SD=1.319) などの働きかけが上位であった。一方、「補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした」(M=1.79, SD=1.239)、「PTA や自治体との意思疎通を図るようお願いした」(M=1.81, SD=1.029)、「補助金や助成金を獲得するようお願いした」(M=1.91, SD=1.195) などの働きかけが下位であった。(表 44、図 16)

因子分析の結果、これらの管理職への働きかけは、「校外リソース獲得の促進」「AL への組織的取組の促進」「学校のビジョン共有の促進」「指導に関する参考資料収集の促進」「教師の仕事スリム化の促進」「校内での教師間連携の促進」「校外での学習の促進」の 7 つに大きく分類できた。

教科別の結果を表 45 に示した。分散分析の結果、「校外リソース獲得の促進」「AL への組織的取組の促進」「学校のビジョン共有の促進」「校外での学習の促進」において、教科ごとの教科主任の管理職への働きかけに 5%水準で有意な差が見られた。効果量を見ると、「校外リソース獲得の促進」において中程度の差が見られたが、その他の差は小さかった。「校外リソース獲得の促進」は、理科 (M=2.25) や外国語科 (M=2.16) の得点が、他教科 (M=1.72〜1.88) に比べて高かった。(「校外リソース獲得の促進」で $F(4,1344)=16.094$, $p<.001$, $\eta^2=.046$、「AL への組織的取組の促進」で $F(4,1341)=2.625$, $p<.05$, $\eta^2=.008$、「学校のビジョン共有の促進」で $F(4,1333)=3.093$, $p<.05$, $\eta^2=.009$、「指導に関する参考資料収集の促進」で $F(4,1340)=1.325$, $n.s.$, $\eta^2=.004$、「教師の仕事スリム化の促進」で $F(4,1342)=1.580$, $n.s.$, $\eta^2=.005$、「校内での教師間連携の促進」で $F(4,1346)=2.324$, $n.s.$, $\eta^2=.007$、「校外での学習の促進」で $F(4,1336)=6.302$, $p<.001$, $\eta^2=.019$)

従って、アクティブラーニングの推進に向けた教科主任の管理職への働きかけは、全体として教科による差はほとんどないものの、実験助手や外国語指導助手などを必要とする理科や外国語科においては校外リソースの獲得が促進されていると言える。

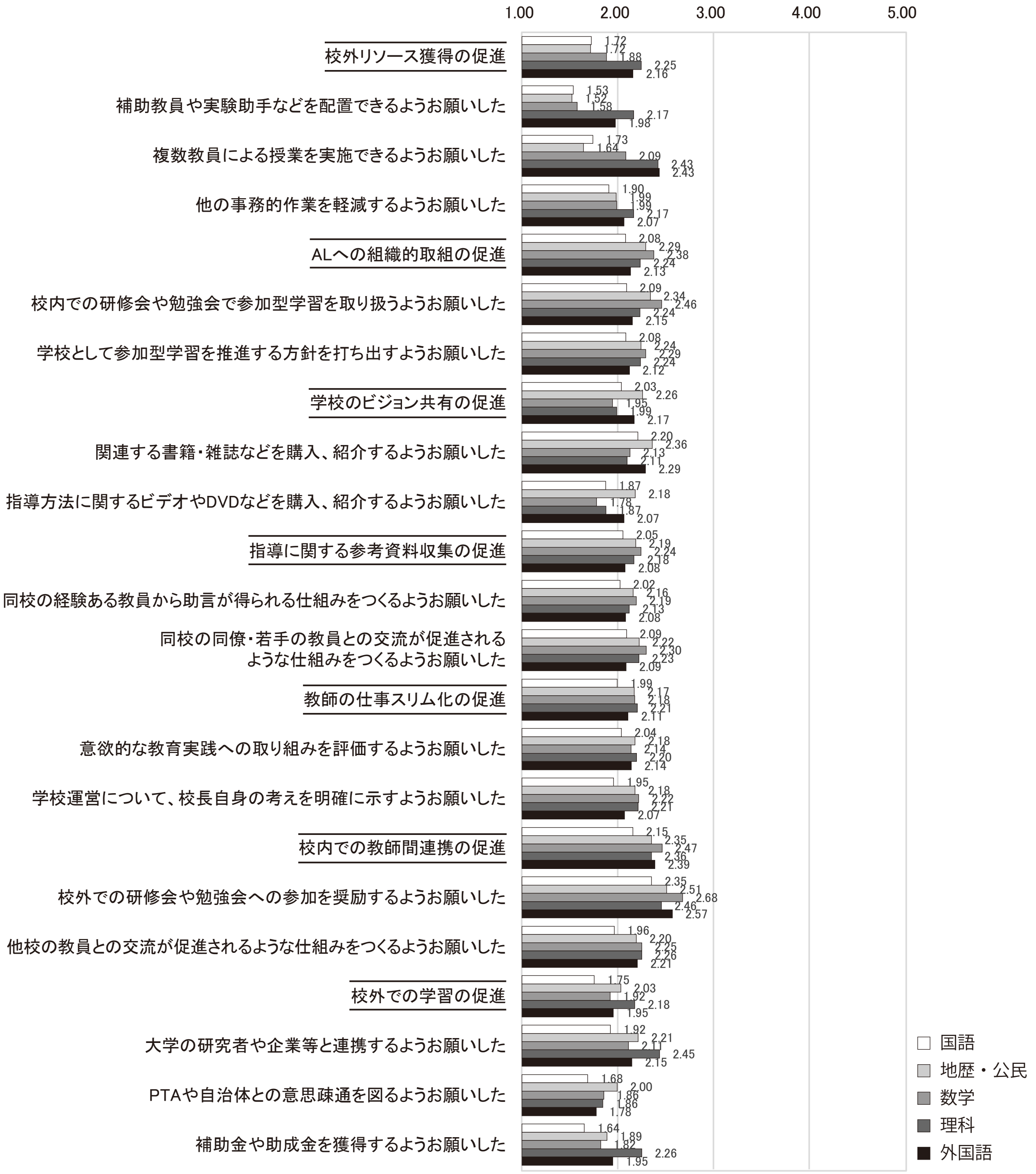


図 16 参加型授業の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ

表 44 参加型授業の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
校外リソース獲得の促進	1,349	1.98	1.040			
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	1,352	1.79	1.239	7,047	275	8,674
複数教員による授業を実施できるようお願いした	1,352	2.12	1.419	7,047	275	8,674
他の事務的作業を軽減するようお願いした	1,351	2.03	1.255	7,047	276	8,674
ALへの組織的取組の促進	1,346	2.20	1.156			
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	1,349	2.23	1.288	7,047	278	8,674
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	1,349	2.18	1.224	7,047	278	8,674
学校のビジョン共有の促進	1,338	2.09	1.142			
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	1,349	2.23	1.319	7,047	278	8,674
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	1,343	1.97	1.181	7,047	284	8,674
指導に関する参考資料収集の促進	1,345	2.13	1.124			
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	1,349	2.10	1.187	7,047	278	8,674
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	1,349	2.16	1.214	7,047	278	8,674
教師の仕事スリム化の促進	1,347	2.12	1.104			
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	1,350	2.14	1.192	7,047	277	8,674
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	1,349	2.11	1.216	7,047	278	8,674
校内での教師間連携の促進	1,351	2.34	1.216			
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	1,352	2.51	1.393	7,047	275	8,674
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	1,352	2.17	1.224	7,047	275	8,674
校外での学習の促進	1,341	1.96	1.010			
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	1,351	2.16	1.266	7,047	276	8,674
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	1,351	1.81	1.029	7,047	276	8,674
補助金や助成金を獲得するようお願いした	1,345	1.91	1.195	7,047	282	8,674

続き

項目	あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまりあて はまらない	あてはま らない
校外リソース獲得の促進					
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	77	103	156	145	871
複数教員による授業を実施できるようお願いした	130	168	166	158	730
他の事務的作業を軽減するようお願いした	61	160	236	193	701
ALへの組織的取組の促進					
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	82	172	298	215	582
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	66	123	386	184	590
学校のビジョン共有の促進					
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	90	180	281	195	603
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	48	118	274	207	696
指導に関する参考資料収集の促進					
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	40	152	332	210	615
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	51	155	349	201	593
教師の仕事スリム化の促進					
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	47	134	379	186	604
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	59	120	364	171	635
校内での教師間連携の促進					
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	128	253	309	157	505
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	55	156	347	197	597
校外での学習の促進					
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	69	159	315	183	625
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	18	62	319	204	748
補助金や助成金を獲得するようお願いした	54	106	265	165	755

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 45 教科別の参加型授業の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけ（単一選択）

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
校外リソース獲得の促進	281	1.72	0.897	204	1.72	0.919	187	1.88	0.938
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	282	1.53	1.023	205	1.52	0.988	187	1.58	1.067
複数教員による授業を実施できるようお願いした	281	1.73	1.209	204	1.64	1.094	187	2.09	1.381
他の事務的作業を軽減するようお願いした	282	1.90	1.226	204	1.99	1.214	187	1.99	1.223
ALへの組織的取組の促進	278	2.08	1.099	205	2.29	1.189	187	2.38	1.221
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	279	2.09	1.221	205	2.34	1.383	187	2.46	1.377
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	280	2.08	1.153	205	2.24	1.212	187	2.29	1.284
学校のビジョン共有の促進	280	2.03	1.106	201	2.26	1.193	186	1.95	1.040
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	280	2.20	1.357	205	2.36	1.331	187	2.13	1.259
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	281	1.87	1.136	201	2.18	1.257	187	1.78	1.032
指導に関する参考資料収集の促進	280	2.05	1.100	204	2.19	1.167	186	2.24	1.126
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	281	2.02	1.189	204	2.16	1.174	186	2.19	1.206
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	280	2.09	1.188	205	2.22	1.252	187	2.30	1.260
教師の仕事スリム化の促進	280	1.99	1.009	203	2.17	1.129	187	2.18	1.135
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	281	2.04	1.127	204	2.18	1.183	187	2.14	1.215
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	280	1.95	1.135	204	2.18	1.216	187	2.22	1.253
校内での教師間連携の促進	281	2.15	1.187	205	2.35	1.228	187	2.47	1.229
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	281	2.35	1.379	205	2.51	1.381	187	2.68	1.446
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	281	1.96	1.155	205	2.20	1.225	187	2.25	1.268
校外での学習の促進	276	1.75	0.903	205	2.03	1.053	186	1.92	1.026
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	280	1.92	1.133	205	2.21	1.257	187	2.11	1.220
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	281	1.68	0.958	205	2.00	1.100	187	1.86	1.060
補助金や助成金を獲得するようお願いした	278	1.64	1.023	205	1.89	1.126	186	1.82	1.098

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
校外リソース獲得の促進	237	2.25	1.145	440	2.16	1.091	1,349	1.98	1.040
補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	237	2.17	1.356	441	1.98	1.385	1,352	1.79	1.239
複数教員による授業を実施できるようお願いした	238	2.43	1.499	442	2.43	1.524	1,352	2.12	1.419
他の事務的作業を軽減するようお願いした	238	2.17	1.283	440	2.07	1.285	1,351	2.03	1.255
ALへの組織的取組の促進	238	2.24	1.129	438	2.13	1.153	1,346	2.20	1.156
校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	238	2.24	1.228	440	2.15	1.264	1,349	2.23	1.288
学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	238	2.24	1.212	439	2.12	1.251	1,349	2.18	1.224
学校のビジョン共有の促進	238	1.99	1.079	433	2.17	1.203	1,338	2.09	1.142
関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	238	2.11	1.195	439	2.29	1.372	1,349	2.23	1.319
指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	238	1.87	1.093	436	2.07	1.259	1,343	1.97	1.181
指導に関する参考資料収集の促進	238	2.18	1.105	437	2.08	1.127	1,345	2.13	1.124
同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	238	2.13	1.162	440	2.08	1.199	1,349	2.10	1.187
同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	238	2.23	1.190	439	2.09	1.201	1,349	2.16	1.214
教師の仕事スリム化の促進	238	2.21	1.098	439	2.11	1.135	1,347	2.12	1.104
意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	238	2.20	1.173	440	2.14	1.237	1,350	2.14	1.192
学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	238	2.21	1.218	440	2.07	1.242	1,349	2.11	1.216
校内での教師間連携の促進	237	2.36	1.188	441	2.39	1.231	1,351	2.34	1.216
校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	237	2.46	1.320	442	2.57	1.418	1,352	2.51	1.393
他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	238	2.26	1.221	441	2.21	1.240	1,352	2.17	1.224
校外での学習の促進	236	2.18	1.044	438	1.95	1.005	1,341	1.96	1.010
大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	238	2.45	1.382	441	2.15	1.276	1,351	2.16	1.266
PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	238	1.85	0.960	440	1.78	1.052	1,351	1.81	1.029
補助金や助成金を獲得するようお願いした	237	2.26	1.333	439	1.95	1.245	1,345	1.91	1.195

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 参加型学習の推進に向けた教科主任の管理職への働きかけについて、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

2.6. 効果の実感の変化

参加型授業を実施した際の効果について、2015 年度からどのような変化があったか、25 項目の質問について「1. 変化を実感していない」から「5. 変化を実感した」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

その結果、「生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった」（M=3.66, SD=0.916)、「生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた」（M=3.59, SD=0.904)、「生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった」（M=3.55, SD=0.925）などの実感の変化が上位であった。一方、「地域社会との交流や相互理解が深まった」（M=2.69, SD=0.968)、「生徒の進学実績が向上した」（M=2.70, SD=0.904)、「生徒の学習習慣（予復習）が身についた」（M=2.80, SD=0.918）などの実感の変化が下位であった。(表 46、図 17)

因子分析の結果、これらの効果の実感は、「思考・表現力」「課題解決力」「教科基礎力」「協働性」「主体性」「市民性」の 6 つに大きく分類できた（いずれの因子にも含まれなかった「生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた」の項目は「教員とのコミュニケーション」という独自の分類を設けた)。

教科別の結果を表 47 に示した。分散分析の結果、「教科基礎力」「協働性」「主体性」「市民性」「教員とのコミュニケーション」において、教科ごとの効果の実感の変化に 5%水準で有意な差が見られた。一方で、いずれの効果についても、効果量の値は小さかった。(「思考・表現力」で $F(4, 1339)=2.688$, $p<.05$, $\eta^2=.008$、「課題解決力」で $F(4, 1335)=1.664$, $n.s.$, $\eta^2=.005$、「教科基礎力」で $F(4, 1334)=2.957$, $p<.05$, $\eta^2=.009$、「協働性」で $F(4, 1343)=2.422$, $p<.05$, $\eta^2=.007$、「主体性」で $F(4, 1345)=3.266$, $p<.05$, $\eta^2=.010$、「市民性」で $F(4, 1342)=7.215$, $p<.001$, $\eta^2=.021$、「教員とのコミュニケーション」で $F(4, 1346)=2.351$, $n.s.$, $\eta^2=.007$)

従って、この 1 年間での効果の実感の変化について、教科による差はほとんどないと言える。

図 17 参加型授業の効果の実感の変化

表 46 参加型授業の効果の実感の変化（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
思考・表現力	1,344	3.33	0.786			
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	1,348	3.15	0.978	7,047	279	8,674
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	1,352	3.55	0.925	7,047	275	8,674
生徒がこれまでにない発想をするようになった	1,350	3.17	0.932	7,047	277	8,674
生徒が自分の考えを深められるようになった	1,349	3.44	0.915	7,047	278	8,674
課題解決力	1,340	3.15	0.780			
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	1,348	3.02	0.898	7,047	279	8,674
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	1,347	3.21	0.914	7,047	280	8,674
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	1,349	3.34	0.927	7,047	278	8,674
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	1,348	3.01	0.883	7,047	279	8,674
教科基礎力	1,339	2.97	0.772			
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	1,351	3.00	0.960	7,047	276	8,674
生徒の進学実績が向上した	1,345	2.70	0.904	7,047	282	8,674
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	1,348	3.09	0.960	7,047	279	8,674
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	1,350	3.09	0.899	7,047	277	8,674
協働性	1,348	3.47	0.784			
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	1,349	3.53	0.951	7,047	278	8,674
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	1,351	3.40	0.926	7,047	276	8,674
生徒の社会性や協調性が高まった	1,351	3.27	0.891	7,047	276	8,674
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	1,351	3.66	0.916	7,047	276	8,674
主体性	1,350	2.97	0.775			
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	1,351	3.13	0.908	7,047	276	8,674
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	1,351	2.80	0.918	7,047	276	8,674
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	1,351	3.00	0.892	7,047	276	8,674
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	1,350	2.97	0.879	7,047	277	8,674
市民性	1,347	2.88	0.802			
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	1,350	2.82	0.894	7,047	277	8,674
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	1,349	3.11	0.981	7,047	278	8,674
地域社会との交流や相互理解が深まった	1,351	2.69	0.968	7,047	276	8,674
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	1,350	2.90	0.882	7,047	277	8,674
教員とのコミュニケーション	1,351	3.59	0.904			
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	1,351	3.59	0.904	7,047	276	8,674

続き

項目	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
思考・表現力					
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	70	448	546	182	102
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	148	662	371	125	46
生徒がこれまでにない発想をするようになった	75	411	621	157	86
生徒が自分の考えを深められるようになった	103	616	457	112	61
課題解決力					
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	43	337	671	203	94
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	61	477	573	160	76
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	84	567	490	140	68
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	33	322	720	165	108
教科基礎力					
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	56	330	646	195	124
生徒の進学実績が向上した	28	138	765	228	186
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	61	400	588	196	103
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	53	376	636	209	76
協働性					
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	149	644	385	110	61
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	102	591	464	134	60
生徒の社会性や協調性が高まった	76	475	608	125	67
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	196	677	354	76	48
主体性					
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	59	392	654	159	87
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	27	226	694	252	152
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	39	308	722	173	109
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	26	313	712	190	109
市民性					
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	32	206	732	244	136
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	75	397	590	177	110
地域社会との交流や相互理解が深まった	37	171	688	248	207
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	31	243	755	196	125
教員とのコミュニケーション					
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	166	642	418	76	49

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015 年度からの効果の実感の変化について、「1. 変化を実感していない」「2. あまり変化を実感していない」「3. どちらともいえない」「4. やや変化を実感した」「5. 変化を実感した」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 47 教科別の参加型授業の効果の実感の変化（単一選択）

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	282	3.34	0.729	203	3.37	0.811	188	3.18	0.779
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	282	3.15	0.956	204	3.21	0.997	188	2.90	0.926
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	282	3.54	0.840	205	3.56	0.903	188	3.27	0.967
生徒がこれまでにない発想をするようになった	282	3.17	0.906	205	3.24	0.916	188	3.16	0.948
生徒が自分の考えを深められるようになった	282	3.50	0.836	204	3.46	0.938	188	3.40	0.893
課題解決力	281	3.10	0.719	203	3.19	0.766	187	3.05	0.767
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	282	2.99	0.841	205	3.08	0.882	188	2.90	0.844
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	282	3.16	0.847	205	3.32	0.903	188	2.98	0.862
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	282	3.33	0.852	204	3.39	0.917	188	3.35	0.966
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	281	2.93	0.870	204	2.96	0.881	187	2.95	0.851
教科基礎力	276	2.99	0.779	203	2.93	0.738	188	2.83	0.728
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	281	2.95	0.938	205	2.90	0.915	188	3.03	0.986
生徒の進学実績が向上した	277	2.68	0.894	204	2.58	0.847	188	2.71	0.873
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	281	3.11	0.970	204	3.08	0.964	188	2.76	0.898
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	282	3.22	0.875	205	3.14	0.866	188	2.83	0.867
協働性	282	3.42	0.770	204	3.45	0.800	188	3.38	0.810
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	282	3.49	0.906	204	3.55	0.974	188	3.42	1.002
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	282	3.37	0.908	205	3.39	0.920	188	3.34	0.943
生徒の社会性や協調性が高まった	282	3.24	0.922	205	3.31	0.880	188	3.15	0.871
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	282	3.59	0.897	205	3.56	0.903	188	3.59	0.974
主体性	282	2.88	0.773	205	2.90	0.763	187	3.02	0.777
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	282	2.99	0.844	205	3.04	0.885	188	3.24	0.961
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	282	2.73	0.916	205	2.74	0.879	188	2.85	0.925
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	282	2.90	0.887	205	2.92	0.895	188	3.02	0.862
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	282	2.90	0.897	205	2.92	0.888	187	2.97	0.848
市民性	280	2.84	0.811	205	3.05	0.786	187	2.66	0.788
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	281	2.80	0.938	205	2.95	0.925	188	2.67	0.888
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	281	3.10	0.973	205	3.52	0.968	188	2.66	0.871
地域社会との交流や相互理解が深まった	282	2.63	0.931	205	2.85	1.011	188	2.52	0.922
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	282	2.84	0.917	205	2.90	0.840	187	2.79	0.834
教員とのコミュニケーション	281	3.48	0.914	205	3.58	0.840	188	3.53	0.922
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	281	3.48	0.914	205	3.58	0.840	188	3.53	0.922

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	235	3.27	0.834	436	3.39	0.778	1,344	3.33	0.786
生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	236	3.19	1.010	438	3.21	0.974	1,348	3.15	0.978
生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	237	3.40	0.993	440	3.75	0.889	1,352	3.55	0.925
生徒がこれまでにない発想をするようになった	237	3.12	0.942	438	3.17	0.947	1,350	3.17	0.932
生徒が自分の考えを深められるようになった	236	3.37	0.987	439	3.43	0.921	1,349	3.44	0.915
課題解決力	234	3.22	0.819	435	3.16	0.805	1,340	3.15	0.780
生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	237	3.14	0.972	436	3.01	0.917	1,348	3.02	0.898
生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	235	3.34	0.954	437	3.23	0.942	1,347	3.21	0.914
生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	236	3.37	0.983	439	3.31	0.933	1,349	3.34	0.927
生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	237	3.01	0.909	439	3.09	0.889	1,348	3.01	0.883
教科基礎力	235	2.93	0.768	437	3.05	0.797	1,339	2.97	0.772
生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	238	2.95	0.922	439	3.09	0.999	1,351	3.00	0.960
生徒の進学実績が向上した	238	2.72	0.886	438	2.75	0.958	1,345	2.70	0.904
生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	236	3.10	0.975	439	3.22	0.939	1,348	3.09	0.960
生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	236	2.99	0.887	439	3.15	0.925	1,350	3.09	0.899
協働性	237	3.43	0.825	437	3.56	0.746	1,348	3.47	0.784
生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	237	3.54	0.985	438	3.58	0.929	1,349	3.53	0.951
普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	237	3.31	0.975	439	3.50	0.899	1,351	3.40	0.926
生徒の社会性や協調性が高まった	237	3.25	0.922	439	3.34	0.863	1,351	3.27	0.891
生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	237	3.62	0.943	439	3.81	0.879	1,351	3.66	0.916
主体性	237	2.94	0.794	439	3.06	0.764	1,350	2.97	0.775
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	237	3.22	0.936	439	3.17	0.907	1,351	3.13	0.908
生徒の学習習慣（予復習）が身についた	237	2.58	0.947	439	2.96	0.890	1,351	2.80	0.918
生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	237	3.00	0.939	439	3.08	0.873	1,351	3.00	0.892
生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	237	2.96	0.894	439	3.04	0.866	1,350	2.97	0.879
市民性	236	2.82	0.778	439	2.94	0.799	1,347	2.88	0.802
生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	237	2.79	0.867	439	2.85	0.859	1,350	2.82	0.894
社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	236	2.93	0.903	439	3.22	0.983	1,349	3.11	0.981
地域社会との交流や相互理解が深まった	237	2.68	0.942	439	2.73	0.995	1,351	2.69	0.968
生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	237	2.90	0.880	439	2.97	0.893	1,350	2.90	0.882
教員とのコミュニケーション	237	3.69	0.885	440	3.65	0.924	1,351	3.59	0.904
生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	237	3.69	0.885	440	3.65	0.924	1,351	3.59	0.904

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015 年度からの効果の実感の変化について、「1. 変化を実感していない」「2. あまり変化を実感していない」「3. どちらともいえない」「4. やや変化を実感した」「5. 変化を実感した」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

2.7. 悩みの変化

参加型授業を実施した際の悩みについて、2015 年度からどのような変化があったか、21 項目の質問について「1. 悩みが減った」から「5. 悩みが増えた」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択)。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

その結果、「授業前後の教員の負担が増加する」(M=3.81, SD=0.821)、「授業の進度が遅くなる」(M=3.62, SD=0.846)、「授業の時数が足りない」(M=3.61, SD=0.809) などの悩みの変化が上位であった。一方、「授業中の生徒の集中力が低下する」(M=2.73, SD=0.802)、「生徒の理解が得られない」(M=2.78, SD=0.694)、「保護者の理解が得られない」(M=2.80, SD=0.603) などの悩みの変化が下位であった。(表 48、図 18)

2015 年度の調査において悩みの上位に挙がった項目が、悩みの変化でも上位に挙がっている。つまり、参加型授業への取り組みが増えた現状において、これらの悩みが参加型授業に取り組むほど増加する悩みであると考えられる。一方で、生徒や保護者の理解など、関係者の理解を得ることについての悩みはあまり増えていない。2015 年度は、「このようなやり方で受験を乗り越えられる力がつくのか不安だ」というような声が生徒や保護者から挙がっているという悩みが参加型授業を実施している学校には見られたが、アクティブラーニングの必要性については社会に浸透しつつあるのだろうと考えられる。

因子分析の結果、これらの悩みは、「教育効果に関する悩み」「授業の進度に関する悩み」「生徒の学習態度に関する悩み」「教員の理解に関する悩み」「教員の負担増加に関する悩み」「生徒や保護者の理解に関する悩み」「教育資源に関する悩み」「授業方法や評価に関する悩み」の 8 つに大きく分類できた。

教科別の結果を表 49 に示した。分散分析の結果、「授業の進度に関する悩み」「教員の負担増加に関する悩み」「教育資源に関する悩み」「授業方法や評価に関する悩み」において、教科ごとの悩みの変化に 5%水準で有意な差が見られた。一方で、いずれの悩みについても、効果量の値は小さかった。(「教育効果に関する悩み」で $F(4,1337)=2.167$, $n.s.$, $\eta^2=.006$、「授業の進度に関する悩み」で $F(4,1339)=8.393$, $p<.001$, $\eta^2=.024$、「生徒の学習態度に関する悩み」で $F(4,1336)=1.996$, $n.s.$, $\eta^2=.006$、「教員の理解に関する悩み」で $F(4,1338)=1.646$, $n.s.$, $\eta^2=.005$、「教員の負担増加に関する悩み」で $F(4,1339)=4.435$, $p<.01$, $\eta^2=.013$、「生徒や保護者の理解に関する悩み」で $F(4,1339)=1.929$, $n.s.$, $\eta^2=.006$、「教育資源に関する悩み」で $F(4,1338)=7.702$, $p<.001$, $\eta^2=.023$、「授業方法や評価に関する悩み」で $F(4,1336)=3.319$, $p<.05$, $\eta^2=.010$)

従って、この 1 年間での悩みの変化について、教科による差はほとんどないと言える。

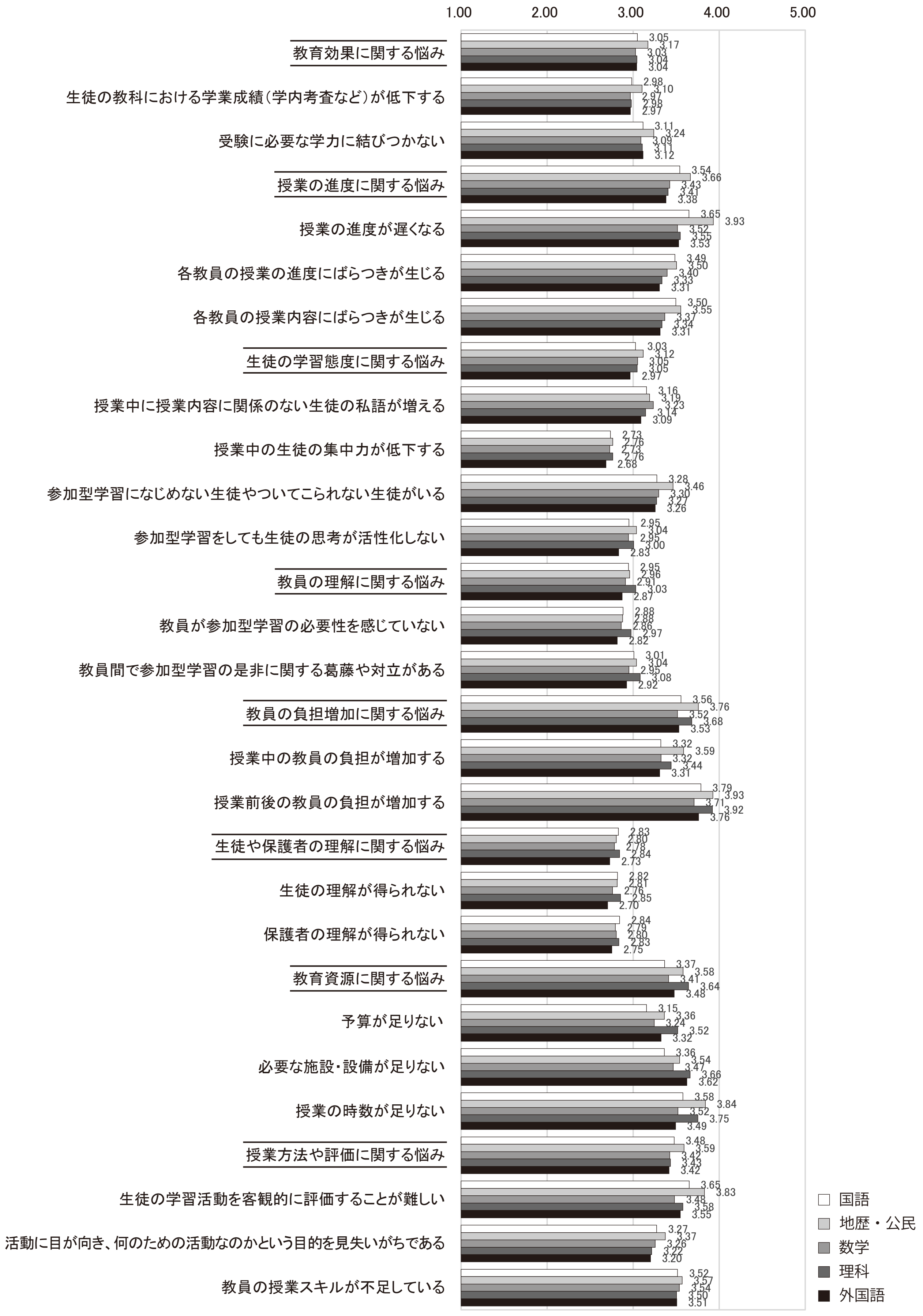


図 18 参加型授業の悩みの変化

表 48 参加型授業の悩みの変化（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
教育効果に関する悩み	1,342	3.06	0.590			
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	1,344	2.99	0.579	7,047	283	8,674
受験に必要な学力に結びつかない	1,344	3.13	0.724	7,047	283	8,674
授業の進度に関する悩み	1,344	3.47	0.647			
授業の進度が遅くなる	1,348	3.62	0.846	7,047	279	8,674
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	1,347	3.39	0.734	7,047	280	8,674
各教員の授業内容にばらつきが生じる	1,344	3.40	0.732	7,047	283	8,674
生徒の学習態度に関する悩み	1,341	3.03	0.659			
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	1,345	3.15	0.836	7,047	282	8,674
授業中の生徒の集中力が低下する	1,345	2.73	0.802	7,047	282	8,674
参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	1,343	3.30	0.866	7,047	284	8,674
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	1,344	2.93	0.848	7,047	283	8,674
教員の理解に関する悩み	1,343	2.93	0.796			
教員が参加型学習の必要性を感じていない	1,345	2.87	0.827	7,047	282	8,674
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	1,344	2.99	0.865	7,047	283	8,674
教員の負担増加に関する悩み	1,344	3.59	0.765			
授業中の教員の負担が増加する	1,345	3.38	0.912	7,047	282	8,674
授業前後の教員の負担が増加する	1,350	3.81	0.821	7,047	277	8,674
生徒や保護者の理解に関する悩み	1,344	2.79	0.607			
生徒の理解が得られない	1,344	2.78	0.694	7,047	283	8,674
保護者の理解が得られない	1,344	2.80	0.603	7,047	283	8,674
教育資源に関する悩み	1,343	3.49	0.650			
予算が足りない	1,348	3.32	0.769	7,047	279	8,674
必要な施設・設備が足りない	1,348	3.54	0.877	7,047	279	8,674
授業の時数が足りない	1,345	3.61	0.809	7,047	282	8,674
授業方法や評価に関する悩み	1,341	3.46	0.603			
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	1,345	3.61	0.811	7,047	282	8,674
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	1,346	3.25	0.816	7,047	281	8,674
教員の授業スキルが不足している	1,347	3.52	0.763	7,047	280	8,674

続き

項目	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
教育効果に関する悩み					
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	25	112	1070	103	34
受験に必要な学力に結びつかない	49	265	878	114	38
授業の進度に関する悩み					
授業の進度が遅くなる	174	604	477	65	28
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	79	469	722	54	23
各教員の授業内容にばらつきが生じる	80	474	716	52	22
生徒の学習態度に関する悩み					
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	61	335	759	123	67
授業中の生徒の集中力が低下する	14	143	763	311	114
参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	88	459	606	148	42
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	47	229	729	267	72
教員の理解に関する悩み					
教員が参加型学習の必要性を感じていない	36	178	810	222	99
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	57	233	786	176	92
教員の負担増加に関する悩み					
授業中の教員の負担が増加する	150	416	618	116	45
授業前後の教員の負担が増加する	275	611	410	43	11
生徒や保護者の理解に関する悩み					
生徒の理解が得られない	7	98	916	235	88
保護者の理解が得られない	4	51	1033	183	73
教育資源に関する悩み					
予算が足りない	140	232	918	31	27
必要な施設・設備が足りない	221	388	667	43	29
授業の時数が足りない	205	470	633	18	19
授業方法や評価に関する悩み					
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	172	566	531	59	17
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	82	371	742	107	44
教員の授業スキルが不足している	140	495	652	48	12

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015 年度からの悩みの変化について、「1. 悩みが減った」「2. 少し悩みが減った」「3. 変わらない」「4. 少し悩みが増えた」「5. 悩みが増えた」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 49 教科別の参加型授業の悩みの変化（単一選択）

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み	282	3.05	0.489	204	3.17	0.589	187	3.03	0.577
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	283	2.98	0.494	204	3.10	0.599	187	2.97	0.621
受験に必要な学力に結びつかない	282	3.11	0.621	204	3.24	0.692	188	3.09	0.699
授業の進度に関する悩み	283	3.54	0.620	204	3.66	0.645	187	3.43	0.627
授業の進度が遅くなる	284	3.65	0.799	204	3.93	0.779	188	3.52	0.886
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	284	3.49	0.701	204	3.50	0.778	187	3.40	0.743
各教員の授業内容にばらつきが生じる	283	3.50	0.691	204	3.55	0.751	187	3.37	0.709
生徒の学習態度に関する悩み	282	3.03	0.698	202	3.12	0.612	188	3.05	0.616
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	283	3.16	0.861	204	3.19	0.767	188	3.23	0.833
授業中の生徒の集中力が低下する	283	2.73	0.819	203	2.76	0.810	188	2.73	0.798
参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	283	3.28	0.892	203	3.46	0.869	188	3.30	0.882
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	282	2.95	0.859	203	3.04	0.843	188	2.95	0.779
教員の理解に関する悩み	284	2.95	0.762	204	2.96	0.896	187	2.91	0.733
教員が参加型学習の必要性を感じていない	284	2.88	0.791	204	2.88	0.936	188	2.86	0.802
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	284	3.01	0.819	204	3.04	0.962	187	2.95	0.805
教員の負担増加に関する悩み	284	3.56	0.737	203	3.76	0.781	188	3.52	0.751
授業中の教員の負担が増加する	284	3.32	0.878	203	3.59	0.899	188	3.32	0.863
授業前後の教員の負担が増加する	284	3.79	0.792	204	3.93	0.842	188	3.71	0.837
生徒や保護者の理解に関する悩み	283	2.83	0.600	204	2.80	0.630	188	2.78	0.623
生徒の理解が得られない	283	2.82	0.685	204	2.81	0.698	188	2.76	0.717
保護者の理解が得られない	283	2.84	0.589	204	2.79	0.633	188	2.80	0.602
教育資源に関する悩み	283	3.37	0.570	204	3.58	0.673	187	3.41	0.580
予算が足りない	284	3.15	0.745	204	3.36	0.779	188	3.24	0.665
必要な施設・設備が足りない	284	3.36	0.814	204	3.54	0.938	187	3.47	0.812
授業の時数が足りない	283	3.58	0.765	204	3.84	0.805	188	3.52	0.763
授業方法や評価に関する悩み	278	3.48	0.632	204	3.59	0.587	188	3.42	0.573
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	282	3.65	0.822	204	3.83	0.809	188	3.48	0.797
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	282	3.27	0.869	204	3.37	0.824	188	3.26	0.780
教員の授業スキルが不足している	282	3.52	0.770	204	3.57	0.743	188	3.54	0.756

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教育効果に関する悩み	236	3.04	0.563	433	3.04	0.663	1,342	3.06	0.590
生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	236	2.98	0.534	434	2.97	0.622	1,344	2.99	0.579
受験に必要な学力に結びつかない	236	3.11	0.691	434	3.12	0.822	1,344	3.13	0.724
授業の進度に関する悩み	235	3.41	0.603	435	3.38	0.676	1,344	3.47	0.647
授業の進度が遅くなる	237	3.55	0.870	435	3.53	0.843	1,348	3.62	0.846
各教員の授業の進度にばらつきが生じる	236	3.33	0.648	436	3.31	0.762	1,347	3.39	0.734
各教員の授業内容にばらつきが生じる	235	3.34	0.635	435	3.31	0.788	1,344	3.40	0.732
生徒の学習態度に関する悩み	236	3.05	0.619	433	2.97	0.688	1,341	3.03	0.659
授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	236	3.14	0.843	434	3.09	0.848	1,345	3.15	0.836
授業中の生徒の集中力が低下する	236	2.76	0.740	435	2.68	0.823	1,345	2.73	0.802
参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	236	3.27	0.822	433	3.26	0.859	1,343	3.30	0.866
参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	236	3.00	0.752	435	2.83	0.912	1,344	2.93	0.848
教員の理解に関する悩み	235	3.03	0.738	433	2.87	0.822	1,343	2.93	0.796
教員が参加型学習の必要性を感じていない	235	2.97	0.756	434	2.82	0.840	1,345	2.87	0.827
教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	236	3.08	0.824	433	2.92	0.890	1,344	2.99	0.865
教員の負担増加に関する悩み	236	3.68	0.741	433	3.53	0.783	1,344	3.59	0.765
授業中の教員の負担が増加する	236	3.44	0.937	434	3.31	0.935	1,345	3.38	0.912
授業前後の教員の負担が増加する	237	3.92	0.780	437	3.76	0.835	1,350	3.81	0.821
生徒や保護者の理解に関する悩み	236	2.84	0.517	433	2.73	0.634	1,344	2.79	0.607
生徒の理解が得られない	236	2.85	0.604	433	2.70	0.727	1,344	2.78	0.694
保護者の理解が得られない	236	2.83	0.540	433	2.75	0.628	1,344	2.80	0.603
教育資源に関する悩み	236	3.64	0.662	433	3.48	0.691	1,343	3.49	0.650
予算が足りない	236	3.52	0.822	436	3.32	0.766	1,348	3.32	0.769
必要な施設・設備が足りない	236	3.66	0.807	437	3.62	0.932	1,348	3.54	0.877
授業の時数が足りない	237	3.75	0.814	433	3.49	0.825	1,345	3.61	0.809
授業方法や評価に関する悩み	236	3.43	0.532	435	3.42	0.632	1,341	3.46	0.603
生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	236	3.58	0.803	435	3.55	0.797	1,345	3.61	0.811
活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	236	3.22	0.715	436	3.20	0.842	1,346	3.25	0.816
教員の授業スキルが不足している	236	3.50	0.700	437	3.51	0.806	1,347	3.52	0.763

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 2015 年度からの悩みの変化について、「1. 悩みが減った」「2. 少し悩みが減った」「3. 変わらない」「4. 少し悩みが増えた」「5. 悩みが増えた」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

2.8. 組織文化

参加型授業の実施を支えると考えられる組織文化について調査した。教科の組織文化に関する 10 項目について「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

その結果、「各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている」(M=4.07, SD=0.793)、「各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている」(M=3.96, SD=0.796)、「各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している」(M=3.96, SD=0.737) などの項目が上位であった。一方、「教材研究のための時間が確保されている」(M=2.37, SD=1.022)、「各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない」(M=3.34, SD=0.979)、「各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる」(M=3.67, SD=0.815) などの項目が下位であった。(表 50、図 19)

因子分析の結果、これらの項目は、「教師自身の成長意欲」「自律的な仕事環境」「教師間の支え合い」の 3 つに大きく分類できた。

教科別の結果を表 51 に示した。分散分析の結果、「教師自身の成長意欲」「教師間の支え合い」において、教科ごとの組織文化は 5%水準で有意に異なっていた。一方で、いずれの組織文化についても、効果量の値は小さかった。(「教師自身の成長意欲」で $F(4,1341)=2.476$, $p<.05$, $\eta^2=.007$、「自律的な仕事環境」で $F(4,1335)=0.684$, $n.s.$, $\eta^2=.002$、「教師間の支え合い」で $F(4,1347)=11.591$, $p<.001$, $\eta^2=.033$)

従って、教科の組織文化について、教科による差はほとんどないと言える。

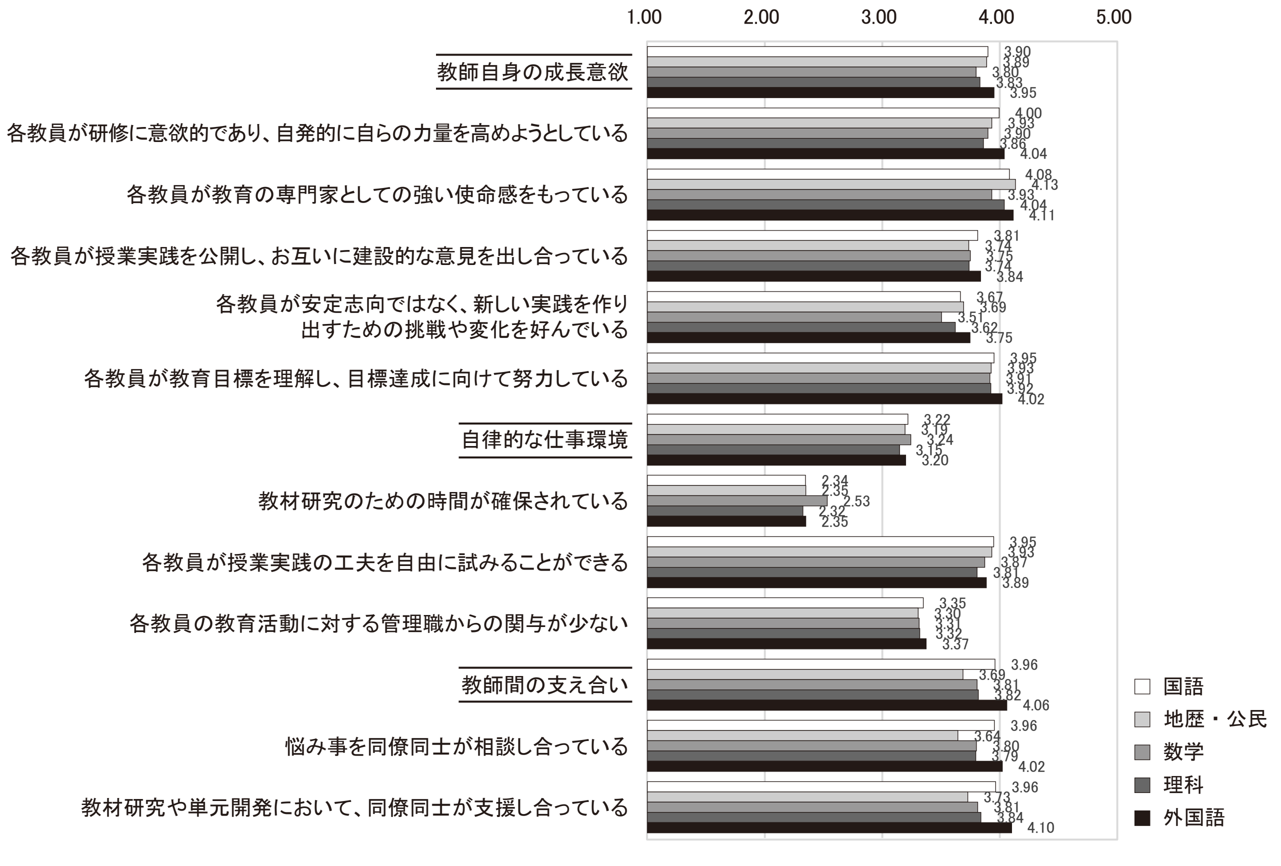


図 19 教科における組織文化

表 50 教科における組織文化（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
教師自身の成長意欲	1,346	3.89	0.636			
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	1,357	3.96	0.796	7,047	270	8,674
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	1,353	4.07	0.793	7,047	274	8,674
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	1,352	3.79	0.846	7,047	275	8,674
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	1,356	3.67	0.815	7,047	271	8,674
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	1,356	3.96	0.737	7,047	271	8,674
自律的な仕事環境	1,340	3.20	0.623			
教材研究のための時間が確保されている	1,355	2.37	1.022	7,047	272	8,674
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	1,351	3.89	0.858	7,047	276	8,674
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	1,347	3.34	0.979	7,047	280	8,674
教師間の支え合い	1,352	3.91	0.745			
悩み事を同僚同士が相談し合っている	1,355	3.88	0.825	7,047	272	8,674
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	1,353	3.93	0.815	7,047	274	8,674

続き

項目	あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまりあて はまらない	あてはま らない
教師自身の成長意欲					
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	331	710	260	47	9
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	421	655	236	34	7
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	249	669	349	67	18
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	190	620	461	73	12
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	298	747	273	35	3
自律的な仕事環境					
教材研究のための時間が確保されている	35	151	385	491	293
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	317	670	276	75	13
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	193	319	642	139	54
教師間の支え合い					
悩み事を同僚同士が相談し合っている	284	714	287	52	18
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	320	691	281	49	12

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 教科における各教員の考え方や行動について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

表 51 教科別の教科における組織文化（単一選択）

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教師自身の成長意欲	285	3.90	0.620	202	3.89	0.678	186	3.80	0.608
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	285	4.00	0.776	205	3.93	0.831	188	3.90	0.764
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	285	4.08	0.753	202	4.13	0.845	188	3.93	0.788
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	285	3.81	0.812	205	3.74	0.891	187	3.75	0.807
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	285	3.67	0.803	205	3.69	0.856	188	3.51	0.791
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	285	3.95	0.728	205	3.93	0.798	187	3.91	0.728
自律的な仕事環境	282	3.22	0.629	202	3.19	0.643	187	3.24	0.576
教材研究のための時間が確保されている	285	2.34	1.011	204	2.35	1.124	188	2.53	0.989
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	284	3.95	0.852	204	3.93	0.791	187	3.87	0.826
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	283	3.35	1.011	204	3.30	1.034	188	3.31	0.955
教師間の支え合い	285	3.96	0.705	205	3.69	0.772	186	3.81	0.715
悩み事を同僚同士が相談し合っている	285	3.96	0.799	205	3.64	0.905	187	3.80	0.789
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	285	3.96	0.764	205	3.73	0.836	186	3.81	0.807

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
教師自身の成長意欲	235	3.83	0.603	438	3.95	0.651	1,346	3.89	0.636
各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	238	3.86	0.797	441	4.04	0.798	1,357	3.96	0.796
各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	238	4.04	0.770	440	4.11	0.802	1,353	4.07	0.793
各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	236	3.74	0.787	439	3.84	0.892	1,352	3.79	0.846
各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	237	3.62	0.770	441	3.75	0.828	1,356	3.67	0.815
各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	238	3.92	0.671	441	4.02	0.751	1,356	3.96	0.737
自律的な仕事環境	236	3.15	0.585	433	3.20	0.649	1,340	3.20	0.623
教材研究のための時間が確保されている	238	2.32	0.950	440	2.35	1.028	1,355	2.37	1.022
各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	238	3.81	0.879	438	3.89	0.893	1,351	3.89	0.858
各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	236	3.32	0.868	436	3.37	1.001	1,347	3.34	0.979
教師間の支え合い	237	3.82	0.706	439	4.06	0.756	1,352	3.91	0.745
悩み事を同僚同士が相談し合っている	238	3.79	0.777	440	4.02	0.812	1,355	3.88	0.825
教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	237	3.84	0.792	440	4.10	0.821	1,353	3.93	0.815

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 教科における各教員の考え方や行動について、「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」「3. どちらともいえない」「4. ややあてはまる」「5. あてはまる」の選択肢から、あてはまるものを１つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

4. カテゴリは因子分析の結果による。確認的因子分析の結果、十分な適合度が得られた。

2.9. 校内研修

参加型授業の実施を支えると考えられる校内研修の実態について調査した。各教科においてアクティブラーニングに関する校内研修を年に何回実施しているかを尋ねたところ、最少で 0 回、最多で 33 回、平均は年間 1.54 回であった。教科別では、地歴・公民科の 1.90 回が最も多く、外国語科での 1.32 回が最も少なかった。（表 52、図 20）

外部機関によるアクティブラーニングに関する研修会をどのように利用しているかについては、「教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している」（30.3%）と「教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている」（29.4%）が多く、「教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている」（22.1%）、「教科のほとんどの教員が校務として参加している」（17.5%）と続いた。ほとんどの教員が校務として参加している教科もあれば、完全に各教員の判断に任せている教科もあり、外部機関による研修の利用実態は様々であった。(表 53、図 21)

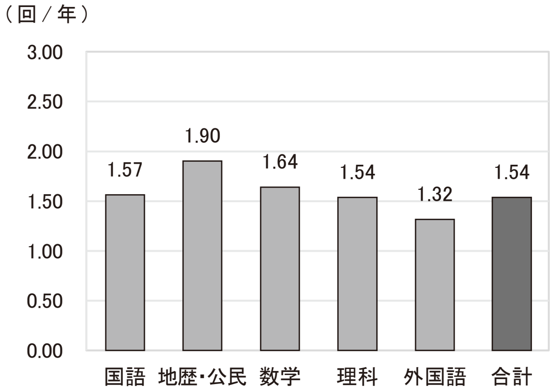


図 20 教科別のアクティブラーニングに関する校内研修の回数

表 52 アクティブラーニングに関する校内研修の回数

ALに関する校内研修の回数	度数	平均値	標準偏差
国語	271	1.57	2.571
地歴・公民	187	1.90	2.552
数学	183	1.64	1.846
理科	221	1.54	1.808
外国語	416	1.32	1.886
合計	1,278	1.54	2.142

（注）1. 教科主任調査の結果による。
2. 各教科の教員が 1 人でも参加した学校主催のアクティブラーニングに関する校内研修の年間の回数について尋ねた。
3. 教科で参加型授業に取り組んでいる場合にのみ尋ねた。

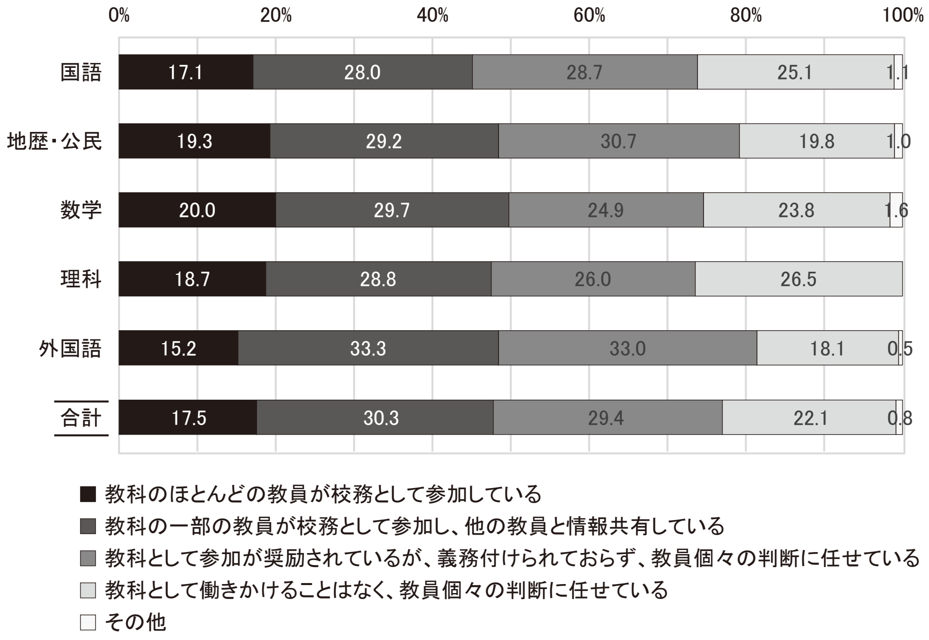


図 21 教科における外部機関が主催するアクティブラーニングに関する研修の利用方法

表 53 教科における外部機関が主催するアクティブラーニングに関する研修の利用方法（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
教科のほとんどの教員が校務として参加している	47	17.1	37	19.3	37	20.0	41	18.7	64	15.2	226	17.5
教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している	77	28.0	56	29.2	55	29.7	63	28.8	140	33.3	391	30.3
教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、個々の判断に任せている	79	28.7	59	30.7	46	24.9	57	26.0	139	33.0	380	29.4
教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている	69	25.1	38	19.8	44	23.8	58	26.5	76	18.1	285	22.1
その他	3	1.1	2	1.0	3	1.6	0	0.0	2	0.5	10	0.8
有効回答数	275	100.0	192	100.0	185	100.0	219	100.0	421	100.0	1,292	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無効回答	1		0		0		0		0		1	
無回答	64		66		41		68		95		334	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

（注）1. 教科主任調査の結果による。
2. 教科において教育委員会や外部機関が主催するアクティブラーニングに関する研修の利用方法について尋ねた。
3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

2.10. 参加型授業への学習環境の導入・活用状況

参加型授業を実施する際に ICT 等の学習環境を活用しているかどうか、学習環境の活用状況について調査した。タブレット型コンピュータ（生徒用)、インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用)、実物投影機（書画カメラ)、プロジェクタ、電子黒板、クリッカー、グループ学習室、デジタル教科書の学習環境について、学校に導入されているか、それを参加型授業に活用しているかという観点から、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の 5 段階で尋ねた。

「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」を「活用している」と捉えて、教科における活用状況を集計した結果、参加型授業において最も活用されているのは「プロジェクタ」で、74.8%の教科で活用されていた。以下、「実物投影機（書画カメラ)」(39.9%)、「コンピュータ（生徒用)」(39.7%)、「電子黒板」(21.7%)、「タブレット型コンピュータ（生徒用)」(20.9%)、「デジタル教科書」(14.9%)、「グループ学習室」(12.2%)、「クリッカー」(3.6%）と続いた。活用している教科の割合が低いものについては、クリッカーで 90.2%、グループ学習室で 79.2%、デジタル教科書で 67.9%の教科が「導入する予定はない」と回答しており、これらの設備はそもそも学校に導入されていない場合が多かった。（表 54～表 61、図 22）

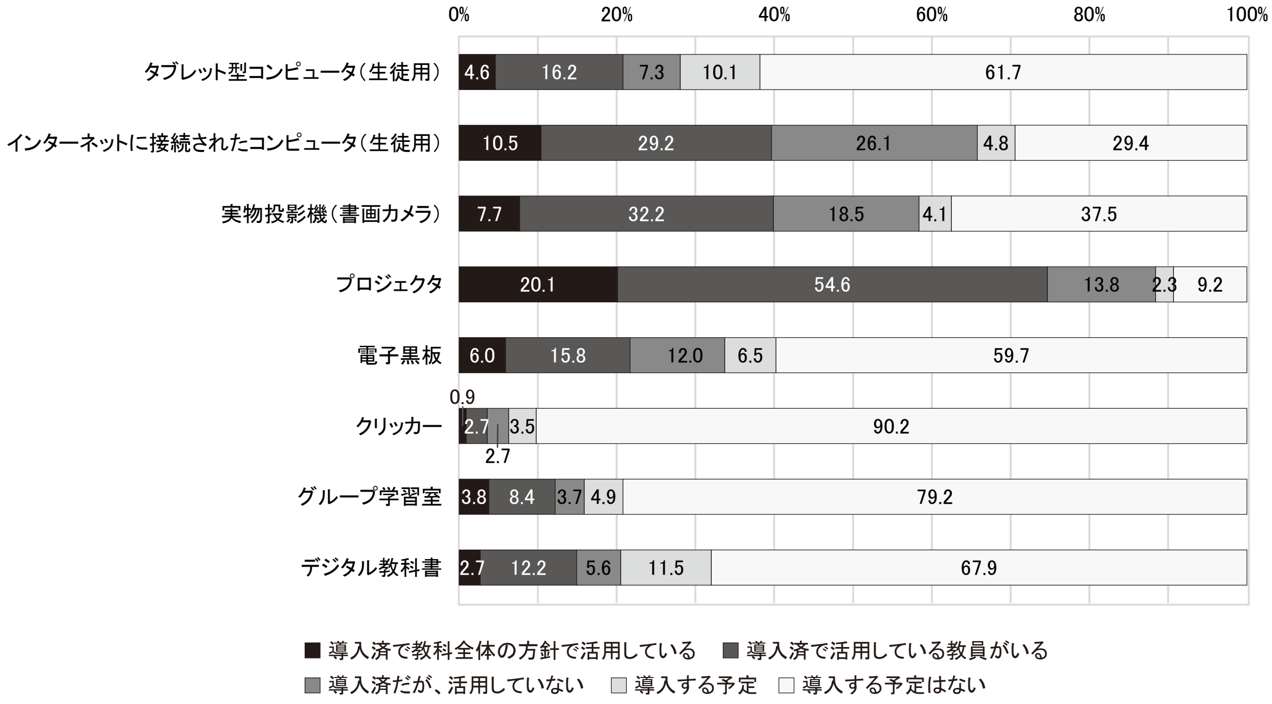


図 22 参加型授業への学習環境の導入・活用状況

表 54 参加型授業へのタブレット型コンピュータ（生徒用）の導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	8	2.8	9	4.3	10	5.3	13	5.5	23	5.2	63	4.6
導入済で活用している教員がいる	38	13.2	38	18.2	28	14.9	54	22.9	63	14.3	221	16.2
導入済だが、活用していない	31	10.8	16	7.7	7	3.7	13	5.5	32	7.3	99	7.3
導入する予定	22	7.6	27	12.9	25	13.3	30	12.7	34	7.7	138	10.1
導入する予定はない	189	65.6	119	56.9	118	62.8	126	53.4	289	65.5	841	61.7
有効回答数	288	100.0	209	100.0	188	100.0	236	100.0	441	100.0	1,362	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無回答	52		49		38		51		75		265	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

（注）1. 教科主任調査の結果による。

2. 参加型授業へのタブレット型コンピュータ（生徒用）の導入・活用状況について、「すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している」「すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる」「すでに導入しているが参加型学習には活用していない」「今後、導入する予定」「導入する予定はない」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3. 教科で参加型授業に取り組んでいない場合は、非該当とした。

以上の注は表 55～表 61 についても同様。

表 55 参加型授業へのインターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）の導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	15	5.3	29	14.1	13	6.9	31	13.1	54	12.2	142	10.5
導入済で活用している教員がいる	65	22.8	65	31.6	46	24.5	81	34.2	140	31.7	397	29.2
導入済だが、活用していない	92	32.3	39	18.9	53	28.2	53	22.4	118	26.7	355	26.1
導入する予定	13	4.6	13	6.3	7	3.7	14	5.9	18	4.1	65	4.8
導入する予定はない	100	35.1	60	29.1	69	36.7	58	24.5	112	25.3	399	29.4
有効回答数	285	100.0	206	100.0	188	100.0	237	100.0	442	100.0	1,358	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	55		51		38		50		74		268	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

表 56 参加型授業への実物投影機（書画カメラ）の導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	10	3.5	19	9.2	12	6.4	33	14.0	30	6.9	104	7.7
導入済で活用している教員がいる	83	29.2	64	30.9	69	36.7	97	41.3	122	28.0	435	32.2
導入済だが、活用していない	54	19.0	40	19.3	32	17.0	40	17.0	84	19.3	250	18.5
導入する予定	8	2.8	6	2.9	5	2.7	16	6.8	20	4.6	55	4.1
導入する予定はない	129	45.4	78	37.7	70	37.2	49	20.9	180	41.3	506	37.5
有効回答数	284	100.0	207	100.0	188	100.0	235	100.0	436	100.0	1,350	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無回答	56		51		38		52		80		277	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

表 57 参加型授業へのプロジェクタの導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	31	10.8	53	25.2	22	11.6	74	31.1	95	21.5	275	20.1
導入済で活用している教員がいる	141	49.0	116	55.2	104	55.0	131	55.0	255	57.7	747	54.6
導入済だが、活用していない	55	19.1	24	11.4	30	15.9	19	8.0	60	13.6	188	13.8
導入する予定	9	3.1	4	1.9	6	3.2	5	2.1	7	1.6	31	2.3
導入する予定はない	52	18.1	13	6.2	27	14.3	9	3.8	25	5.7	126	9.2
有効回答数	288	100.0	210	100.0	189	100.0	238	100.0	442	100.0	1,367	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無回答	52		48		37		49		74		260	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

表 58 参加型授業への電子黒板の導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	8	2.8	20	9.6	9	4.8	15	6.4	29	6.6	81	6.0
導入済で活用している教員がいる	35	12.2	39	18.8	32	16.9	40	17.0	69	15.6	215	15.8
導入済だが、活用していない	27	9.4	19	9.1	29	15.3	41	17.4	48	10.9	164	12.0
導入する予定	18	6.3	16	7.7	8	4.2	19	8.1	28	6.3	89	6.5
導入する予定はない	200	69.4	114	54.8	111	58.7	120	51.1	267	60.5	812	59.7
有効回答数	288	100.0	208	100.0	189	100.0	235	100.0	441	100.0	1,361	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	52		49		37		52		75		265	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

表 59 参加型授業へのクリッカーの導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	0	0.0	1	0.5	0	0.0	2	0.9	9	2.1	12	0.9
導入済で活用している教員がいる	2	0.7	4	2.0	7	3.8	8	3.6	14	3.2	35	2.7
導入済だが、活用していない	2	0.7	8	4.0	5	2.7	5	2.3	16	3.7	36	2.7
導入する予定	10	3.6	9	4.5	4	2.2	12	5.4	11	2.5	46	3.5
導入する予定はない	263	94.9	179	89.1	167	91.3	195	87.8	385	88.5	1,189	90.2
有効回答数	277	100.0	201	100.0	183	100.0	222	100.0	435	100.0	1,318	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	63		56		43		65		81		308	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

表 60 参加型授業へのグループ学習室の導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	7	2.4	6	2.9	5	2.7	10	4.3	23	5.2	51	3.8
導入済で活用している教員がいる	19	6.6	28	13.5	9	4.8	22	9.4	36	8.2	114	8.4
導入済だが、活用していない	15	5.2	6	2.9	5	2.7	14	6.0	10	2.3	50	3.7
導入する予定	9	3.1	15	7.2	12	6.4	10	4.3	20	4.6	66	4.9
導入する予定はない	237	82.6	152	73.4	156	83.4	177	76.0	350	79.7	1,072	79.2
有効回答数	287	100.0	207	100.0	187	100.0	233	100.0	439	100.0	1,353	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	53		50		39		54		77		273	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

表 61 参加型授業へのデジタル教科書の導入・活用状況（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
導入済で教科全体の方針で活用している	0	0.0	2	1.0	4	2.1	7	3.0	24	5.5	37	2.7
導入済で活用している教員がいる	18	6.3	12	5.8	25	13.3	34	14.7	76	17.3	165	12.2
導入済だが、活用していない	7	2.4	7	3.4	18	9.6	18	7.8	26	5.9	76	5.6
導入する予定	31	10.8	32	15.5	17	9.0	30	12.9	46	10.5	156	11.5
導入する予定はない	230	80.4	153	74.3	124	66.0	143	61.6	268	60.9	918	67.9
有効回答数	286	100.0	206	100.0	188	100.0	232	100.0	440	100.0	1,352	100.0
非該当	1,408		1,459		1,524		1,439		1,217		7,047	
無効回答	0		1		0		0		0		1	
無回答	54		51		38		55		76		274	
合計	1,748		1,717		1,750		1,726		1,733		8,674	

3.　教員調査の集計結果

教員調査では、各教科主任に「各教科において参加型授業に力を入れて取り組んでいる先生を1人思い浮かべて」もらい、その教員に調査への回答を依頼した。また、その教員に、2015 年度から調査時（2016 年 8 月）までに実施した授業の中で「最もうまくいったと思われる単元」を1つ思い浮かべてもらい、その単元でどのような授業を行ったかについて回答してもらった。

教員調査の結果は、全国の高等学校の各教科において参加型授業に力を入れて取り組んでいる教員のデータであり、全国の高等学校の教員を代表するデータではないことに注意されたい。

3.1.　実施された科目

最もうまくいったと思われる単元として各教員が思い浮かべた単元の科目は、国語科では「現代文 A・B」が、地歴・公民科では「現代社会」が、数学科では「数学Ⅰ」が、理科では「生物基礎」など各基礎科目が、外国語科では「コミュニケーション英語Ⅰ」が多かった（表 62～表 66)。

表 62 国語科で最もうまくいったと思われる単元の科目（単一選択）

項目	度数	%
国語総合（現代文）	454	29.2
国語総合（古典）	153	9.8
現代文A・B	506	32.6
古典A・B	206	13.3
国語表現	171	11.0
その他	64	4.1
有効回答	1,554	100.0
無効回答	19	
無回答	2	
合計	1,575	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の科目について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。
以上の注は表 63～表 66 についても同様。

表 63 地歴・公民科で最もうまくいったと思われる単元の科目（単一選択）

項目	度数	%
世界史A・B	259	18.2
日本史A・B	261	18.3
地理A・B	218	15.3
現代社会	369	25.9
倫理	65	4.6
政治経済	163	11.4
その他	90	6.3
有効回答	1,425	100.0
無効回答	24	
無回答	8	
合計	1,457	

表 64 数学科で最もうまくいったと思われる単元の科目（単一選択）

項目	度数	%
数学Ⅰ	528	41.8
数学Ⅱ	233	18.4
数学Ⅲ	101	8.0
数学A	211	16.7
数学B	85	6.7
数学活用	21	1.7
その他	84	6.7
有効回答	1,263	100.0
無効回答	46	
無回答	5	
合計	1,314	

表 65 理科で最もうまくいったと思われる単元の科目（単一選択）

項目	度数	%
科学と人間生活	75	5.3
物理基礎	217	15.5
物理	140	10.0
化学基礎	198	14.1
化学	158	11.3
生物基礎	238	17.0
生物	186	13.2
地学基礎	65	4.6
地学	9	0.6
理科課題研究	57	4.1
その他	61	4.3
有効回答	1,404	100.0
無効回答	35	
無回答	2	
合計	1,441	

表 66 外国語科で最もうまくいったと思われる単元の科目（単一選択）

項目	度数	%
コミュニケーション英語基礎	12	0.8
コミュニケーション英語Ⅰ	466	31.2
コミュニケーション英語Ⅱ	352	23.6
コミュニケーション英語Ⅲ	130	8.7
英語表現Ⅰ	161	10.8
英語表現Ⅱ	141	9.4
英語会話	101	6.8
その他	130	8.7
有効回答	1,493	100.0
無効回答	40	
無回答	5	
合計	1,538	

3.2. 実施された学年

最もうまくいったと思われる単元が実施された学年は、1 年が 38.4%、2 年が 34.1%、3 年が 27.6%と、学年による大きな違いは見られなかった。

ただし、教科によって若干の違いは見られ、国語科では 1 年の単元が、地歴・公民科では 3 年の単元が、数学科では 1 年の単元が、理科では 2 年の単元が、外国語科では 1 年の単元が多かった。

表 67 単元が実施された学年（単一選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1年	582	37.5	427	30.2	717	56.1	378	27.2	638	42.3	2,742	38.4
2年	511	32.9	491	34.7	327	25.6	590	42.4	517	34.2	2,436	34.1
3年	461	29.7	497	35.1	235	18.4	423	30.4	355	23.5	1,971	27.6
有効回答数	1,554	100.0	1,415	100.0	1,279	100.0	1,391	100.0	1,510	100.0	7,149	100.0
無効回答	13		31		24		41		20		129	
無回答	8		11		11		9		8		47	
合計	1,575		1,457		1,314		1,441		1,538		7,325	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元が実施された学年について、選択肢からあてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3.3. 扱った分野・テーマなど

最もうまくいったと思われる単元で扱った分野やテーマなどについて尋ねた。

3.3.1. 国語科の単元で扱った分野・テーマ

国語科の単元で扱った分野・テーマは、「小説」が 47.0%と最も多く、「評論」(20.4%)、「古文の物語／説話／軍記」(15.4%) と続いた。

表 68 国語科の単元で扱った分野・テーマ（複数選択）

項目	度数	%
現代文		
小説	705	47.0
評論	306	20.4
詩歌	124	8.3
その他	198	13.2
古典		
古文の物語／説話／軍記	231	15.4
古文の随筆／日記／紀行	116	7.7
和歌	47	3.1
ストーリー展開が中心にある漢文	95	6.3
思想・評論など主張や議論が中心にある漢文	41	2.7
漢詩・詩話	27	1.8
その他	29	1.9
有効回答数	1,500	
無回答	75	
合計	1,575	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の分野・テーマについて、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

3.3.2. 国語科の単元で扱った作品

国語科の単元で扱った作品は、芥川龍之介『羅生門』が 16.6%で最も多く、中島敦『山月記』(9.7%)、夏目漱石『こころ』(8.0%) と続いた。

表 69 国語科の単元で扱った作品（複数選択）

項目	度数	%
羅生門	217	16.6
山月記	127	9.7
こころ	104	8.0
舞姫	45	3.5
伊勢物語	41	3.1
史記（鴻門之会、完璧而帰、廉頗・藺相如列伝、項羽と劉邦、項王の最期、鶏鳴狗盗、季札挂剣、など）	36	2.8
枕草子	36	2.8
水の東西	30	2.3
源氏物語	30	2.3
徒然草	27	2.1
宇治拾遺物語	26	2.0
平家物語	22	1.7
夢十夜	21	1.6
檸檬	21	1.6
永訣の朝	21	1.6
十八史略（臥薪嘗胆、先従隗始、莫敢飾詐、管鮑之交、赤壁之戦、など）	17	1.3
大鏡	16	1.2
竹取物語	14	1.1
山椒魚	14	1.1
「である」ことと「する」こと	13	1.0
赤い繭	12	0.9
土佐日記	11	0.8
更級日記	10	0.8
城の崎にて	10	0.8
その他	707	54.2
有効回答数	1,304	
無回答	271	
合計	1,575	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 単元で扱った作品を 2 つまで自由記述形式で尋ね、度数が 10 以上のものについて集計した。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

3.3.3. 数学科の単元で扱った分野・テーマ

数学科の単元で扱った分野･テーマは､｢二次関数｣が 27.8%と最も多く､｢場合の数と確率｣(17.7%)､｢図形と計量｣（17.1%）と続いた。

表 70 数学科の単元で扱った分野・テーマ（複数選択）

項目	度数	%
数学Ⅰ		
数と式	207	15.9
二次関数	361	27.8
図形と計量	222	17.1
データの分析	153	11.8
その他	14	1.1
数学Ⅱ		
いろいろな式	92	7.1
図形と方程式	137	10.5
指数関数・対数関数	92	7.1
三角関数	118	9.1
微分・積分の考え	95	7.3
その他	6	0.5
数学Ⅲ		
平面上の曲線と複素数平面	45	3.5
極限	61	4.7
微分法	79	6.1
積分法	67	5.2
その他	8	0.6
数学A		
場合の数と確率	230	17.7
整数の性質	74	5.7
図形の性質	92	7.1
その他	3	0.2
数学B		
数列	90	6.9
ベクトル	94	7.2
確率分布と統計的な推測	12	0.9
その他	3	0.2
数学活用		
数と図形と人間の活動	16	1.2
遊びの中の数学	13	1.0
社会生活と数学	13	1.0
数学的な表現の工夫	10	0.8
データの分析	7	0.5
その他	5	0.4
その他	33	2.5
有効回答数	1,299	
無回答	15	
合計	1,314	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の分野・テーマについて、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

3.3.4. 理科の単元で扱った分野・テーマ

理科の単元で扱った分野・テーマは、物理基礎「力学」が 14.9%と最も多く、生物基礎「生物と遺伝子」(10.7%)、化学基礎「物質の変化」(10.4%) と続いた。

表 71 理科の単元で扱った分野・テーマ（複数選択）

項目	度数	%
科学と人間生活		
科学技術の発展	19	1.3
光や熱の科学	23	1.6
物質の科学	37	2.6
生命の科学	33	2.3
宇宙や地球の科学	28	2.0
これからの科学と人間生活	10	0.7
その他	7	0.5
物理基礎		
力学	213	14.9
熱	58	4.0
波	82	5.7
電気	37	2.6
エネルギーとその利用	24	1.7
その他	2	0.1
物理		
力学	103	7.2
熱	44	3.1
波動	60	4.2
電磁気	54	3.8
原子	16	1.1
その他	2	0.1
化学基礎		
化学と人間生活	30	2.1
物質の構成	144	10.0
物質の変化	149	10.4
その他	6	0.4
化学		
物質の状態	67	4.7
物質の変化と平衡	77	5.4
無機物質	79	5.5
有機化合物	78	5.4
天然有機化合物	17	1.2
合成高分子化合物	16	1.1
その他	2	0.1

項目	度数	%
生物基礎		
生物と遺伝子	153	10.7
生物の体内環境の維持	115	8.0
生物の多様性と生態系	133	9.3
その他	18	1.3
生物		
生命現象と物質	118	8.2
生殖と発生	75	5.2
生物の環境応答	80	5.6
生態と環境	65	4.5
進化と系統	37	2.6
その他	10	0.7
地学基礎		
惑星としての地球	26	1.8
活動する地球	35	2.4
移り変わる地球	26	1.8
大気と海洋	23	1.6
宇宙の構成	18	1.3
その他	5	0.3
地学		
地球の概観	8	0.6
地球の活動	10	0.7
地球の歴史	8	0.6
大気と海洋	4	0.3
宇宙の構造	9	0.6
その他	1	0.1
理科課題研究		
特定の自然の事物・現象に関する研究	43	3.0
先端科学や学際的領域に関する研究	19	1.3
自然環境の調査に基づく研究	27	1.9
科学を発展させた実験に関する研究	15	1.0
その他	8	0.6
その他	27	1.9
有効回答数	1,433	
無回答	8	
合計	1,441	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の分野・テーマについて、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

3.3.5. 外国語科の単元で扱った分野

外国語科の単元で扱った分野は、「自由英作文」が 45.7%と最も多く、「会話文・対話文」(31.9%)、「ヒアリング」(23.8%) と続いた。その他としては、「英文読解」「プレゼンテーション」「スピーキング」「リテリング」「ディベート」などが挙げられた。

表 72 外国語科の単元で扱った分野（複数選択）

項目	度数	%
英文和訳	278	18.6
文法・話法（会話文・対話文以外）	340	22.8
会話文・対話文	477	31.9
英作文（自由英作文以外）	327	21.9
自由英作文	683	45.7
ヒアリング	356	23.8
その他	498	33.3
有効回答数	1,494	
無回答	44	
合計	1,538	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の分野について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

3.4. 学習活動の種類

最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動の種類について尋ねた。15 種類の学習活動について、単元内での実施の有無を尋ねた。加えて、実施した学習活動については、その実施主体について「生徒 3 名以上のグループ」「生徒 2 名」「生徒個人」のいずれかを選択してもらった。(表 73～表 77)

実施されていた活動として多く挙げられたのは、「生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動」「生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション)」「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング)」などであった。教科によって大きな違いは見られなかったが、理科における「生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動」、外国語科における「生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング)」は、他教科よりも多く実施されていた。

実施主体としては、全体としては生徒 3 名以上のグループによる学習活動が多かった。生徒 3 名以上のグループでの学習活動は、「生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション)」や「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング)」などが、生徒個人での学習活動は、「生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動」や「生徒が学習について客観的にふりかえる活動」などが多かった。生徒 2 名での学習活動は、外国語科での「生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング)」に多く見られたが、全体としてあまり実施されていなかった。

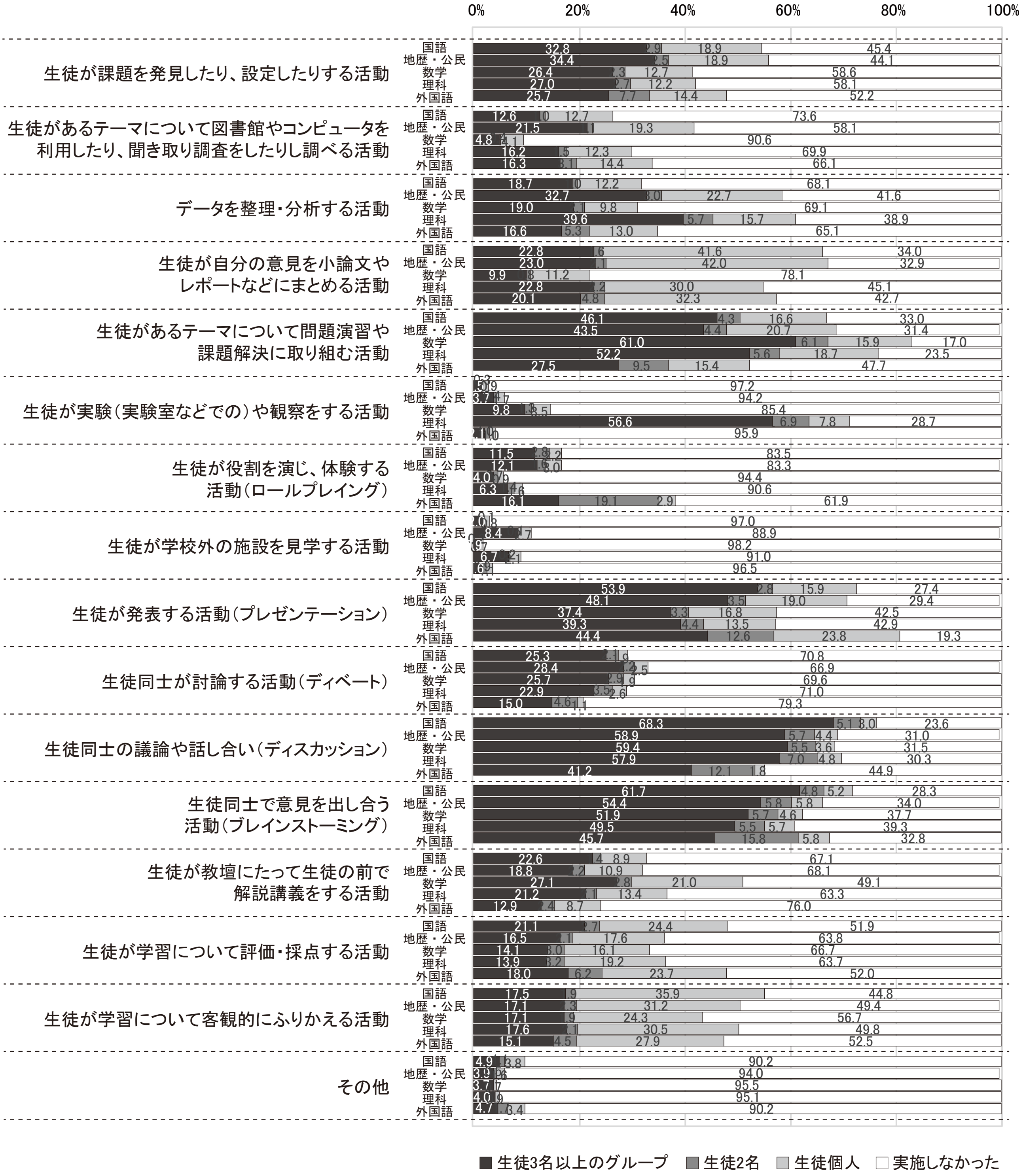


図 23 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動とその主体

表 73 国語科における単元で実施された学習活動とその主体（単一選択）

項目	実施の主体						実施しなかった		有効回答	無効回答	無回答	合計
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人							
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	度数	度数	度数
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	471	32.8	42	2.9	271	18.9	651	45.4	1,435	9	131	1,575
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	183	12.6	15	1.0	184	12.7	1,065	73.6	1,447	3	125	1,575
データを整理・分析する活動	270	18.7	14	1.0	176	12.2	983	68.1	1,443	10	122	1,575
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	333	22.8	23	1.6	607	41.6	495	34.0	1,458	11	106	1,575
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	671	46.1	63	4.3	241	16.6	480	33.0	1,455	8	112	1,575
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	22	1.5	5	0.3	13	0.9	1,392	97.2	1,432	1	142	1,575
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	167	11.5	40	2.8	32	2.2	1,208	83.5	1,447	1	127	1,575
生徒が学校外の施設を見学する活動	29	2.0	2	0.1	12	0.8	1,382	97.0	1,425	4	146	1,575
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	795	53.9	42	2.8	234	15.9	405	27.4	1,476	9	90	1,575
生徒同士が討論する活動（ディベート）	367	25.3	30	2.1	27	1.9	1,029	70.8	1,453	3	119	1,575
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	1,022	68.3	77	5.1	45	3.0	353	23.6	1,497	5	73	1,575
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	907	61.7	71	4.8	77	5.2	416	28.3	1,471	5	99	1,575
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	328	22.6	20	1.4	129	8.9	975	67.1	1,452	5	118	1,575
生徒が学習について評価・採点する活動	308	21.1	39	2.7	356	24.4	758	51.9	1,461	4	110	1,575
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	255	17.5	27	1.9	524	35.9	653	44.8	1,459	3	113	1,575
その他	22	4.9	5	1.1	17	3.8	404	90.2	448	2	1,125	1,575

（注）1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒 3 名以上のグループ」「生徒 2 名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

以上の注は表 74～表 77 についても同様。

表 74 地歴・公民科における単元で実施された学習活動とその主体（単一選択）

項目	実施の主体						実施しなかった		有効回答	無効回答	無回答	合計
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人							
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	度数	度数	度数
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	464	34.4	34	2.5	255	18.9	594	44.1	1,347	1	109	1,457
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	293	21.5	15	1.1	262	19.3	791	58.1	1,361	4	92	1,457
データを整理・分析する活動	443	32.7	40	3.0	308	22.7	563	41.6	1,354	3	100	1,457
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	313	23.0	29	2.1	572	42.0	449	32.9	1,363	2	92	1,457
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	593	43.5	60	4.4	282	20.7	428	31.4	1,363	2	92	1,457
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	50	3.7	5	0.4	23	1.7	1,262	94.2	1,340	0	117	1,457
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	163	12.1	21	1.6	41	3.0	1,122	83.3	1,347	0	110	1,457
生徒が学校外の施設を見学する活動	113	8.4	1	0.1	36	2.7	1,199	88.9	1,349	2	106	1,457
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	662	48.1	48	3.5	262	19.0	404	29.4	1,376	1	80	1,457
生徒同士が討論する活動（ディベート）	386	28.4	30	2.2	34	2.5	910	66.9	1,360	1	96	1,457
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	815	58.9	79	5.7	61	4.4	429	31.0	1,384	2	71	1,457
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	746	54.4	80	5.8	80	5.8	466	34.0	1,372	0	85	1,457
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	254	18.8	30	2.2	148	10.9	921	68.1	1,353	2	102	1,457
生徒が学習について評価・採点する活動	224	16.5	28	2.1	239	17.6	864	63.8	1,355	0	102	1,457
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	233	17.1	32	2.3	425	31.2	673	49.4	1,363	2	92	1,457
その他	17	3.9	2	0.5	7	1.6	408	94.0	434	0	1,023	1,457

表 75 数学科における単元で実施された学習活動とその主体（単一選択）

項目	実施の主体						実施しなかった		有効回答	無効回答	無回答	合計
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人							
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	度数	度数	度数
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	317	26.4	28	2.3	152	12.7	704	58.6	1,201	1	112	1,314
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	58	4.8	5	0.4	50	4.1	1,094	90.6	1,207	0	107	1,314
データを整理・分析する活動	230	19.0	25	2.1	119	9.8	836	69.1	1,210	1	103	1,314
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	119	9.9	10	0.8	135	11.2	940	78.1	1,204	1	109	1,314
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	761	61.0	76	6.1	199	15.9	212	17.0	1,248	2	64	1,314
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	118	9.8	16	1.3	42	3.5	1,030	85.4	1,206	0	108	1,314
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	48	4.0	9	0.7	11	0.9	1,138	94.4	1,206	1	107	1,314
生徒が学校外の施設を見学する活動	11	0.9	2	0.2	9	0.7	1,180	98.2	1,202	0	112	1,314
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	456	37.4	40	3.3	205	16.8	518	42.5	1,219	1	94	1,314
生徒同士が討論する活動（ディベート）	311	25.7	35	2.9	23	1.9	843	69.6	1,212	0	102	1,314
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	729	59.4	68	5.5	44	3.6	387	31.5	1,228	2	84	1,314
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	633	51.9	70	5.7	56	4.6	460	37.7	1,219	2	93	1,314
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	335	27.1	34	2.8	259	21.0	607	49.1	1,235	0	79	1,314
生徒が学習について評価・採点する活動	172	14.1	37	3.0	196	16.1	813	66.7	1,218	1	95	1,314
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	208	17.1	23	1.9	295	24.3	688	56.7	1,214	0	100	1,314
その他	15	3.7	0	0.0	3	0.7	384	95.5	402	1	911	1,314

表 76 理科における単元で実施された学習活動とその主体（単一選択）

項目	実施の主体						実施しなかった		有効回答	無効回答	無回答	合計
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人							
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	度数	度数	度数
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	350	27.0	35	2.7	158	12.2	752	58.1	1,295	5	141	1,441
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	210	16.2	20	1.5	160	12.3	907	69.9	1,297	3	141	1,441
データを整理・分析する活動	519	39.6	75	5.7	206	15.7	510	38.9	1,310	4	127	1,441
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	294	22.8	28	2.2	387	30.0	583	45.1	1,292	4	145	1,441
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	697	52.2	75	5.6	250	18.7	314	23.5	1,336	6	99	1,441
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	759	56.6	93	6.9	105	7.8	385	28.7	1,342	6	93	1,441
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	82	6.3	18	1.4	21	1.6	1,173	90.6	1,294	1	146	1,441
生徒が学校外の施設を見学する活動	87	6.7	2	0.2	27	2.1	1,178	91.0	1,294	1	146	1,441
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	513	39.3	57	4.4	176	13.5	561	42.9	1,307	7	127	1,441
生徒同士が討論する活動（ディベート）	299	22.9	45	3.5	34	2.6	926	71.0	1,304	3	134	1,441
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	765	57.9	93	7.0	63	4.8	400	30.3	1,321	5	115	1,441
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	654	49.5	73	5.5	75	5.7	519	39.3	1,321	3	117	1,441
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	277	21.2	28	2.1	175	13.4	827	63.3	1,307	4	130	1,441
生徒が学習について評価・採点する活動	181	13.9	41	3.2	250	19.2	829	63.7	1,301	4	136	1,441
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	229	17.6	27	2.1	396	30.5	647	49.8	1,299	3	139	1,441
その他	17	4.0	0	0.0	4	0.9	404	95.1	425	1	1,015	1,441

表 77 外国語科における単元で実施された学習活動とその主体（単一選択）

項目	実施の主体						実施しなかった		有効回答	無効回答	無回答	合計
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人							
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	度数	度数	度数
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	364	25.7	109	7.7	204	14.4	738	52.2	1,415	1	122	1,538
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	234	16.3	45	3.1	206	14.4	947	66.1	1,432	1	105	1,538
データを整理・分析する活動	237	16.6	76	5.3	185	13.0	930	65.1	1,428	0	110	1,538
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	289	20.1	69	4.8	464	32.3	613	42.7	1,435	5	98	1,538
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	391	27.5	135	9.5	219	15.4	679	47.7	1,424	5	109	1,538
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	30	2.1	14	1.0	14	1.0	1,357	95.9	1,415	3	120	1,538
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	230	16.1	273	19.1	42	2.9	885	61.9	1,430	5	103	1,538
生徒が学校外の施設を見学する活動	23	1.6	12	0.9	15	1.1	1,361	96.5	1,411	4	123	1,538
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	654	44.4	185	12.6	351	23.8	284	19.3	1,474	10	54	1,538
生徒同士が討論する活動（ディベート）	213	15.0	66	4.6	15	1.1	1,128	79.3	1,422	2	114	1,538
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	591	41.2	173	12.1	26	1.8	644	44.9	1,434	5	99	1,538
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	658	45.7	227	15.8	84	5.8	472	32.8	1,441	5	92	1,538
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	184	12.9	34	2.4	124	8.7	1,085	76.0	1,427	2	109	1,538
生徒が学習について評価・採点する活動	259	18.0	89	6.2	341	23.7	747	52.0	1,436	3	99	1,538
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	216	15.1	64	4.5	401	27.9	754	52.5	1,435	1	102	1,538
その他	19	4.7	7	1.7	14	3.4	367	90.2	407	0	1,131	1,538

3.5. 参加型授業を実施したタイミング

最もうまくいったと思われる単元の中で参加型授業を実施したタイミングについては、「その単元のおわりの頃の授業」が45.0%、「その単元の中頃の授業」が29.1%、「その単元での毎回の授業」が25.8%、「その単元のはじめの頃の授業」が20.0%と、単元の終わりの頃に参加型の学習活動が実施されることが多かった（表78、図24)。

教科別に見ると、地歴・公民科においては、「単元の毎回の授業」で実施する割合が他教科よりもやや低く、「単元のはじめの頃」で実施する割合がやや高かった。一方、外国語科においては、他教科よりも「単元の中頃」に実施する割合が低く、「単元のおわりの頃」に実施する割合が高かった。

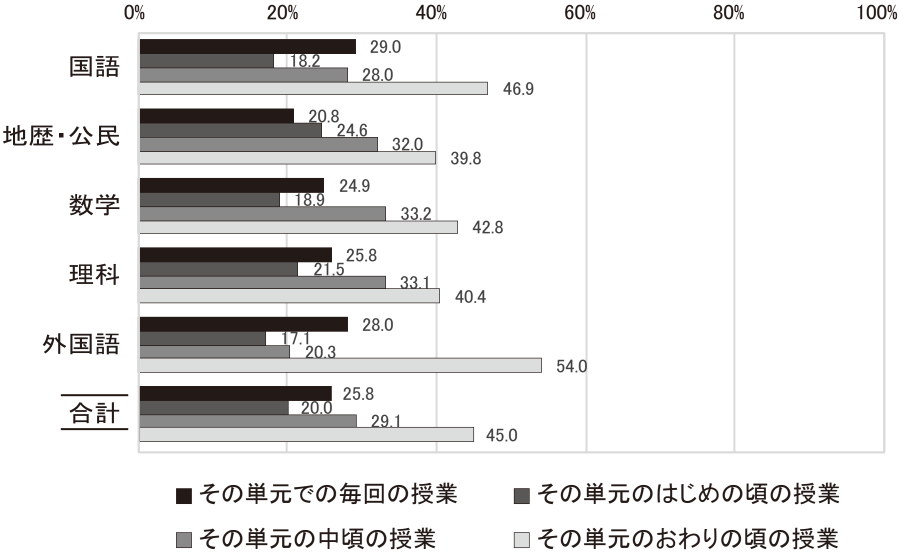


図24 参加型授業を実施したタイミング

表78 参加型授業を実施したタイミング（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
その単元での毎回の授業	447	29.0	290	20.8	321	24.9	357	25.8	417	28.0	1,832	25.8
その単元のはじめの頃の授業	281	18.2	343	24.6	243	18.9	297	21.5	254	17.1	1,418	20.0
その単元の中頃の授業	431	28.0	446	32.0	427	33.2	457	33.1	303	20.3	2,064	29.1
その単元のおわりの頃の授業	722	46.9	555	39.8	551	42.8	559	40.4	804	54.0	3,191	45.0
有効回答数	1,540		1,394		1,288		1,382		1,489		7,093	
無回答	35		63		26		59		49		232	
合計	1,575		1,457		1,314		1,441		1,538		7,325	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元で参加型授業を実施したタイミングについて、「その単元での毎回の授業」「その単元のはじめの頃の授業」「その単元の中頃の授業」「その単元のおわりの頃の授業」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

3.6. 参加型授業を実施した頻度

単元を実施した科目で参加型授業を実施した頻度は、「毎回の授業」が 18.4%、「学期に複数回」が 50.6%、「学期に 1 回」が 15.1%、「年に 1～2 回」が 15.9%であった（表 79、図 25)。

教科別に見ると、数学科、理科、外国語科では、20%以上が「毎回の授業」で実施していたが、国語科と地歴・公民科では 14%前後に留まっていた。数学科では、参加型授業の実施率は他教科に比べて低かったものの（p.17 参照)、実施の頻度は高いということがわかった。

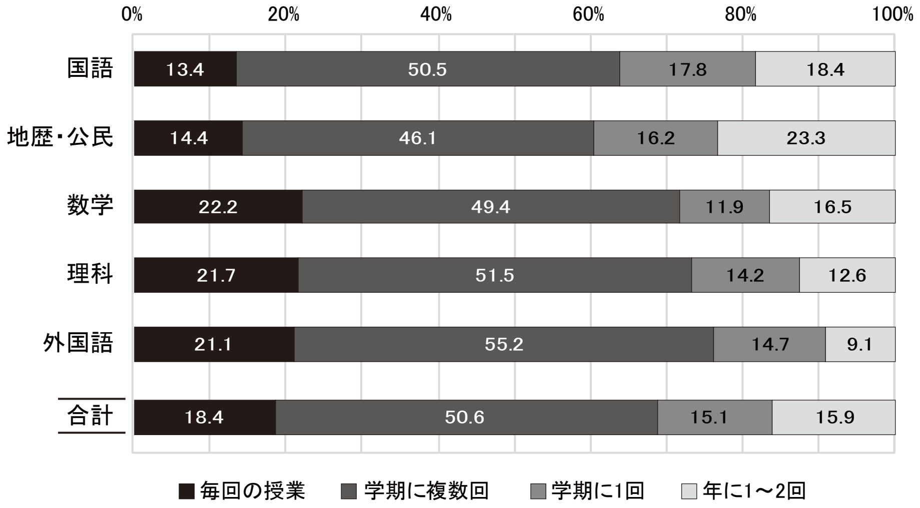


図 25 参加型授業を実施した頻度

表 79 参加型授業を実施した頻度（単一選択）

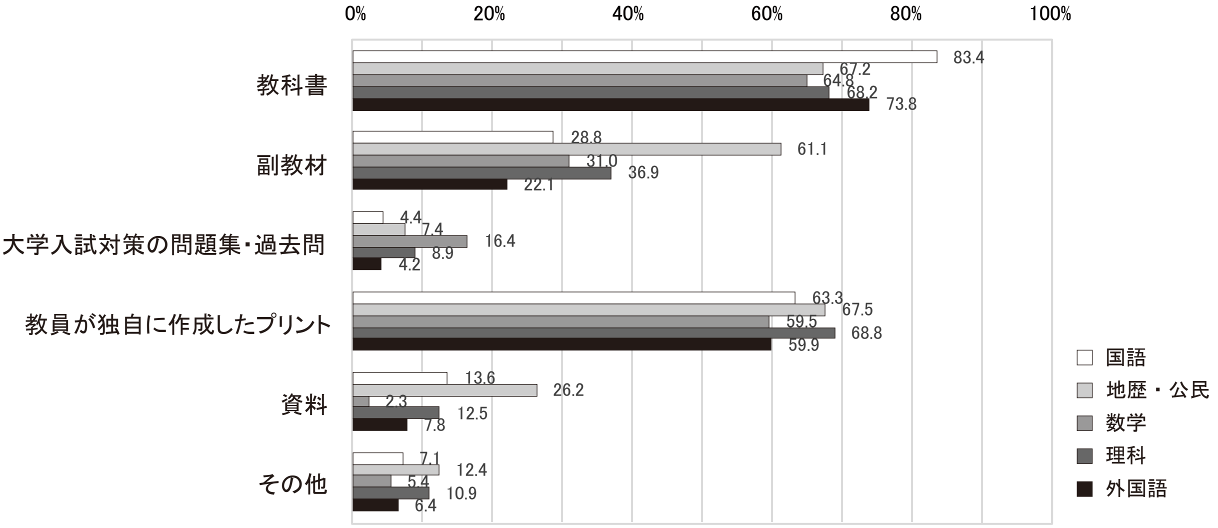
項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
毎回の授業	206	13.4	204	14.4	287	22.2	305	21.7	316	21.1	1,318	18.4
学期に複数回	778	50.5	653	46.1	639	49.4	723	51.5	829	55.2	3,622	50.6
学期に1回	275	17.8	230	16.2	154	11.9	200	14.2	220	14.7	1,079	15.1
年に1～2回	283	18.4	331	23.3	213	16.5	177	12.6	136	9.1	1,140	15.9
有効回答数	1,542	100.0	1,418	100.0	1,293	100.0	1,405	100.0	1,501	100.0	7,159	100.0
無効回答	2		2		4		1		3		12	
無回答	31		37		17		35		34		154	
合計	1,575		1,457		1,314		1,441		1,538		7,325	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の科目で参加型授業を実施した頻度について、「毎回の授業」「学期に複数回」「学期に 1 回」「年に 1～2 回」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択)。

3.7. 参加型授業で使用した教材

最もうまくいったと思われる単元で使用した教材は、いずれの教科でも「教科書」や「教員が独自に作成したプリント」が多かった。次いで「副教材（教科書以外の学校指定の補助教材）」の使用が多く、特に地歴・公民科での使用が多かった。（表 80～表 84、図 26）

「資料」「その他」の自由記述欄に多く挙げられたのは、「インターネットからの資料やデータ」「ビデオや DVD などの映像」「新聞記事」「図書館の書籍」などであった。各教科において特に多かった回答は、国語科では、教科書以外の書籍、新聞記事、図書館の書籍、辞典・辞書類など、地歴・公民科では、写真・動画などの視聴覚教材、新聞記事、図書館の書籍、地形図など、数学科では、公開されている計量データ、専門の論文・文献など、理科では、パワーポイント、実験器具・薬品、図書館の書籍、大学や研究所による資料、Newton 等の科学雑誌、分子模型キット、iPad など、外国語科では、パワーポイント、画像、映画や YouTube、海外のニュース記事、ALT のスピーチ・プレゼンなどであった。



（注）教員調査の結果による。

図 26 参加型授業で使用された教材

表 80 国語科の参加型授業で使用された教材（複数選択）

項目	度数	%
教科書	1,299	83.4
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	448	28.8
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	68	4.4
教員が独自に作成したプリント	985	63.3
資料	211	13.6
その他	111	7.1
有効回答数	1,557	
無回答	18	
合計	1,575	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元で使用した教材について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。
以上の注は表 81～表 84 についても同様。

表 81 地歴・公民科の参加型授業で使用された教材（複数選択）

項目	度数	%
教科書	968	67.2
教科書（本文）	923	64.1
教科書（本文以外）	515	35.7
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	881	61.1
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	107	7.4
教員が独自に作成したプリント	973	67.5
資料	378	26.2
その他	178	12.4
有効回答数	1,441	
無回答	16	
合計	1,457	

表 82 数学科の参加型授業で使用された教材（複数選択）

項目	度数	%
教科書	849	64.8
教科書（基本事項・例題）	633	48.3
教科書（練習問題）	499	38.1
教科書（巻末・章末・発展問題）	344	26.3
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	406	31.0
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	215	16.4
教員が独自に作成したプリント	780	59.5
資料	30	2.3
その他	71	5.4
有効回答数	1,310	
無回答	4	
合計	1,314	

表 83 理科の参加型授業で使用された教材（複数選択）

項目	度数	%
教科書	969	68.2
教科書（基本事項・例題）	717	50.5
教科書（発展問題）	211	14.8
教科書（観察・実験、探究活動）	484	34.1
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	525	36.9
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	127	8.9
教員が独自に作成したプリント	978	68.8
資料	177	12.5
その他	155	10.9
有効回答数	1,421	
無回答	20	
合計	1,441	

表 84 外国語科の参加型授業で使用された教材（複数選択）

項目	度数	%
教科書	1,123	73.8
教科書（基本事項・例題）	1,049	68.9
教科書（発展問題）	276	18.1
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	336	22.1
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	64	4.2
教員が独自に作成したプリント	911	59.9
資料	118	7.8
WEB上の記事や文章から	235	15.4
その他	98	6.4
有効回答数	1,522	
無回答	16	
合計	1,538	

（注）　「WEB 上の記事や文章から」という選択肢は外国語科のみのため図には省略した。

3.8. 参加型授業の効果

3.8.1. 参加型授業の効果

最もうまくいったと思われる単元で実施した参加型授業には生徒にどのような学力をつける効果があったか、25 項目の質問について「0. 意図していなかったので判断できない」「1. 効果はなかった」「2. あまり効果はなかった」「3. どちらともいえない」「4. やや効果はあった」「5. 効果はあった」の選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。そのうち「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までを 5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

また、国語科、数学科、外国語科については、上述の 25 項目に加え、各教科特有の効果について同様の形式で尋ねた（例えば、国語科の「語い力」「文法力」など）。

その結果、「教科内容に対する知的好奇心」（M=4.13, SD=0.754）、「自分の考えを言語で表現する力」（M=4.11, SD=0.759）、「各教科で身につけた知識・技能を活用する力」（M=4.03, SD=0.768）などの効果が上位であった。一方、「勤労観や職業観」（M=2.77, SD=0.920）、「社会の一員としての市民性意識」（M=2.89, SD=0.994）、「社会変化に対応できる柔軟性」（M=3.05, SD=0.839）などの効果が下位であった（表 85、図 27）。

因子分析の結果、これらの効果の実感は、「思考・表現力」「課題解決力」「教科基礎力」「教科応用力」「協働性」「主体性」「市民性」「入試・就職力」の 8 つに大きく分類できた。

教科別に見ると、分散分析の結果、「思考・表現力」「教科基礎力」「教科応用力」「協働性」「主体性」「市民性」「入試・就職力」において、教科ごとの効果の違いに 5%水準で有意な差が見られた。一方で、いずれの効果についても、効果量は小さかった。（「思考・表現力」で $F(4,5910)$=20.650, p<.001, η^2=.014、「課題解決力」で $F(4,5967)$=0.799, $n.s.$, η^2=.001、「教科基礎力」で $F(4,6264)$=7.272, p<.001, η^2=.005、「教科応用力」で $F(4,5909)$=43.279, p<.001, η^2=.028、「協働性」で $F(4,6714)$=10.816, p<.001, η^2=.006、「主体性」で $F(4,6201)$=20.172, p<.001, η^2=.013、「市民性」で $F(4,4131)$=41.367, p<.001, η^2=.039、「入試・就職力」で $F(4,5026)$=4.988, p<.01, η^2=.004）

従って、最もうまくいったと思われる単元で実施した参加型授業の効果について、教科による差はほとんどないと言える。

図 27 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の効果

表 85 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の効果（単一選択）

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	1,276	3.92	0.558	1,260	3.77	0.606	1,044	3.73	0.594
自分の考えを言語で表現する力	1,542	4.24	0.692	1,415	4.07	0.741	1,218	3.95	0.804
これまでにない発想をしようとする創造性	1,368	3.58	0.938	1,292	3.37	0.927	1,128	3.36	0.921
物事の道理や因果関係を理解する力	1,419	3.75	0.782	1,380	3.75	0.805	1,177	3.58	0.834
自分の考えを深める思考力	1,519	4.07	0.678	1,404	3.91	0.764	1,257	3.95	0.719
課題解決力	1,270	3.64	0.751	1,259	3.64	0.717	1,057	3.64	0.714
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	1,358	3.55	0.924	1,291	3.51	0.908	1,104	3.46	0.941
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	1,396	3.69	0.866	1,367	3.81	0.855	1,141	3.58	0.900
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	1,395	3.67	0.869	1,332	3.60	0.832	1,234	3.88	0.768
教科基礎力	1,373	3.90	0.606	1,294	3.82	0.627	1,073	3.87	0.580
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	1,431	3.81	0.793	1,375	3.92	0.777	1,267	4.08	0.707
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	1,439	3.91	0.792	1,385	3.96	0.797	1,280	4.11	0.704
文章などを正確に読み解く力	1,489	3.97	0.765	1,334	3.61	0.860	1,095	3.39	0.892
教科応用力	1,256	3.97	0.573	1,284	3.95	0.645	940	3.64	0.702
教科を越えた知識や理解の統合	1,279	3.51	0.910	1,296	3.60	0.921	959	3.16	1.025
教科内容に対する知的好奇心	1,508	4.25	0.679	1,415	4.18	0.742	1,266	3.95	0.809
物事を多面的に見る力	1,493	4.11	0.749	1,401	4.06	0.811	1,207	3.75	0.883
協働性	1,433	4.05	0.699	1,352	3.94	0.746	1,205	3.99	0.690
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	1,495	4.09	0.744	1,388	4.01	0.783	1,233	4.00	0.752
他者と協力するための社会性や協調性	1,447	3.99	0.786	1,363	3.88	0.844	1,224	3.98	0.774
主体性	1,264	3.60	0.648	1,230	3.51	0.673	1,184	3.69	0.654
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	1,298	3.48	0.830	1,269	3.42	0.825	1,228	3.72	0.827
何事にも積極的に取り組む意欲	1,469	3.71	0.726	1,360	3.59	0.789	1,253	3.77	0.731
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	1,424	3.54	0.783	1,339	3.49	0.797	1,228	3.55	0.820
市民性	781	2.92	0.761	1,018	3.11	0.713	669	2.69	0.789
勤労観や職業観	858	2.73	0.933	1,064	2.90	0.891	722	2.60	0.921
社会の一員としての市民性意識	869	2.84	0.954	1,150	3.22	0.978	703	2.58	0.944
社会変化に対応できる柔軟性	971	3.05	0.829	1,179	3.22	0.808	790	2.88	0.866
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	991	3.19	0.927	1,125	3.17	0.854	733	2.73	0.902
入試・就職力	1,022	3.44	0.729	1,078	3.31	0.753	881	3.38	0.796
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	1,210	3.55	0.852	1,189	3.40	0.919	1,004	3.39	0.938
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	1,194	3.34	0.921	1,183	3.23	0.932	1,084	3.57	0.975
就職で必要となる力	1,140	3.51	0.807	1,156	3.42	0.855	948	3.31	0.878

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	1,126	3.74	0.599	1,209	3.77	0.625	5,915	3.79	0.600
自分の考えを言語で表現する力	1,332	3.98	0.775	1,503	4.25	0.742	7,010	4.11	0.759
これまでにない発想をしようとする創造性	1,197	3.30	0.931	1,313	3.49	0.915	6,298	3.43	0.932
物事の道理や因果関係を理解する力	1,310	3.77	0.833	1,301	3.49	0.863	6,587	3.67	0.830
自分の考えを深める思考力	1,352	3.90	0.762	1,439	3.85	0.822	6,971	3.94	0.754
課題解決力	1,139	3.66	0.726	1,247	3.61	0.792	5,972	3.64	0.742
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	1,183	3.41	0.942	1,317	3.51	0.910	6,253	3.49	0.925
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	1,270	3.78	0.841	1,357	3.72	0.923	6,531	3.72	0.880
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	1,311	3.74	0.851	1,329	3.57	0.879	6,601	3.69	0.849
教科基礎力	1,162	3.83	0.586	1,367	3.93	0.626	6,269	3.87	0.608
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	1,366	4.10	0.728	1,482	4.02	0.750	6,921	3.98	0.760
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	1,368	4.05	0.746	1,487	4.11	0.769	6,959	4.03	0.768
文章などを正確に読み解く力	1,193	3.39	0.902	1,406	3.66	0.879	6,517	3.63	0.884
教科応用力	1,131	3.81	0.640	1,303	3.86	0.708	5,914	3.86	0.663
教科を越えた知識や理解の統合	1,167	3.44	0.957	1,342	3.67	0.947	6,043	3.49	0.962
教科内容に対する知的好奇心	1,380	4.17	0.726	1,483	4.10	0.784	7,052	4.13	0.754
物事を多面的に見る力	1,311	3.78	0.828	1,401	3.76	0.919	6,813	3.90	0.853
協働性	1,299	3.97	0.710	1,430	4.10	0.682	6,719	4.01	0.708
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	1,325	3.94	0.789	1,479	4.11	0.760	6,920	4.03	0.768
他者と協力するための社会性や協調性	1,333	3.99	0.776	1,448	4.08	0.778	6,815	3.99	0.795
主体性	1,200	3.63	0.672	1,328	3.73	0.664	6,206	3.63	0.666
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	1,248	3.55	0.865	1,370	3.70	0.824	6,413	3.58	0.842
何事にも積極的に取り組む意欲	1,346	3.72	0.746	1,467	3.86	0.743	6,895	3.73	0.752
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	1,325	3.58	0.832	1,424	3.59	0.797	6,740	3.55	0.806
市民性	745	2.78	0.768	923	2.99	0.735	4,136	2.92	0.764
勤労観や職業観	819	2.67	0.928	1,003	2.84	0.903	4,466	2.77	0.920
社会の一員としての市民性意識	800	2.67	0.984	1,029	2.94	0.971	4,551	2.89	0.994
社会変化に対応できる柔軟性	883	2.93	0.856	1,075	3.08	0.809	4,898	3.05	0.839
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	847	2.90	0.887	1,052	3.15	0.879	4,748	3.06	0.904
入試・就職力	938	3.41	0.733	1,112	3.43	0.780	5,031	3.39	0.759
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	1,109	3.52	0.870	1,253	3.53	0.894	5,765	3.48	0.896
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	1,162	3.53	0.913	1,256	3.37	0.925	5,879	3.40	0.941
就職で必要となる力	1,008	3.32	0.854	1,173	3.48	0.849	5,425	3.41	0.851

（注）1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型授業の効果について、「0. 意図していなかったので判断できない」および「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までの選択肢から、あてはまるものを１つずつ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

3.8.2. 参加型授業の教科特有の効果

教科特有の効果として、国語科では「読解力」（*M*=4.06, *SD*=0.735）や「記述力・論述力」（*M*=3.89, *SD*=0.771）を（表 86、図 28）、数学科では「知識・技能（基本事項・計算）の習得」（*M*=4.04, *SD*=0.709）や「解答方針を定める力」（*M*=3.91, *SD*=0.759）を（表 87、図 29）、外国語科では「語い力・文法力」（*M*=4.02, *SD*=0.752）や「スピーキング力」（*M*=4.02, *SD*=0.858）を（表 88、図 30）身につける上で効果があったと感じていた。

「その他」の自由回答を見ると、国語科・外国語科ともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力という回答が多かった。なお、国語科特有の回答としては、思考力、表現力、話す力、聞く力、自分で考える力などが挙げられ、外国語科特有の回答としては、批判的思考力、授業外で英語を活用する力などが挙げられた。

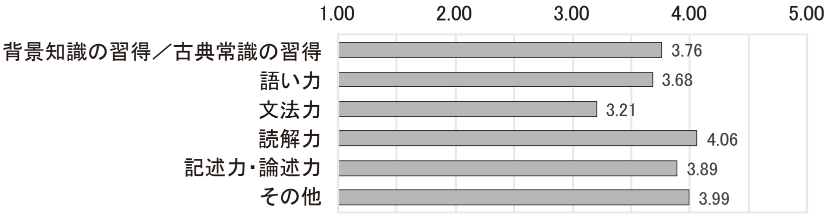


図 28 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の国語科特有の効果

表 86 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の国語科特有の効果（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	無回答 無効回答	合計
背景知識の習得／古典常識の習得	1,289	3.76	0.922	35	1,575
語い力	1,420	3.68	0.808	33	1,575
文法力	1,238	3.21	0.932	36	1,575
読解力	1,483	4.06	0.735	28	1,575
記述力・論述力	1,470	3.89	0.771	30	1,575
その他	184	3.99	0.899	1,218	1,575

続き

項目	効果は あった	やや効果は あった	どちらとも いえない	あまり効果 はなかった	効果は なかった	意図していなかったので判断できない
背景知識の習得／古典常識の習得	264	589	326	82	28	251
語い力	184	705	433	85	13	122
文法力	107	312	606	155	58	301
読解力	392	826	232	23	10	64
記述力・論述力	284	806	319	52	9	75
その他	65	58	57	2	2	173

（注）1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型授業の教科特有の効果について、「0. 意図していなかったので判断できない」および「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までの選択肢から、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

以上の注は表 87～表 88 も同様。

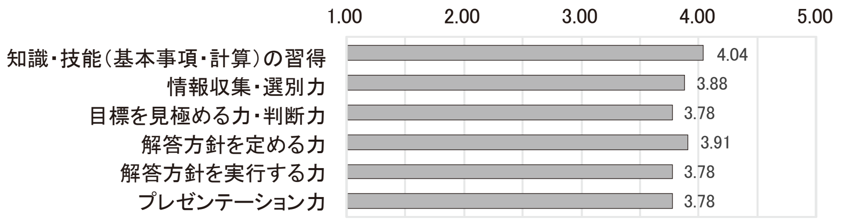


図 29 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の数学科特有の効果

表 87 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の数学科特有の効果（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	無回答 無効回答	合計
知識・技能（基本事項・計算）の習得	1,274	4.04	0.709	14	1,314
情報収集・選別力（問題文・図形・数学的表現から情報を読みとる力）	1,249	3.88	0.752	17	1,314
目標を見極める力・判断力（何が要求されているのか捉える力・構造理解する力）	1,254	3.78	0.779	15	1,314
解答方針を定める力（解法へのプランニング、次の一手の判断をする力）	1,255	3.91	0.759	13	1,314
解答方針を実行する力（方針の妥当性の評価、必要に応じた軌道修正、得られた結果の発展）	1,240	3.78	0.792	13	1,314
プレゼンテーション力（自分の考えを適切な言葉で表現できる力）	1,213	3.78	0.828	13	1,314

続き

項目	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
知識・技能（基本事項・計算）の習得	297	764	181	25	7	26
情報収集・選別力（問題文・図形・数学的表現から情報を読みとる力）	233	680	298	30	8	48
目標を見極める力・判断力（何が要求されているのか捉える力・構造理解する力）	213	607	388	39	7	45
解答方針を定める力（解法へのプランニング、次の一手の判断をする力）	260	667	285	40	3	46
解答方針を実行する力（方針の妥当性の評価、必要に応じた軌道修正、得られた結果の発展）	212	609	369	39	11	61
プレゼンテーション力（自分の考えを適切な言葉で表現できる力）	207	616	324	47	19	88

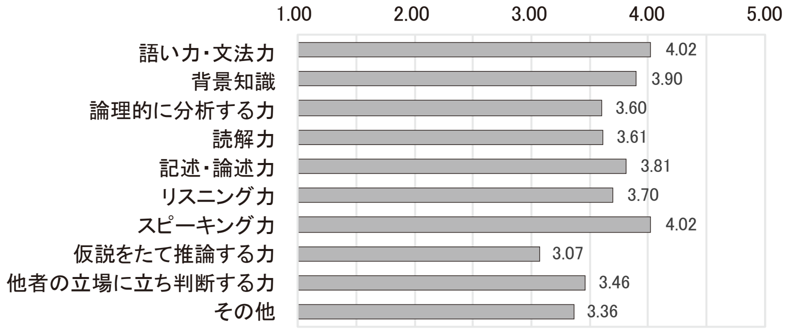


図 30 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の外国語科特有の効果

表 88 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の外国語科特有の効果（単一選択）

項目	度数	平均値	標準偏差	無回答 無効回答	合計
語い力・文法力	1,491	4.02	0.752	23	1,538
背景知識	1,400	3.90	0.896	21	1,538
論理的に分析する力	1,367	3.60	0.902	23	1,538
読解力	1,378	3.61	0.906	21	1,538
記述・論述力	1,411	3.81	0.887	21	1,538
リスニング力	1,347	3.70	0.900	22	1,538
スピーキング力	1,412	4.02	0.858	22	1,538
仮説をたて推論する力	1,089	3.07	0.896	27	1,538
他者の立場に立ち判断する力	1,211	3.46	0.925	24	1,538
その他	123	3.36	1.033	1,279	1,538

続き

項目	効果は あった	やや効果は あった	どちらとも いえない	あまり効果 はなかった	効果は なかった	意図してい なかったの で判断でき ない
語い力・文法力	358	862	220	39	12	24
背景知識	369	616	340	49	26	117
論理的に分析する力	197	581	465	89	35	148
読解力	202	607	437	98	34	139
記述・論述力	296	673	350	63	29	106
リスニング力	235	615	391	74	32	169
スピーキング力	417	696	233	41	25	104
仮説をたて推論する力	64	218	603	137	67	422
他者の立場に立ち判断する力	151	428	508	78	46	303
その他	24	15	73	3	8	136

3.9. 学習成果を判断する際の根拠

参加型授業の効果を判断する際に、その判断材料としたものが何かについて尋ねた。その結果、最も多かったものは「生徒の学習態度」の 87.3%であり、「生徒の発言内容（発表内容）」83.1%、「提出物（作文やレポートなど）」60.3%と続いた（表 89、図 31）。

「その他」の自由回答を見ると、すべての教科において、生徒自身の自己評価、授業アンケートという回答が多く見られた。なお、各教科において特に多かった回答としては、国語科では、振り返り（リフレクション）シート、ルーブリック、ポートフォリオなど、地歴・公民科では、振り返り（リフレクション）シート、授業中の生徒の言動や様子、日常生活での生徒の暮らしぶりの変化など、数学科では、振り返り（リフレクション）シートなど、理科では、振り返り（リフレクション）シート、授業中の生徒の言動や様子など、外国語科では、スピーキングテストやプレゼンテーション、英語外部試験、ALT による評価、日常生活での生徒の暮らしぶりの変化などがあった。

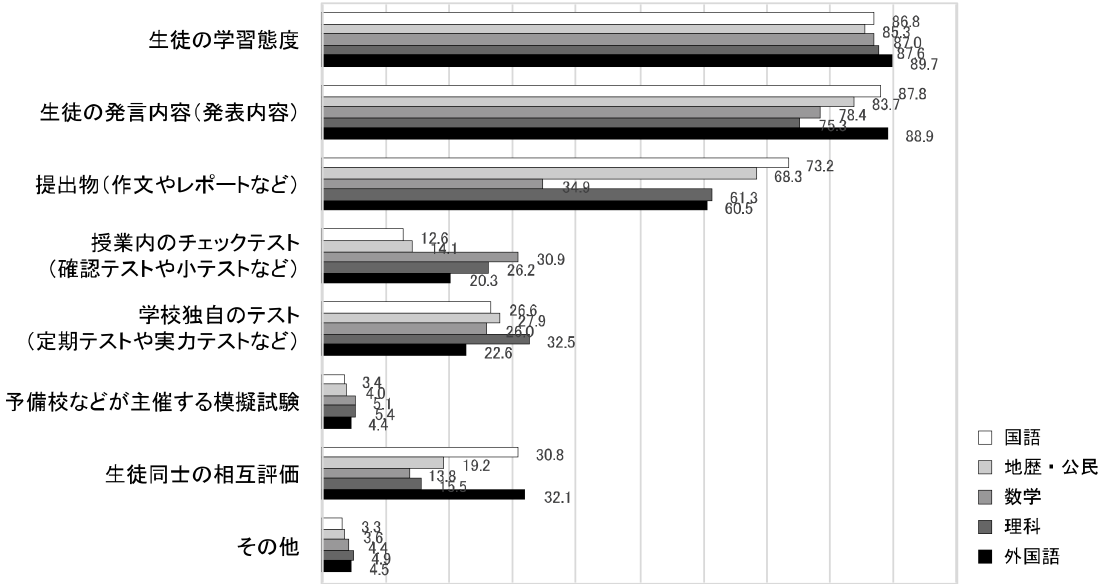


図 31 最もうまくいった単元の効果の判断材料

表 89 最もうまくいった単元の効果の判断材料（複数選択）

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒の学習態度	1,346	86.8	1,201	85.3	1,135	87.0	1,239	87.6	1,362	89.7	6,283	87.3
生徒の発言内容（発表内容）	1,362	87.8	1,178	83.7	1,022	78.4	1,065	75.3	1,351	88.9	5,978	83.1
提出物（作文やレポートなど）	1,136	73.2	961	68.3	455	34.9	867	61.3	919	60.5	4,338	60.3
授業内のチェックテスト（確認テストや小テストなど）	195	12.6	199	14.1	403	30.9	371	26.2	309	20.3	1,477	20.5
学校独自のテスト（定期テストや実力テストなど）	412	26.6	393	27.9	339	26.0	460	32.5	344	22.6	1,948	27.1
予備校などが主催する模擬試験	53	3.4	56	4.0	67	5.1	77	5.4	67	4.4	320	4.4
生徒同士の相互評価	477	30.8	270	19.2	180	13.8	219	15.5	487	32.1	1,633	22.7
その他	51	3.3	51	3.6	57	4.4	69	4.9	69	4.5	297	4.1
有効回答数	1,551		1,408		1,304		1,415		1,519		7,197	
無回答	24		49		10		26		19		128	
合計	1,575		1,457		1,314		1,441		1,538		7,325	

（注）1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型授業の効果の判断材料について、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

3.10. 各教科の実践事例

各教科の実践事例について報告する。参加型授業の中で、最も「うまくいった」と判断できる単元について、「どのようなテーマ、流れで参加型授業を実施したのか」「生徒のふりかえりのためにどのような工夫をしているか」を尋ねた。その回答から各教科での典型的実践事例を抽出した。なお、以下の各教科における事例をまとめた表内の記述は、回答者の意図を尊重するため、明らかな誤字脱字の場合、学校名や学校所在地の特定を避ける場合等を除いて、基本的に原文ママとしている。

3.10.1. 国語科の事例

国語科の特徴としては、2015 年度の調査結果と同様、古典や現代文（小説など）の作品を脚本化したり続編を執筆したりといった、生徒自身の創作活動につなげる事例が多い点が挙げられる。

また、作品をより深く読解するために、①小説や古典のなかで用いられた表現、描写、形象等に着目し、テクストに即して作品の主題を考察する活動、②作品が制作された当時の時代背景（文化や政治の動向、歴史的事件など）や、古典に取材した作品の場合にはオリジナルとの差異などに着目し、テクストが成立した文脈や背景から作品の主題を考察する活動が見られた。

さらに、国語科では、参加型授業が実践される単元・内容に一定の傾向が見受けられる。例えば、現代文では『羅生門』や『こころ』といった小説を扱う単元が、古典では『伊勢物語』（「東下り」）や『平家物語』（「木曾の最期」）を扱う単元が、多く挙げられていた。こうした傾向も、2015 年度の調査結果に見られた傾向と一致している。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
国語総合（現代文）	1	芥川「羅生門」テキストと小説の素材となった今昔物語集のテキストを比較させ、違いを挙げさせた。そしてそれをグループで共有し、分析する中で、芥川が何を描きたかったのか議論させた。議論の内容やグループごとの結論は発表させてクラスで共有した。	活動の前に目標を明確に提示するようにしている。
国語総合（現代文）	1	村上春樹の『青が消える』の範読後、この作品を映画化するにあたって「登場人物のキャスティング」「映画のテーマ・コンセプト」「映画ポスター」といったものをグループで作品を表現に着目しながら読みこみながら、ディスカッションを通して作成。最後にそれぞれのグループが制作発表記者会見という形で発表。評価。	シンレポート用紙（原文ママ）という形で、「授業への取り組み度」「授業の満足度」「授業の感想・発見・疑問」を記入させる。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
国語総合（現代文）	1	芥川龍之介「羅生門」の全文を読み、「下人の行為を善悪どちらでとらえるか」を6グループに分けて話し合わせた。※各グループ（下人、老婆、弁護、検察、下人の主人、髪を抜かれた女の霊）裁判形式で発表、討論。	各時間で、必ずその授業で到達したい目標や、ねらいを最初に明示している。
国語総合（現代文）	1	『羅生門』を読解した後、芥川の年譜・時代背景を図書館の資料を使って調べ学習。その後、『羅生門』の続編を書き、グループで発表し合う。グループ代表作を選び、クラス全体で発表する。	その単元のねらいがどれ位理解できたか、4 段階で振り返える。
国語総合（現代文）	1	夏目漱石『夢十夜』の第一夜を読ませ、個人で疑問点を挙げてからそれを5名程度のグループで共有し、発表させた。その中からさらにクラス全体で3つの疑問を設定し、これについて毎回の授業で答えを見いだすための読解を行った。読解はペアでの意見交換や個人がまとめた記述を見せ合うなどの活動をとおして生徒が主体的に進めていった。	ほかの生徒の考えに多く触れさせたり、複数人と意見交換をしてコメントをつけさせたりして、自己を客観視できるようにしている。他者の考え方や価値観をふまえて、自分の学びの姿勢や成果を見つめるよう意識させている。
国語総合（現代文）	1	三浦哲郎『とんかつ』の内容をグループで確認、発表させ、とんかつはこの小説においてどういうはたらきをしているのか話し合い発表させ全体の発表を一つにまとめさせた。	内容をとらえた上で自分の意見を考えたり、発表させるようにしている。恣意的に読むことのないように指示している。
国語総合（現代文）	1	内田樹「ことばとは何か」における、「言葉の微妙な差異」について、「美しい」「かわいい」「いじらしい」「上品だ」の含む「微妙な差異」について、グループで調べ、分析をさせてから、電子黒板を使って図化してプレゼンテーションさせ、疑問点などをディスカッションさせる。	単元後に、授業後の感想を書かせる。
国語総合（古典）	1	『伊勢物語』の「東下り」の段の語釈を行い、口語訳をさせた上で、「男」にとってこの旅がどのようなものであったと言えるかについて考察させた。先ず、個人の考えを文章に書かせたところ、地理上の移動の点から考察した者と、和歌の内容から考察した者とに分かれていたので、さらに各2グループに分けて発表パネルを作らせた。	学習目標の明確化（段階ごとに項立てする）。
国語総合（古典）	1	「木曽の最期」をペアで音読しながら、あらすじをとり、登場人物1人をえらんで現代語で日記をかく。その中で最も中心的な心情を表す語を選び、現古辞典を用いて古語で表現し、三角ロジックを活用して主張（今日のひとこと）、論拠（今日のできごと）、理由付け（今日の日記より）を発表し、相互評価する。	・中途で相互評価で自己の考えを修正する機会を設ける。 ・観点（目標に即した）は1～4 段階で評価+自由記述をあわせて記入する。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
国語総合（古典）	1	木曽義仲の最期の場面での、義仲と家臣らの心情の変化を追い、本文を基本としながら、ドラマのような簡単な脚本を考えさせ 4 名で分担。音声だけで仕上げて発表させた（計 3 時間分）。	友人らと解釈の確認と、他者の意見との比較を必ずさせる。
現代文Ａ・Ｂ	2	夏目漱石『こころ』の全文を読んだ後、「なぜ K は自殺したのか」について、本文・他作品・漱石の講演を、比較検討しながら、グループで討議した。また、その後、学習後の感想を書き、相互評価を行った。	単元に入った時に、初見の感想を書かせ、単元の終わりに書いた学習後の感想と比較させる。
現代文Ａ・Ｂ	2	事前に『こころ』の文庫本を一人一冊購入させ、自宅で読ませた。その上で「私」が「K」に逆襲し、「K」が自殺するに至るまでの中で、両者の心情がどう移り変わったかについて、毎回グループで議論させ、記述させた。最終的には、個人で作品全体に関するレポートを作成させた。	ワークシートやリフレクションシートに毎回生徒の「気づき」を記入させ、教員とやりとりをしている。
現代文Ａ・Ｂ	3	安部公房『鞄』を学習し、「嫌になるほど自由だった」という言葉に注目してそれまでの表現をふまえて「自由」ということについて考え、個人の意見をまとめる。その後グループに分かれてディスカッションさせ、グループとしての意見を発表し相互に評価する。	ふりかえりシートを準備、それぞれの項目について 4 段階で評価する。
古典Ａ・Ｂ	2	「和歌とラブソングの詞の読み比べ/ポスターツアー」というテーマで、和歌と現代歌謡曲の共通点を探した。グループごとに図書館や iPad を用いた調べ学習を行い、ポスターツアーを実施した。	毎時間、学んだことや感じたことなどの学習記録を記入させて、変化をたどることができるようにした。
古典Ａ・Ｂ	2	枕草子の「すさまじきもの」の中に書かれている網代や紅梅の衣などを調べることから、平安時代の食文化や服装などのテーマを班ごとに設定し、それを調べたことを発表させる。	調べたことを基に、その内容のテスト問題を作るという個人作業を行った。
古典Ａ・Ｂ	2	かざしの姫君を題材とし、自分がこの文章で読解問題を作るなら、どのような問題にするか。また、その模範解答はどうなるか。実際に東北大学で出題された問題と比較し、東北大の出題意図を考える。	どうして設問の箇所をそこにしたのかを考える時間を与えた。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
古典Ａ・Ｂ	3	方丈記の冒頭文にあるような思想・価値観を抱くに至った筆者の、人生や政治、社会背景を調べさせた。特に災害についても読ませ、筆者の年表にも記述して、それぞれの事件に対して、筆者になりきって「つぶやき（ツイート)」を貼る（符セン)作業を協同してした。その後、日本人の人生観、災害にあった際のふるまい方を資料でよみ取り日本人の考え方、価値観、自然への対し方が現代にも受けつがれていることを理解させた。	どんな力がついたか、何がわかったか、できたかを感想で書かせているのみ。
国語表現	2	「ビブリオバトルをやってみよう!」というテーマで、本の選択から、紹介、投票などビブリオバトルに関わる一連の活動すべてを授業内で計画的に実施した。	単元のはじめに設定した自己目標を、単元終了後に振り返り、自己の成長について評価する。
国語表現	3	新聞から社会問題を探し出し、それについて書かれた記事を基にして、意見文を作成するとともに、発表（プレゼンテーション)をし、評価し合う活動を行った。	話し手（発表者)の態度、声の大きさ、発表内容のわかりやすさについて評価させ、自分の発表と比較し改善を図るよう指示した。他者の発表内容に興味を持ち、意見を言うよう指示した。
国語表現	3	よりよいスピーチを目指して、素材を天声人語から探り、テーマ（意見)を見つけて、調べ考えさせる。スピーチの仕方をスティーブ・ジョブズの「Stay Hungry、Stay foolish」を見て、特徴を捉らえ、指摘し合って、効果的なスピーチの仕方を演習し、批評し合う。個人で発表したものを互いに評価し合う。録画したものを自ら見て自己評価する。	評価シートの工夫。録画して見せる。自由に意見を言える雰囲気づくり。

3.10.2. 地歴・公民科の事例

地歴・公民科については、特に教科横断的・科目横断的な授業に着目して抽出した。

地歴・公民科の特徴としては、時事問題や論争的な社会問題を教材に取り上げ、政治や経済、文化などの諸領域にわたる学習活動がなされている点が挙げられる。科目横断的な授業に関しては、特定の国や地域に着目して軸としつつ、地理と歴史あるいは地理と公民の内容をそれぞれ組み合わせた学習活動が展開されていた。また、教科横断的な授業としては、国語科（古典）と日本史の内容を組み合わせた実践が見られた（1 事例）。

地歴・公民科における参加型授業の具体的な学習方法は多岐にわたっており、調べ学習、模擬裁判や模擬投票などのロールプレイ、ジグソー法などの協調学習、ディスカッションやプレゼンテーション、レポートの作成などがあった。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
世界史Ａ・Ｂ	1	近世ヨーロッパ世界の展開（ヨーロッパ諸国の海外進出)の単元で、18 世紀のイギリスの画家リチャード・コリンズの作品《紅茶を飲む三人家族》から、イギリスの喫茶文化と奴隷貿易と近代分業システムについて考えるもので、絵に登場するさまざまなモノの原料の輸入元がどこかを、地図や資料から探らせた（グループで)。ワークシートに書かせる形式で、その後グループで結果を発表させた。2 回の授業で実施した。	
世界史Ａ・Ｂ	1	世界史Ａの授業において、現在の発展途上国が経済的に歪んだ状況になっている原因について、帝国主義の概念を導入として考えさせ、グループ発表をさせた。フェアトレードなど現代的な問題まで関連づけさせる調べ学習、発表を 4 回の授業で実施した。	
世界史Ａ・Ｂ	2	イスラームについて学んだ上で→（毎時間テーマ設定し、主体的な学習を行うこととしている。)現代の社会において、どのような影響があるか考えさせる。今回は“習慣”に着目し、グローバル化が進む世の中で、地元で観光してもらうためにハラルなどに注意してコースを決め、どうしてそのような場所を選びどんなことに気をつけたか単元の最後にプレゼンさせた。	・リフレクションシートの記入 ・OPP シート活用
世界史Ａ・Ｂ	2	イギリス産業革命における社会問題の発生について、(1)各自、資料（都市人口の推移・労働者平均寿命等のグラフ)を確認、想像される当時の都市の様子を発表。その後、(2)実際の都市環境・児童労働等の資料（絵)を確認し、(1)で気がつかなかった状況を発表。	

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
世界史Ａ・Ｂ	2	「ナチスの政権獲得を通じて選挙の意味を考える」というテーマの中に複数のキーワードを挙げる。それを 4～5 名で構成されたグループ内で分担し、1 人が 1 つのテーマについて調べる。次の時間にグループ内で発表を行う。この後、授業プリントを用いて、このことについて講義を行った。	
世界史Ａ・Ｂ	2	『日本書紀』と『隋書』の比較をジグソー法で実施した。(ある出来事について、見方が変われば書き方も変わることに気づかせる。)1 時間の授業内で発表までを終えた。	
日本史Ａ・Ｂ	2	藤原道長と藤原伊周との関係について、実際の歴史と『大鏡』に収録されている「弓争い」という物語の内容とを比較・関連させて、当時の貴族社会の概要をつかませた。日本史と古典との 2 科目の内容を組み合わせた、教科横断的な授業である。	個人で授業のまとめをさせたあと、グループで確認、発表させた。
日本史Ａ・Ｂ	3	サンフランシスコ平和条約をふまえて、北方領土問題をどう解決するべきかグループ協議を行い、代表者に発表させ、どのグループの案が最も説得力があるかを選ばせた。	
日本史Ａ・Ｂ	3	平和学習、地域の高齢者との交流会を開催。戦争体験者からの聞きとりを行った。その後、学校の戦前、戦中の記録や写真資料、NHK アーカイブスの映像資料を利用し、レポートを作成。	生徒個々の作成した感想文やレポートから、論点や課題となる事項をピックアップして、全体で共有できるようにしている。
地理Ａ・Ｂ	2	日本の農業の現状についてグループで調べる。その後、「TPP 大筋合意」の新聞記事を活用し、日本の農業の今後について、グループで考える。各グループで発表し、他グループの考えを共有する。	特に工夫というわけではないが、「ふりかえり」のための時間は静かにさせ、1 コマの授業をゆっくり思い出せるようにしている。
地理Ａ・Ｂ	3	新聞記事から本県における「人口問題」を考える。(1)新聞記事 A 又は B を読む【A:5/5 付 子ども減少、B:5/12 付 高校再編】(2)左右の席で意見を出し合う (3)6 人の班になり、A と B の意見交換 (4)新聞記事 C を読み AB との関連を探る【C:5/23 付 本県出生数減】(5)班の中で考えをシェアし、各自プリントに記載しまとめる。(6)班の代表が発表する。(7)「日本の人口問題」・「世界の人口問題」の問題演習を行う (8)問題演習でも班内で考えをシェアする。 ※新聞記事を読んで意見交換した方法を問題演習に置き換えることで、自分の考えを外化させる。	振り返りシート(アンケート)を用意し、生徒自身に記入させ、生徒各自に自己評価をしてもらう。 ※振り返りシートについては、授業の開始時に説明しておき、授業内での成長を促すようにする。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
地理Ａ・Ｂ	3	再生可能エネルギーを含む日本の発電形態について、教科書等を用いて個人でメリット・デメリットを整理させた後、15 年後の日本の発電について予想し、グラフを作成した。作成したグラフをグループで検証し、結果をグループごとに発表させた。(2 時間)	授業の内容に関する小テストとリフレクションを実施している。
現代社会	1	「主権者教育」(1)主権とは何か（社会契約説をベースに、対立と合意、信託の方法について）(2)出前授業（消費者問題をテーマに法教育の視点から）(3)模擬選挙準備（選手広報の検討グループワーク発表）(4)模擬選挙（弁護士による立合演説。質疑応答）(5)投票行動について、身近な大人と話すレポート課題 (6)YAHOO!アイディアソン出前授業（身近な問題を政策課題にするグラフ作成グループワーク）	毎時間、終了際、又は次回冒頭に授業内容を振り返るテーマを課し、2 人組で起立、じゃんけん (=先に話す者を決める)相互に授業内容の確認、深化を図る。口頭でなく、ノートにレポートで書く場合は回収して評価、次回、優秀作品の提示。
現代社会	1	沖縄の基地問題について、賛成派/反対派に分けグループでディスカッションさせ、意見をワークシートにまとめ､グループの意見をポータブルホワイトボードに書かせ発表させた。	授業の最初での振り返りや定期テストの記述部分での確認を行った。
現代社会	1	事前に裁判員制度について授業した上で、こちらが用意した台本を使って模擬裁判をさせた。裁判に参加する者（裁判官、被告人、検察官など)と裁判員よりの傍聴人にわけ、演出を観た上でグループごとに議論させ、発表させた。有罪・無罪、有罪の場合の罪の内容と罰の内容について議論→発表→ディスカッションをさせた。その内容を記録し、最後にアンケートを実施した。	自分が出してきた答えが全てと思わせず、たくさんの意見や感想があることを知らせ、印象に残らせる。
現代社会	1	途上国問題について、第一に「貿易ゲーム」の活動を通して国際貿易の構造について考察させた。その後、国連諸機関が公表しているデータを用いながら、途上国がかかえる問題とその解決策について、グループ (6 人程度)毎に考察させた。	
現代社会	1	生存権における「最低限度の生活」基準について生徒同士で意見を共有した上で、国が保障すべき事について、意見を出し合った。	本時の内容についてペアで問答を行うことで、復習の機会を与えた。
現代社会	1	脳死状態にある子どもからの臓器移殖について、2 つのケースの親の意見を読んでそれぞれ個人で感想をまとめさせた。次に移殖に賛成・反対どちらの立場を選ぶか個人で判断させ、次いで、4 人グループの中で話し合って、グループとして賛成･反対どちらかに決定させ、最後にその判断を発表させた。	

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
現代社会	3	生徒 4～5 名でグループを 5 つ程つくり、架空の政党をたてて公約と党首をたて、公開討論会を実施。3 つの共通公約と 1 つの独自公約をかかげ、それについて党首が訴える。市民団体などのグループもつくり、各党首へ質問を行う。討論会終了後、どの政党を支持するか模擬投票を実施した。公約についてはより説得力を持たせるため、各グループが関連事項を調べ独自色を出す。市民団体グループは各政党の訴えに対して反対質問を考えておく。	
政治経済	3	新聞（社）各紙の意見や立場が多様であることを気づかせる目的の授業。安全保障関連法の成立を報じた新聞 3 紙（社説、意見記事）を各グループに 1 紙割り当て、記事を読みながらワークシートの問いに答えさせる。次に 1 つのグループに 3 紙の記事を読んだ生徒が 1 人以上入るようにして、3～4 人のグループに組み替える。第 1 のグループでの活動を報告した上で、各新聞社が採る立場を考えさせ 2～3 のグループに発表させる。	グループのなかでの報告や議論と、他グループの発表をもとに、最後は本時のテーマに対する生徒個人の意見を考察させ、必要に応じて発表させる。

3.10.3. 数学科の事例

数学科における参加型授業の事例については、三角比、二次関数、二次曲線、確率、統計といった単元で、とりわけ多くなされていることがわかった。

また 2015 年度の調査結果と同様、数学科では、学習進度の比較的速い生徒から、比較的遅い生徒や理解が不十分な生徒への支援を参加型授業の事例として挙げているものが多く見られた。その他に、生徒が他の生徒と協調しながら多様な解法を見出す活動と、数学的知識が日常生活に応用されていることに気づいたり、生徒自身が数学的知識を日常生活の特定の場面に応用したりしてみるという、二つの学習活動に大別することができる点も、2015 年度と同様の傾向と言える。

具体的な方法としては、解法に関するグループディスカッションや協調学習（前述の支援や学び合いの活動を含む)、プレゼンテーションなどが取り入れられている。また、日常生活との結びつきを意識した実践では、課題解決型の学習活動が多かった。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
数学Ⅰ	1	黒板を用いて 15 分ほど学習内容を説明する。その後、3 人 1 組のグループで練習問題を解きながら教え合いをし、教員は巡回しながら各グループの活動に助言が必要であれば加わるが、基本はグループ内で教え合う。最後の 10 分で黒板を用いてグループ内の解決できなかった問題の解説や今日の授業の要点を確認し、残り 5 分で各自のふり返りを行い、今日の授業の何がわかって何がわからないか授業プリントに記入して終了する。この流れを毎回くりかえしている。	1 つは表にし、自分の意見が言えたか、手を動かしたか、頭を働かせたかなどを数項目作り、3 つの評価に分けて○をつけさせて記入。もう 1 つは具体的に何がわかって何がわからなかったかを具体的に記入させる方法。
数学Ⅰ	1	気象庁の Web サイトからある都市の 8 月の最高気温・最低気温データを DL。それぞれの分散-標準偏差・相関係数を求め散布図をかき、データの傾向をとらえる。そこから、気候にあわせた服装を考えさせる。	
数学Ⅰ	1	「データでスポーツをしよう」をテーマに、新聞やネットの記事を読ませ、感想をグループで共有する。扱うデータやグラフ作成ソフトの説明をする。その後グループでデータを分析し、その結果をパワーポイントでまとめ、中間発表させる。さらに各グループの発表も踏まえ、自分たちのオリジナルチームづくりを行い、強豪スペインに勝つチームづくりをどのように行い、意志決定していったかを数学的な指標をつかって説明する最終プレゼンをした。（全 8 時間）	ワークシートに各グループの発表を採点する欄をつけた。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
数学Ⅰ	1	必要なデータを提示し、三角比の定理を用いて校舎の高さをグループで求める。実際の図面を持参し、答えを確認する。	
数学Ⅰ	1	図形の面積の最大値を 2 次関数で考える内容であり、4 人のグループでさまざまな図形の面積を検討しあい、最も面積が大きくなる図形を考えていく活動をした。円と四角形、三角形を検討した。	
数学Ⅰ	1	プロジェクターを用いて、15 分程度学習内容説明、その後、グループ（5～6 人）を作らせ、練習問題に取り組ませる。(議論や教え合い)解答解説もプロジェクターを用いて実施するが、生徒に、黒板で解説させることもある。授業終了 7～8 分前に確認テストを実施。	確認テストを毎時間実施。出題範囲を明確に指示している。
数学Ⅰ	1	黒板に直角三角形を 1 つ板書し、辺と角の大きさについて「言えること」を 4～5 人グループ内で出し合い、10 分後にクラス全体で各グループから 1 つずつ発表させ、異なるものが出つくすまで出させ、それぞれが「言える」か?を再び各グループで考えさせ、全体で発表させる。	各自で今日のまとめを書く程度。
数学Ⅰ	1	たすきがけによる因数分解の方法を身につけることを目標に、全員に演習プリントを配る。その間に、教師は黒板に生徒全員の名前を書く。解き終わった者は、挙手で知らせ教師が採点する。全問正解で合格とし、合格者は黒板の名前を消す。合格者が 3 人になったところで、教師はもう解答を示さないこととし、この 3 名の合格者がミニティーチャーとして教える側にまわる。そこから合格者を増やしていき黒板から名前の消えた者は教師側にまわる仕組みで全員の名前が黒板から消えることを目指す。	定期的にノートに解き方のポイントや工夫したことを、まとめとして記入させている。
数学Ⅰ	1	プリントで問題を提示（4 題）し、4 人 1 組のグループで話し合い。グループを指名し、代表者が全員に向けて発表する。最後にワークシートで授業の振り返りを行う。	ワークシートを準備している。各項目に（1)～（4)（理解できた～理解できなかった)を設けて、○をする形式。
数学Ⅱ	1	問題を提起（座標平面上の 3 点を頂点とする三角形の面積をたくさんの方法で求めよ)→個別で考える→グループで意見を出し合い整理する→グループを組みかえて、自分の班の意見を教え合う。→個別で自分の好きな方法をまとめて感想を記入する。	他のグループの発表を聞いた上で、もう一度自分たちのグループで出た意見をふりかえりまとめるワークシートを作成した。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
数学Ⅱ	2	コンセプトマップの作成手順を示した後に、「数と式」分野で思いつく式や定理を各グループで出し合い、それをマップにまとめることで、統合的な考え方の育成を図った。また作成したマップを各自で（各グループで）確認し、他の生徒に発表をさせた。	ペアワークを導入し、ポイントを記述させる。
数学Ⅱ	2	4～6 人グループを作る。プリントを配布して注意事項を説明し、1 時間を使ってグループでテストを作成させる。（ある程度の枠組みはこちらで提示する）その次の授業にて、他グループが作成したテストを個人で取り組み、テスト作成をしたグループが採点をする。	2 人 1 組になり、時間を区切ってその時間に学んだこと、気づいたことを話させる。
数学Ⅱ	2	模試の問題をテーマにして、「自分で取り組む時間」10 分→「グループで話す時間」10 分→「できたグループのメンバーが他のグループに派遣される」10 分。	小テストプリントの裏に、ふり返りシートをつくり、いくつかの評価項目を見つける。
数学Ⅱ	2	円の単元で 2 次曲線の一般的な式を説明。その後、放物線、円、楕円、双曲線について紹介し、それらを切り口にもつような図形を考えさせる。（グループを作り、紙、ハサミ、テープを配り実際に作らせる）最後に教員が答を発表し実演する。	
数学Ⅲ	2	直方体の積み木を沢山準備し、4 名程のグループで「一段ずらし積み木」の実験をさせる。その後、上に乗せる積み木のズレをもとの積み木の 1/2、1/4 とずらしていき各班に式を予測させ、極限の知識につなげた。	授業を受ける前と後の「before after」の項目を必ず取り入れる工夫をしている。
数学Ⅲ	2	長さ 1 のひもを題材として、問題をつくらせる。その後 4 人 1 組のグループで大学入試問題に似せたものとして完成させ、グループごとに発表させる。生徒が作った問題をアレンジして、課題の設定を教員が行う。その問題を生徒に解かせ、異なる解法のものを発表させる。再び、4 人 1 組のグループをつくり、発表された解法を比較し、良いと思う解法について、理由もつけて発表させる。	1 時間の全体像がつかめるようなことを意識した上で、一番大事な核となる部分を生徒に発見させる。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
数学Ａ	1	3 つのゲームを提示する（300P を支払い、トランプ、サイコロ、玉を用いたゲームに参加）その後 3 つのゲーム各々に主催者を 2 名ずつあててディベートをさせる。残った生徒はどれに参加すると得かを予想し、主催者のディベートをみたうえで、参加するゲームを決定。実際にゲームに参加したあと、数学的に得なのはどれかをグループごとに話しあい、まとめ、発表、そして感想を記入。	予想と結果をふまえたうえで、計算上得だったのはどれかを考え、発表、意見交流をさせた。
数学Ａ	1	1 つの例、他にも同様に行う→さいころを投げるとき A という事象と B という事象のどちらが起こりやすいかをまず直感で考えさせ、実施にさいころを 50 回ほどふって記録する。その後確率を計算して求めてみて、違いを確かめる。その後全員（40 名）の記録をまとめると、計算とほぼ同じ結果になることを教える。	何をふり返るか説明する（なぜ結果がちがうのか）など
数学Ａ	3	前時に、樹形図を使えば解ける東大（19）の問題を解説する。問題をとらえるためのストラテジィ（エキスパート A.C）、問題の考え方（エキスパート B）を用意。A、C の難易度をさげ、B をあげた。A、C がさきに終った時点でジグソー活動へ移行。残ったエキスパートを A、C を含めた全員で議論できるようにした。	(1)ふりかえる対象を言語化。生徒同士で検討できるようにする。また、内容に対する思考力訓練を事前に組んでおく。(2)ふりかえるために必要なストラテジィをあらかじめ確実に教えておく。(3)考える時に、前のストラテジィで解けたことを確実しておけば、その考え方で、自分達の思考できる範囲で検証していく。おかしいことに気付いて、ふりかえるようにした。(4)ふりかえりを全員でできるように、ヒントとなるエキスパート B を残してジグソー活動に移った。
数学活用	2	アメリカの教科書の問題を解く。日本との違いを話し合う。年度末には、研究成果をポスター発表またはプレゼンテーションする。	課題研究の自己評価シートがある。

3.10.4. 理科の事例

理科では、他の科目と共通する点として、地域や生活に結びついたテーマ（例えば、地震をはじめとする災害、食品添加物、学校近くの川での生物調査など）や、環境問題等の論争的な社会問題を扱う際に参加型授業が導入されていることが挙げられる。他方で、理科ならではの特徴としては実験（中和滴定、電気分解、炎色反応等）を学習の軸に据えるというものがあり、参加型の学習活動を通して、実験の計画・実施・考察を行う授業が多く見られた。

具体的な方法としては、実験のほか、協調学習や調べ学習、レポートの作成、ディスカッションやプレゼンテーションなどを挙げることができる。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
科学と人間生活	2	地球の構造の単元において、地震動の要因を学んだ。その後災害に対する対策のテーマで、どのように防災に取り組むことができるかの調べ学習を行った。ハザードマップを作成し、各々の考えを発表し合った。計 3 回	互いの考えなどを、確認し合い、自分となぜ違う考えがあるのか、他者から自分を振り返り、気付きがあるようにし向ける。
科学と人間生活	不明	普段口にする食品に含まれる添加物を調べ、全員のデータをまとめる。次にそれぞれの添加物の利用法を実験室で紹介し実際に味わってもらう。次の時間までに、それらの添加物の問題点と良さを整理し、グループの代表者が発表した。	自分達のやり方で良かったかどうかを点検できるような工夫（項目)を入れ、客観的な見方を求めた。
物理基礎	1	等加速度直線運動について、前半に教員より講義（10～15 分)。その後、4 人 1 組のグループになり、課題に取り組ませる。グループ活動では、基本的に縛りなく（立ち歩き、隣のグループに聞いても OK、教えあう、調べるのも OK)「班全員が課題を解ける」ことを目標に活動する。(25 分)、小テスト（5 分)ふりかえり（5 分)	具体的な成果を文章化させるようにしている。わかったこととわからなかったことを明確化させている。
物理基礎	2	音波の単元にて、音及び音の原因は耳で聴くだけでなく目でも観えるということを、実験及び音声可視化ソフトを用いて体験させた。実験に先立ち、「音は空気振動で伝播」ということを、生徒各自で証明・確認する方法を自由討議（個人・グループ)させ、その中から実験方法を選択させ実施した。授業は、音という共通テーマのもとに、音楽授業のクラスと物理基礎授業のクラスとの合体授業（コラボレッスン)であった。特に、音声（各人・各楽器)の相違が波形の相違であることを理解させるために、生徒・教師一体となって授業進捗した。	

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
物理	2	慣性力で、学校にあるエレベーターで加速度を測定した。グループで、撮影・計時・ベル・グラフ化の担当を決め、v-t グラフ、a-t グラフを作成した。	実験で使用したプリントと同じもので、問題演習に取り組み、実験のふりかえりと知識の定着を図った。
物理	3	波と音との単元で、音による波形と音の高低をイメージさせるために、受講生徒 3 名で実験をさせた。コンピュータ上でソフトを動かし、波形と高低の変化を視覚的にとらえてみた。その後、実験のふり返りと問題演習を行い、生徒どうしで答え合わせや考え方の確認をした。これを 1 回の授業で実施した。	生徒たちにある程度任せることで、生徒どうしがある程度自由な発想でできるようにした。
化学基礎	1	化学基礎のまとめとして、未知の水溶液 A～G を酸・塩基の性質や、炎色反応を用いて特定する実験を行った。1 回目は実験計画、2 回目が実験、3 回目がまとめと発表という流れで実施した。	
化学基礎	2	食酢に含まれる酢酸の物質量を、中和滴定により求める。3～4 人のグループで実験を行い、求めさせた。検証は、用いた食酢のラベルに記載されているので確認させた。実験を通して、普段から口にしている食品に含まれる「酸」を実感し、ラベルの記載事項から得られる情報を確認できた。	周りのグループとの情報交換や、問題演習により、実験内容をふり返る。
化学基礎	2	ハゼの実からいかに多くのロウが抽出できるかを競う実験を行なった。まず、ハゼ・ロウなどについて図書館で調べ、班ごとに発表させた。さらに抽出法について実験書などで調べ、班ごとに実験の方法を検討させた。温度や抽出溶媒の種類、抽出の回数などの異なる班で最も多量にロウが抽出できる条件を捜した。収量を比べ、どの組合せが最適だったか話し合わせて終了した。	
化学	1	中和滴定実験で、pH の変化のしかた、並びに、中和点を確かめるためにグループ毎に実験させた。その上で、pH の変化を目の当たりにするとともに、中和点付近の pH の急激な変化を滴定量から濃度を求めさせた。この時、グループにより結果が異なった原因についてディスカッションさせた。	実験レポートの見直し、演習

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
化学	2	・グループごとに未知の水溶液を電気分解し、生成物の色や検出反応から水溶液を識別する。(水溶液は6種のうちのいずれかという設定) ・3種の金属イオンが含まれる未知の水溶液に試薬を加え、沈殿・ろ過をくり返す。沈殿物の色などから含まれている金属イオンを特定する。	実験レポートにふりかえる部分を設定
生物基礎	1	生物の多様性について、生物の定義を考えさせた上で、生物の分類について個人で意見を出してもらい、それぞれの解答について、生徒どうしで、何を基準に分類したのかをディスカッションさせた。	その授業のポイントをできた、できなかったで5〜1の間で達成度を考えさせ評価する。
生物基礎	1	「DNAの複製はどのように行われなければならないか」「DNAが遺伝子であることを証明するには、どのような方法をとればよいか」を考えさせる。過去の研究者の実験を示し、なぜその操作を行ったのか、結果からどのようなことが分かるか、どのような結果が予想されるかなどをディスカッションさせた。	授業終了時に、1時間で学んだことを文章表記させる。授業のスタートは前時の復習から、大学入試問題の「〜について…字以内でまとめなさい」のような問題を活用することもある。
生物基礎	2	DNAを抽出する材料を各グループで設定し、実際に実験をさせた。結果等をレポートにまとめ、授業内で発表(プレゼンテーション)させた。	
生物基礎	2	世界のバイオームをまとめた資料を活用し、各バイオームの特徴をまとめさせ、エキスパート班とした。次にジグソー班にて、他のグループのエキスパートの話を聞き、バイオームの特徴を共有する。その後、日本の各地の特徴をもとに、バイオームを活用する。	班で積極的に活動した人を挙げる他者評価と、自身の取り組みを数字5段階と、感想を書くことで自己評価させた。
生物	3	バイオテクノロジーについて理解させる為、個人又はグループで調べ学習とプレゼンを行わせた。遺伝子組換えなどのバイオテクノロジーについて、インターネットや図書を用いて調べ、新聞としてまとめさせた(1時間と宿題)。これをプレゼンする事で、知識の共有を行った(1時間)。	発表1つ1つに感想や疑問を書かせた。又、教師側がプレゼンを評価し、講評もつけて配布した。作成した新聞は、しばらく生物室に掲示した。
生物	3	学校近くの川で生物調査を行い、その生物の名前を調べた。さらに川の周辺を調査し、歴史を調べるなどもした。全体での屋外調査、グループ単位で調べ学習、発表会等を行った。	

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
地学基礎	2	ホットスポットで形成された火山島や海山の地形図を分析し、(グループで資料分析を行う。)プレートの移動方向を推定させた。この時、考え方をグループで検討させ、代表者に発表させ、クラスで討論した。	ワークシートを作成し、本時の流れがふりかえりやすいようにした。
地学基礎	2	環境問題全般について講義をおこなって（1 回)後、各自で、オゾン層破壊についての問題を調べ、まとめ、自分にできることについてレポートを書かせた（1 回)。その後、1 班 4～5 人のグループになり、班として 1 つにまとめさせた（1～2 回)。その際私たちにできること、日本人としてできることなど広がりをもたせた。班での発表の準備（1 回)をさせ、発表（2 回)した。発表時には、他の班の発表を評価させた。	TED（日本のスーパープレゼンテーション)のアル・ゴアによる、プレゼン（気候危機の回避 15 の提言)を見せ、再度、環境問題にどのような取り組みができるか、よいプレゼンの工夫、など考える時間をもった。
不明	不明	金属の比熱の測定をグループごとに実験させた。金属の種類は分からない状態で、実験結果と文献を照らし合わせて、金属を特定させた。授業展開の中で、比熱とは何かをしっかりと考えさせ、身近な所で使われている金属とその用途を説明することで比熱に対するイメージをつくらせた。その上で、演習問題を個人で取り組み、代表者に解説させ、全員で答え合わせをした。	実験プリントに、感想欄をつくりしっかりと書かせている。また授業評価アンケートも実施している。

3.10.5. 外国語科の事例

外国語科では、単に外国語に関する知識や能力の習得・向上を目指すだけでなく、外国語の学習を通して、日本の慣習や文化を発信したり、他国あるいは他文化を理解することをねらいとした参加型授業の事例が多く見られた。また、論争的な社会問題や国際問題が教材として取り上げられていることは、他教科（とりわけ、地歴・公民科や理科など）で挙げられた事例と共通している。

具体的な方法としては、調べ学習やレポートの作成、ジグソー法などの協調学習、ディスカッションやディベート、プレゼンテーションなどがある。

学習主体の人数に着目すると、外国語科の特徴として、個人やグループでの学習活動とともに、他教科に比べてペアでの学習活動も多く取り入れられていることが分かる。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
コミュニケーション英語基礎	1	川柳のテーマを決め日本語で作り英訳し、一人ずつ発表し、評価し、ふりかえる。	評価の高かったものを表彰し、自分とのちがいをきわ立たせることにより、より深くふり返る。
コミュニケーション英語 I	1	オバマ大統領のノーベル賞受賞について賛成か反対かをペア・グループで話し合わせ、その理由を英文で答えさせる。(文中からも探せる)オバマ大統領の核兵器廃絶の演説の原文を読ませ、それについてグループで話し合う。その後、そのテーマについて自分の意見とその理由をレポートにして提出。	なるべく活動の中でペア・グループで話し合う時間を取るようにしている。
コミュニケーション英語 I	1	2 度の原爆を生きのびた山口努さんの話をもとに、リテリング、サマリーライティングをやらせて、最後に山口さんとトーク番組に招いてキャスターとやりとりさせるというロールプレイングをさせた。	リテリングをふりかえり活動として機能させている。
コミュニケーション英語 I	1	(1)ファッションに関する英文を読み、いろいろな表現を習得させた。(2)流行しているファッションに関する写真を複数用意し、一枚選ばせた。(3)選んだ理由、なぜ流行しているのかなどをスピーチさせた。(4)スピーチについて質疑応答し、相互評価させた。	ネガティブなふりかえりはしないように伝えています。
コミュニケーション英語 I	1	サッカーの各国代表のユニフォームは、国旗に基づいたものが多いというレッスンを読ませた後、日本のユニフォームはどうかについて考えさせた。その後、知識構成型ジグソー法を用いて、「なぜ日本のユニフォームは青なのか?」についての文章を 3 つどれかを各自に配り、エキスパート活動を行った後にジグソー活動、クロストークを行った。	各グループが口頭でプレゼンを行った後、振り返りとして、同じ内容を書いて再現させた。プレゼンでは fluency に重きを置かせたが、振り返りでは accuracy に重きを置いた。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
コミュニケーション英語Ⅰ	1	「外国人に紹介する日本文化」というテーマで一人2つのレポートを作成。それをもとに原稿作成させグループ内で発表。さらに良いものを選んで全体で発表させ、評価させた。	その授業時で何をつかみ、何ができるようになったかを必ず書かせて自分の授業改善につなげている。
コミュニケーション英語Ⅰ	1	新種の言語を創造し、その説明を考え、グループ内で発表し合う。発表を聞き、表にまとめる。	具体的項目を挙げて、ふりかえりの時間を取る。
コミュニケーション英語Ⅰ	1	JICA の教師海外研修で行ってきた「タンザニアの暮らし」をテーマに、タンザニアの人々や学校について英文の教材を作成し、子ども達に日本とタンザニアの違いについて考えさせ、タンザニアに必要な支援は何か考えさせ、発表をさせた。	グループの中でどのくらい貢献できたか、また学びあい、教えあいをすることで気づいた事は何か考えさせた。
コミュニケーション英語Ⅰ	1	「学校の中のユニバーサルデザイン」をテーマに、グループごとに、校内で iPad を用いて撮影してきたものを、プロジェクターで大きく映し出し、発表させた。これまでに習った英語表現を使って、事前に原稿を作成させた。また、評価シートを用いた（自己、他己）。これらを3回の授業で実施した。	OPP を使用し自らの学びの流れを、生徒へ可視化。
コミュニケーション英語Ⅰ	1	「制服を学校で禁止する」をテーマに、これまで習った表現を使って、個人で、グループで意見を出し、代表者をてんさくした後、グループで肯定・否定に分かれて英語のディベートを行なう。グループごとに前で発表させる。	evaluation sheet を用いて、生徒同士の発表を数値化して点数をつけさせる。
コミュニケーション英語Ⅱ	2	「特続可能な社会」をテーマに、グループごとに特続可能な社会の実現に向けて取り組んでいる企業や個人をリサーチさせて、パワーポイントでプレゼンさせた。また ALT とその他の生徒からプレゼンの内容について質問をしてもらい、それに対して回答させた。	ワークシートに自己評価をさせるためのルーブリックを載せている。自己評価をしているかどうかも評価している。
コミュニケーション英語Ⅱ	2	「医療ロボットは必要かどうか」をテーマにこれまでに習った英語表現を使って、グループごとにディベートの原稿を作成させた上で、ディベートを行った。その際には両方のグループが賛成・反対の両方の意見を考え、お互いにどのような意見が出るかを考えさせた。	活動に対してのふりかえりを評価シートを用いて実施。そして、ディベートを行った後、実際にテーマに対してどのような意見を持っているかを英語でまとめさせた（ライティング)。
コミュニケーション英語Ⅱ	2	Pictogram をテーマにこれまで習った内容や表現を使って各目の Pictogram を作成させ、それを紹介するプレゼンテーションを行った。生徒が Pictogram の色・形状を発表した後、class が Pictogram の意味する事（タイトル)を当てる。ALT が発表者に質問する。	リフレクションシートを作成して活用。

科目名	学年	テーマや流れ	振り返りのための工夫
コミュニケーション英語Ⅱ	2	“Wrapping(包装)”について、日本の包装と日本以外の国の包装ではどんな違いがあるか、など単元の内容についてグループで話し合わせ、リーダーが意見をまとめ、全体に発表した。加えて、文法の項目 (S+V+O+C)を使って自分の考えを英作文した。	自己評価、他のグループ評価をさせたプリントのチェック。
コミュニケーション英語Ⅲ	3	「絶滅危惧言語」をテーマに (1)言語が消滅することの意味、(2)外国語を学ぶ意味について自分やグループの意見を出すことを活動の軸においた。(導入)英語を日本の公用語にすべきかディベート (主題)内容理解→グループごとに文法英訳等の発表 (まとめ)「外国語」「公用語」のいずれかで自由英作文。	目標設定、個人評価、ふりかえりシート。
英語表現Ⅰ	1	「This is my hero」をテーマに、プレゼンテーションの表現を使って、写真を見せながらの Show and Tell を行った。あらかじめ発表原稿を作成し、覚えてきて、4 人ずつのグループになって、発表した。聞いている生徒は、発表に対して英語でコメントを行った。	生徒が自分の学習の取組でよかった点や、力がついたと思う点など、肯定感を高めるような質問を必ず 1 つは入れるようにしている。また、生徒のコメントを教科通信で紹介するようにしている。
英語表現Ⅰ	2	「Be a Tour Conductor」というテーマで、グループで自分たちが、行ってみたい国、紹介したい国を選び、その国についての情報をまとめる。グループで紹介したい国が重ならないように注意し、4 グループ (4 つの国)で発表を行った。評価に関してはルーブリック方式にし簡単に生徒が自己評価できるようにした。	教師側からの評価シートと自己評価シートは同じ。お互いにルーブリック形式の評価シートを用いて評価した。
英語表現Ⅱ	3	社会的問題を表現した写真をもとに個人で調べ学習をして 3 分間のプレゼンテーションをつくる。テーマの異なる 3 人ずつでのグループプレゼンの練習と QA や discussion をした後に手直しして全体でのプレゼン Peer evaluation。後にエッセイと感想の英作文。	ルーブリックを利用した評価活動と、ふりかえりの英作文。
英語会話	3	「医者と病人」という設定で、体の症状を家族に訴え、病院に行き、医師に詳しく症状を伝えるロールプレイを生徒にグループで考えさせ、演じさせた。	ロールプレイをビデオに撮影し、別のグループのロールプレイと、自分のグループのロールプレイをお互いに見せ合った。自分での振り返りや、友人からのフィードバックをもとに、次回発表がどうすればより良いものになるか、疑問点や質問等も含めて「振り返りシート」に記入させた。
英語会話	3	これまでに習った英語表現を使って、グループごとで、模造紙に「学校紹介」というテーマで発表 (プレゼンテーション)を行った。5 回ほどの授業で実施した。	お互いに評価し合う活動。

3.11. 効果のある参加型授業の学習活動

「3.4. 学習活動の種類」(p.76)において報告した、うまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、どのような学習活動にどのように取り組むと効果が高いのかを検討するため、実施主体による参加型授業の効果の違いを調べた。具体的には、表 90 の 15 種類の学習活動について、「生徒 3 名以上のグループ」「生徒 2 名」「生徒個人」で実施した場合のそれぞれの効果（参加型授業の効果について尋ねた 25 項目の加算平均）の平均値を比較した。分散分析の結果、ほぼすべての活動において、5%水準で有意な差が見られた。効果量を見ると、「生徒が課題を発見したり、設定したりする活動」「生徒が学習について客観的にふりかえる活動」で中程度、「生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動」「生徒が学校外の施設を見学する活動」を除くその他の項目で小程度の差であった。(「生徒が課題を発見したり、設定したりする活動」で $F(3,3449)=80.755$, $p<.001$, $\eta^2=.066$; 「生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動」で $F(3,3462)=44.919$, $p<.001$, $\eta^2=.037$; 「データを整理・分析する活動」で $F(3,3476)=45.934$, $p<.001$, $\eta^2=.038$; 「生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動」で $F(3,3480)=63.992$, $p<.001$, $\eta^2=.052$; 「生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動」で $F(3,3500)=40.155$, $p<.001$, $\eta^2=.033$; 「生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動」で $F(3,3463)=1.014$, *n.s.*, $\eta^2=.001$; 「生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）」で $F(3,3457)=20.835$, $p<.001$, $\eta^2=.018$; 「生徒が学校外の施設を見学する活動」で $F(3,3434)=7.530$, $p<.001$, $\eta^2=.007$; 「生徒が発表する活動（プレゼンテーション）」で $F(3,3530)=53.680$, $p<.001$, $\eta^2=.044$; 「生徒同士が討論する活動（ディベート）」で $F(3,3467)=40.719$, $p<.001$, $\eta^2=.034$; 「生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）」で $F(3,3531)=58.139$, $p<.001$, $\eta^2=.047$; 「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）」で $F(3,3502)=57.210$, $p<.001$, $\eta^2=.047$; 「生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動」で $F(3,3486)=35.800$, $p<.001$, $\eta^2=.030$; 「生徒が学習について評価・採点する活動」で $F(3,3478)=54.710$, $p<.001$, $\eta^2=.045$; 「生徒が学習について客観的にふりかえる活動」で $F(3,3482)=76.698$, $p<.001$, $\eta^2=.062$)

多重比較の結果、全体として 3 名以上のグループで取り組んでいる単元ほど効果を実感していた。なかでも「(生徒 3 名以上のグループで」生徒が学習について客観的にふりかえる活動」(M=3.787)、「(生徒 3 名以上のグループで) 生徒が学習について評価・採点する活動」(M=3.776) などの得点が高く、グループで学びを客観的に認知する活動について、高い効果を実感していることがわかった。(表 91)

表 90 単元で実施された学習活動とその主体（単一選択）

項目	実施の主体						小計	実施しなかった		有効回答	無効回答 無回答	合計
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人							
	度数	%	度数	%	度数	%	%	度数	%	度数	度数	度数
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	1,966	29.4	248	3.7	1,040	15.5	48.6	3,441	51.4	6,695	630	7,325
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	978	14.5	100	1.5	862	12.8	28.8	4,806	71.2	6,746	579	7,325
データを整理・分析する活動	1,699	25.2	230	3.4	994	14.7	43.3	3,824	56.7	6,747	578	7,325
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	1,348	20.0	159	2.4	2,165	32.1	54.5	3,082	45.6	6,754	571	7,325
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	3,113	45.6	409	6.0	1,191	17.4	69.0	2,115	31.0	6,828	497	7,325
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	979	14.5	133	2.0	197	2.9	19.4	5,428	80.6	6,737	588	7,325
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	690	10.3	361	5.4	147	2.2	17.9	5,528	82.2	6,726	599	7,325
生徒が学校外の施設を見学する活動	263	3.9	19	0.3	99	1.5	5.7	6,302	94.3	6,683	642	7,325
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	3,080	44.9	372	5.4	1,228	17.9	68.2	2,174	31.7	6,854	471	7,325
生徒同士が討論する活動（ディベート）	1,576	23.3	206	3.1	133	2.0	28.4	4,838	71.6	6,753	572	7,325
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	3,922	57.1	490	7.1	239	3.5	67.7	2,215	32.3	6,866	459	7,325
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	3,598	52.7	521	7.6	372	5.4	65.7	2,335	34.2	6,826	499	7,325
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	1,378	20.3	146	2.2	835	12.3	34.8	4,417	65.2	6,776	549	7,325
生徒が学習について評価・採点する活動	1,144	16.9	234	3.5	1382	20.4	40.8	4,013	59.2	6,773	552	7,325
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	1,141	16.8	173	2.6	2041	30.1	49.5	3,417	50.5	6,772	553	7,325
その他	90	4.3	14	0.7	45	2.1	7.1	1,968	93.0	2,117	5,208	7,325

（注）1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒 3 名以上のグループ」「生徒 2 名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを 1 つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 91 単元で実施された学習活動とその主体による効果の実感の違い

項目	実施の主体						実施しなかった	
	生徒3名以上のグループ		生徒2名		生徒個人			
	度数	効果の平均値	度数	効果の平均値	度数	効果の平均値	度数	効果の平均値
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	1,174	3.747	151	3.652	588	3.644	1,540	3.467
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	620	3.755	69	3.614	493	3.704	2,284	3.532
データを整理・分析する活動	996	3.729	137	3.575	554	3.648	1,793	3.513
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	807	3.749	105	3.654	1,192	3.643	1,380	3.470
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	1,602	3.679	205	3.600	664	3.603	1,033	3.469
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	521	3.629	69	3.567	109	3.589	2,768	3.591
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	421	3.771	204	3.609	86	3.582	2,750	3.571
生徒が学校外の施設を見学する活動	182	3.757	14	3.629	73	3.665	3,169	3.587
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	1,680	3.692	205	3.551	659	3.599	990	3.451
生徒同士が討論する活動（ディベート）	933	3.742	130	3.666	88	3.652	2,320	3.539
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	2,058	3.683	252	3.612	140	3.553	1,085	3.448
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	1,879	3.685	253	3.635	206	3.596	1,168	3.453
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	791	3.740	87	3.634	445	3.648	2,167	3.538
生徒が学習について評価・採点する活動	701	3.776	135	3.632	697	3.653	1,949	3.516
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	697	3.787	113	3.640	1,043	3.659	1,633	3.480

（注）1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動の効果について、参加型授業の効果について尋ねた25項目の加算平均を算出した。効果の値域は1～5。

4.　参加型授業の効果の実感に変化のあった教科となかった教科の違い

参加型授業の効果について 2015 年度から 2016 年度の間に変化があった教科にはどのような特徴があるのかを明らかにするため、教科主任の行動、教科主任の管理職への働きかけ、組織文化の観点から、効果の実感の変化の得点差を t 検定によって比較した。

4.1.　教科主任の行動の違いによる効果の実感の変化

参加型授業推進に向けた教科主任の行動について、各下位分類の得点によって上位 25%と下位 25%に区分し、それら 2 群の間で効果の実感の変化がどのように異なるのかを比較した（図 32)。

その結果、すべての変数において 5%水準で有意な差が見られ、効果量を見ると特に「AL への動機づけ」「学習機会の支援」による変化が大きくなっていた（「AL 方針の明確化」で $t(1311)=10.727$, $p<.001$, $\eta^2=.081$；「AL への動機づけ」で $t(1159)=15.052$, $p<.001$, $\eta^2=.164$；「教科でのチームづくり」で $t(1299)=11.816$, $p<.001$, $\eta^2=.097$；「AL の質の点検」で $t(1306)=12.324$, $p<.001$, $\eta^2=.104$；「学習機会の支援」で $t(1016)=12.720$, $p<.001$, $\eta^2=.137$；「役職を越えた教師間コミュニケーション」で $t(1311)=10.209$, $p<.001$, $\eta^2=.074$)。

教科において効果的なアクティブラーニングを実施するためには、各教員の意識を高めるとともに、アクティブラーニング実施に向けて教員の学習環境を整えることが重要であると考えられる。

記号凡例

t	t 検定の統計量 t 値
p	有意確率
n.s.	5%水準で統計的に非有意(not significant)
η^2	差の効果量の値

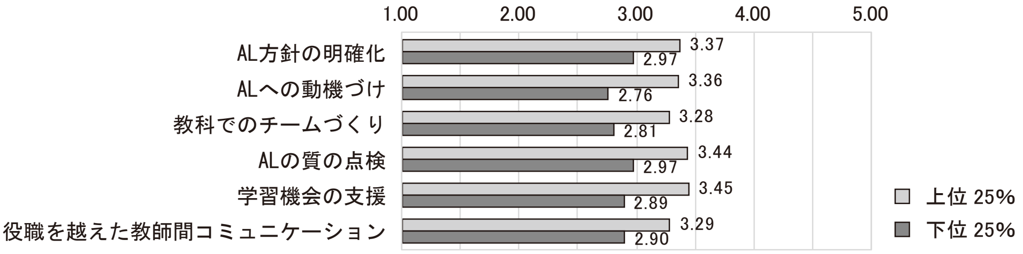


図 32 教科主任の行動の高低による効果の実感の変化の違い

4.2.　教科主任の管理職への働きかけの違いによる効果の実感の変化

参加型授業推進に向けた教科主任の管理職への働きかけについて、各下位分類の得点によって上位 25%と下位 25%に区分し、それら 2 群の間で効果の実感の変化がどのように異なるのかを比較した（図 33)。

その結果、すべての変数において 5%水準で有意な差が見られ、効果量を見ると特に「AL への組織的取り組みの促進」「校外リソースの獲得の促進」による変化が大きくなっていた（「校外リソース獲得の促進」$t(907)=9.147$, $p<.001$, $\eta^2=.084$；「AL への組織的取組の促進」で $t(962)=11.782$, $p<.001$,

η^2=.126；「学校のビジョン共有の促進」で t(998)=10.666, p<.001, η^2=.102；「指導に関する参考資料収集の促進」で t(1011)=11.420, p<.001, η^2=.114；「教師の仕事スリム化の促進」で t(996)=11.193, p<.001, η^2=.112；「校内での教師間連携の促進」で t(1036)=10.363, p<.001, η^2=.094；「校外での学習の促進」で t(901)=11.681, p<.001, η^2=.132)。

従って、アクティブラーニング推進に向けて組織的に取り組めるよう管理職を巻き込んでいくことが重要であると考えられる。

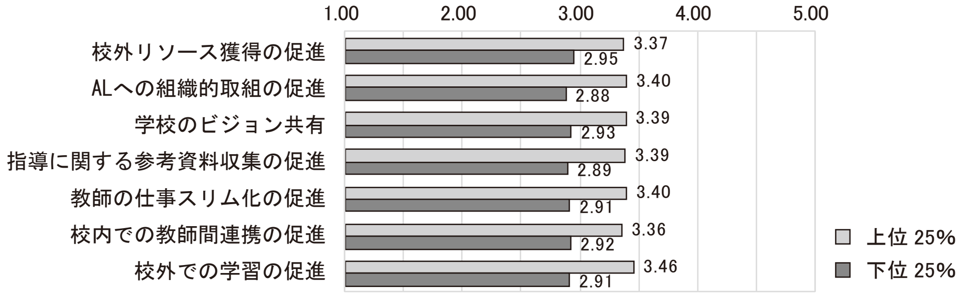


図 33 教科主任の管理職への働きかけの高低による効果の実感の変化の違い

4.3. 組織文化の違いによる効果の実感の変化

教科の組織文化について、各下位分類の得点によって上位 25%と下位 25%に区分し、それら 2 群の間で効果の実感の変化がどのように異なるのかを比較した（図 34)。

その結果、すべての変数において 5%水準で有意な差が見られ、効果量を見ると、組織文化の中では「教師自身の成長意欲」による影響が比較的大きいものであった（「教師自身の成長意欲」で t(889)=8.795, p<.001, η^2=.080；「自律的な仕事環境」で t(708)=4.854, p<.001, η^2=.032；「教師間の支え合い」t(795)=6.125, p<.001, η^2=.045)。

従って、生徒が学び・成長する効果的なアクティブラーニングを実施するためには、まずは教員自身が学び・成長することが重要であると考えられる。

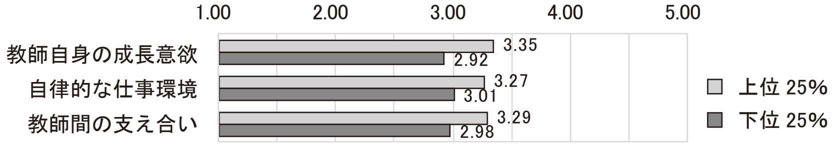


図 34 組織文化の高低による効果の実感の変化の違い

5. 生徒の進路先による学校タイプとの関連

5.1. 生徒の進路先による学校タイプの分類

生徒の進路先の割合について、クラスタ分析を行い、学校を 4 つのタイプに分類した。各タイプの進路先の割合の平均を図示したものが図 35 である。各タイプの生徒の進路先の特徴から、それぞれ「難関進学校」「中堅進学校」「中堅校」「進路多様校」と命名した。

難関進学校とは、四年制大学への進学が多いが、難関大学受験を目指す進学準備も多い学校である。中堅進学校とは、四年制大学進学が約 4 分の 3 を占め、かつ短期大学、専修・各種学校への進学を含めると約 9 割となる学校である。中堅校とは、四年制大学、短期大学への進学が約半数で、専修・各種学校、就職も約半数である学校である。進路多様校とは、就職が約半数を占める学校である。

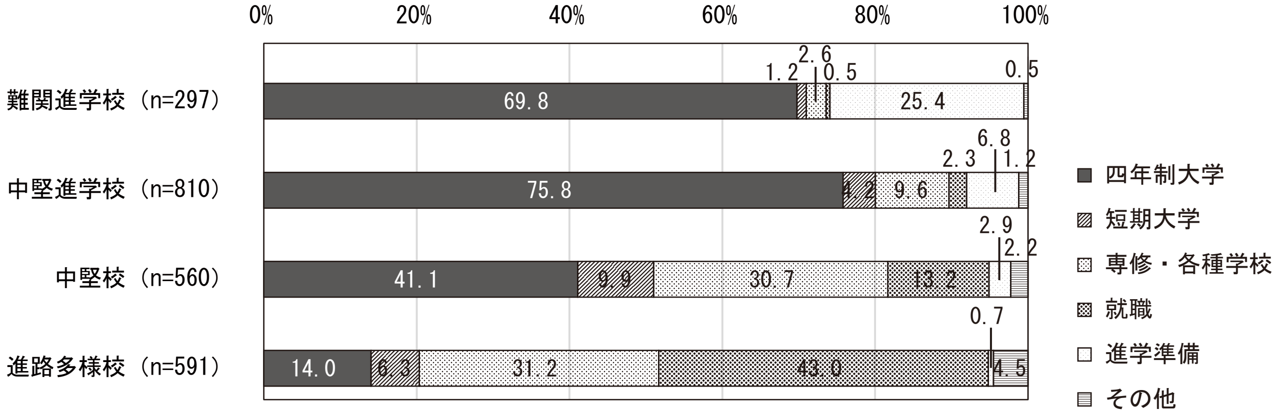


図 35 生徒の進路先による学校タイプとその内訳

（注）学校タイプは 2015 年度学校代表者調査による。

5.2. 学校タイプによる参加型授業実施率の違い

学校タイプによって参加型授業への取り組み状況と今後の見通しが異なるかどうかを検討した（表 92)。その結果、学校タイプによって参加型授業の実施率は有意に異なっていた（$\chi^2(3)=19.270$, $p<.001$)。調整済み標準化残差より、「難関進学校」「中堅進学校」「進路多様校」での実施率が 48.8%～50.9%であるのに比して、中堅校のみ 44.0%と実施率がやや低いことがわかった。ただし、中堅校では、「ここ数年で取り組むことを検討している」学校も 36.3%と他の学校タイプより多く、これから参加型授業の実施が増えていく学校タイプであると考えられる。

表 92 学校タイプによる参加型授業への取り組み方の違い（単一選択）

項目	難関進学校		中堅進学校		中堅校		進路多様校		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
今後取り組む見込みはない	31	3.1	75	2.7	74	3.8	78	4.0	258	3.3
ここ数年間で取り組む予定はない	145	14.4	340	12.1	271	13.8	248	12.6	1,004	13.0
ここ数年間で取り組むことを検討している	290	28.8	919	32.8	713	36.3	643	32.8	2,565	33.2
ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である	29	2.9	77	2.8	43	2.2	36	1.8	185	2.4
すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である	3	0.3	6	0.2	4	0.2	9	0.5	22	0.3
すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である	274	27.2	690	24.7	477	24.3	535	27.3	1,976	25.5
すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である	236	23.4	692	24.7	384	19.5	414	21.1	1,726	22.3
すでに取り組んでいる	513	50.9	1,388	49.6	865	44.0	958	48.8	3,724	48.1
有効回答数	1,008	100.0	2,799	100.0	1,966	100.0	1,963	100.0	7,736	100.0

（注）1. 参加型授業への取り組み方は教科主任調査の結果、学校タイプは 2015 年度学校代表者調査による。
2. 「すでに取り組んでいる」と回答した割合の合計を実施率としている。

5.3. 学校タイプによる教科主任の行動の違い

学校タイプにより、参加型授業推進に向けた教科主任の行動が異なるかどうかを検討した（表 93）。学校タイプごとの教科主任の行動の分散分析の結果、いずれについても有意な差が見られた（「AL 方針の明確化」で $F(3,1278)=5.076$, $p<.01$, $\eta^2=.012$； 「AL への動機づけ」で $F(3,1259)=7.271$, $p<.001$, $\eta^2=.017$；「教科でのチームづくり」で $F(3,1265)=5.149$, $p<.01$, $\eta^2=.012$；「AL の質の点検」で $F(3,1272)=10.012$, $p<.001$, $\eta^2=.023$；「学習機会の支援」で $F(3,1271)=4.571$, $p<.01$, $\eta^2=.011$；「役職を越えた教師間コミュニケーション」で $F(3,1278)=5.754$, $p<.01$, $\eta^2=.011$）。

差の効果量を見ると「AL への動機づけ」「AL の質の点検」の差が上位 2 つであった。多重比較の結果、「AL への動機づけ」において中堅進学校が中堅校よりも高く、「AL の質の点検」で進路多様校が、難関進学校、中堅進学校、中堅校よりも高かった。

表 93 学校タイプによる教科主任の行動の違い

項目	難関進学校			中堅進学校			中堅校			進路多様校		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
AL方針の明確化	196	2.52	1.050	587	2.60	1.074	243	2.29	1.006	256	2.48	1.032
ALへの動機づけ	193	3.50	0.891	579	3.65	0.838	237	3.35	0.921	254	3.52	0.866
教科でのチームづくり	193	3.70	0.737	580	3.79	0.726	241	3.58	0.835	255	3.64	0.760
ALの質の点検	194	2.65	0.838	584	2.76	0.867	243	2.60	0.859	255	2.98	0.819
学習機会の支援	194	2.84	0.896	583	2.93	0.899	243	2.70	0.886	255	2.74	0.918
ALの質の点検	194	2.65	0.838	584	2.76	0.867	243	2.60	0.859	255	2.98	0.819
役職を越えた教師間コミュニケーション	196	3.43	0.914	586	3.48	0.892	244	3.26	0.972	256	3.54	0.855

（注）教科主任の行動は教科主任調査の結果、学校タイプは 2015 年度学校代表者調査による。

6. 2015 年度から 2016 年度の間に参加型授業に取り組むようになった教科の特徴

本調査は縦断的調査であり、2015 年度調査では全国の高等学校 3,893 校から 2,414 校、11,486 名の教科主任の回答があり、2016 年度は回答校 2,414 校に調査し 1,793 校、8,680 名の教科主任から回答があった。

ここでは、2015 年度調査時点から 2016 年度調査時点にかけての参加型授業への取り組み方の変化について検討する。

6.1. 教科別の参加型授業への取り組みの変化

参加型授業について、2015 年時点で取り組んでいなかった教科の数は 4,360 であった。そのうち、1 年後の 2016 年時点で取り組むようになった教科の数は 1,540 であったのに対し、1 年後の 2016 年時点で取り組んでいなかった教科の数は 2,820 であった。2015 年に参加型授業に取り組んでいなかった教科のうち、35.3%が 1 年間のうちに取り組むように変化したことがわかる。教科別に見ると、理科の 39.9%が最も多く、数学の 27.2%が最も少なかった。(表 94)

表 94 教科別の参加型授業への取り組みの変化

	年度	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	2015 2016	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
実施の変化	無→無	454	61.5	544	63.3	844	72.8	518	60.1	460	62.2	2,820	64.7
	無→有	284	38.5	316	36.7	316	27.2	344	39.9	280	37.8	1,540	35.3
合計		738	100.0	860	100.0	1160	100.0	862	100.0	740	100.0	4,360	100.0

6.2. カリキュラム・マネジメント

2015 年度調査時点で参加型授業に取り組んでいなかったが、1 年後の 2016 年度調査時点で参加型授業に取り組むようになった教科の特徴について、取り組むようになった教科とそうでない教科にはどのような違いがあるか、t 検定やカイ二乗検定によって検討した(紙面の都合により結果の一部を記載する)。

分析の結果、いくつかの変数において有意な差が見られた。ここでは有意な変数が多かった学校全体におけるカリキュラム・マネジメント(教育課程の編成、実施、評価、改善)、教科におけるカリキュラム・マネジメント(指導計画や教育内容の設計、実施、評価、改善)の変数群について、結果を報告する。

t 検定の結果、カリキュラム・マネジメントの変数群については、学校全体では「教育課程を評価・改善する取り組み」「各教員が自分の授業を評価・改善する仕組み」「評価・改善に向けての一致協力」「校長による働きかけ」において 5%水準で有意であった(「学校教育目標の意識」で $t(4277)=1.550$, *n.s.*, $\eta^2=.001$; 「教育課程を評価・改善する取り組み」で $t(4273)=2.780$, $p<.01$, $\eta^2=.002$; 「各教員が自分の授業を評価・改善する仕組み」で $t(4290)=5.038$, $p<.001$, $\eta^2=.006$; 「評価・改善に向けての一致協力」で $t(4284)=3.470$, $p<.001$, $\eta^2=.003$; 「校長による働きかけ」で $t(4289)=2.370$, $p<.05$, $\eta^2=.001$)(表 95)。

また、教科では、「学校教育目標の意識」「教育課程を評価・改善する取り組み」「各教員が自分の授業を評価・改善する仕組み」「評価・改善に向けての一致協力」「校長による働きかけ」において 5%水準で有意であった(「学校教育目標の意識」で $t(4343)=2.043$, $p<.05$, $\eta^2=.001$; 「教育課程を評価・改善

する取り組み」で $t(4321)=5.773$, $p<.001$, $\eta^2=.008$；「各教員が自分の授業を評価・改善する仕組み」で $t(4336)=5.632$, $p<.001$, $\eta^2=.007$；「評価・改善に向けての一致協力」で $t(4328)=3.644$, $p<.001$, $\eta^2=.003$；「校長による働きかけ」で $t(4339)=2.896$, $p<.01$, $\eta^2=.002$)（表 96）。

すなわち、教科におけるカリキュラム・マネジメントだけでなく、学校全体でカリキュラム・マネジメントできているかどうかが、教科での参加型授業の実施と関連していた。従って、教科だけでなく学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことも同様に重要であると考えられる。

表 95 学校全体におけるカリキュラム・マネジメントと実施の変化

学校全体でのカリキュラム・マネジメント	実施の変化 年度 2015 2016	度数	平均値	標準偏差
学校教育目標の意識	無→無	2,774	4.17	0.602
	無→有	1,505	4.20	0.600
教育課程を評価・改善する取り組み	無→無	2,772	2.82	0.772
	無→有	1,503	2.89	0.793
各教員が自分の授業を評価・改善する仕組み	無→無	2,779	3.97	0.844
	無→有	1,513	4.11	0.809
評価・改善に向けての一致協力	無→無	2,778	3.74	0.622
	無→有	1,508	3.81	0.629
校長による働きかけ	無→無	2,779	4.50	0.600
	無→有	1,512	4.55	0.589

（注）2015 年度学校代表者調査の結果及び 2016 年度の教科主任調査の結果による。

表 96 教科におけるカリキュラム・マネジメントと実施の変化

教科でのカリキュラム・マネジメント	実施の変化 年度 2015 2016	度数	平均値	標準偏差
学校教育目標の意識	無→無	2,814	3.92	0.751
	無→有	1,531	3.96	0.718
教育課程を評価・改善する取り組み	無→無	2,800	3.03	0.775
	無→有	1,523	3.17	0.741
各教員が自分の授業を評価・改善する仕組み	無→無	2,805	3.67	0.850
	無→有	1,533	3.82	0.811
評価・改善に向けての一致協力	無→無	2,802	3.56	0.737
	無→有	1,528	3.65	0.707
校長による働きかけ	無→無	2,810	3.95	0.888
	無→有	1,531	4.03	0.823

（注）2015 年度及び 2016 年度の教科主任調査の結果による。

6.3. 学習環境の整備

2015 年度調査の結果から、参加型授業実施上の悩みとして、「施設・設備が足りない」という悩みを抱えていることがわかった。そこで、学校での施設・設備の整備状況と、2015 年度から 2016 年度の 1 年間で参加型授業を実施するようになったかどうかということの間にどのような関係があるかを検討するため、実施の変化による ICT 等学習環境の整備状況の違いを t 検定によって比較した。

分析の結果、ICT 等学習環境の整備状況については、すべての変数において有意な差は見られず、効果量の値も小さかった （「コンピュータ（生徒用）」で $t(4105)=0.441$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「うちタブレット型コンピュータ」で $t(3558)=0.517$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「うちインターネットに接続されたコンピュータ」で $t(4037)=0.124$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「実物投影機（書画カメラ）」で $t(3751)=0.517$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「プロジェクタ」で $t(4074)=1.075$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「電子黒板」で $t(3790)=1.485$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「グループ学習室」で $t(3642)=0.645$, *n.s.*, $\eta^2=.000$; 「デジタル教科書」で $t(3811)=0.443$, *n.s.* $\eta^2=.000$)（表 97)。この結果から、実施の変化と学習環境の整備状況との間にはあまり関連がないことがわかった。すなわち、2015 年時点での ICT 等の施設・設備の台数は、2016 年時点で参加型授業に取り組むようになるかどうかに寄与しておらず、施設・設備の台数が多いからといって参加型授業に取り組むようになるわけではないということである。

表 97 学習環境の整備状況と実施の変化

学習環境の整備状況	実施の変化 年度 2015 2016	度数	平均値	標準偏差
コンピュータ(生徒用)	無→無	2,679	84.06	104.795
	無→有	1,428	85.63	115.387
うちタブレット型コンピュータ	無→無	2,288	13.72	103.716
	無→有	1,272	15.62	108.280
うちインターネットに接続されたコンピュータ	無→無	2,631	77.99	102.811
	無→有	1,408	78.42	108.723
実物投影機(書画カメラ)	無→無	2,422	2.50	4.949
	無→有	1,331	2.59	4.874
プロジェクタ	無→無	2,657	9.13	9.813
	無→有	1,419	9.48	9.612
電子黒板	無→無	2,455	1.97	5.829
	無→有	1,337	1.68	5.143
グループ学習室	無→無	2,353	1.58	2.635
	無→有	1,291	1.52	2.763
デジタル教科書	無→無	2,458	0.07	0.252
	無→有	1,355	0.06	0.245

（注）2015 年度学校代表者調査の結果及び 2016 年度の教科主任調査の結果による。

付録

1. 国語科 調査票
2. 地歴・公民科 調査票
3. 数学科 調査票
4. 理科 調査票
5. 外国語 調査票

調査票
国語科主任用

国
語
科

高等学校における参加型学習に関する実態調査
2016

東京大学　大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）

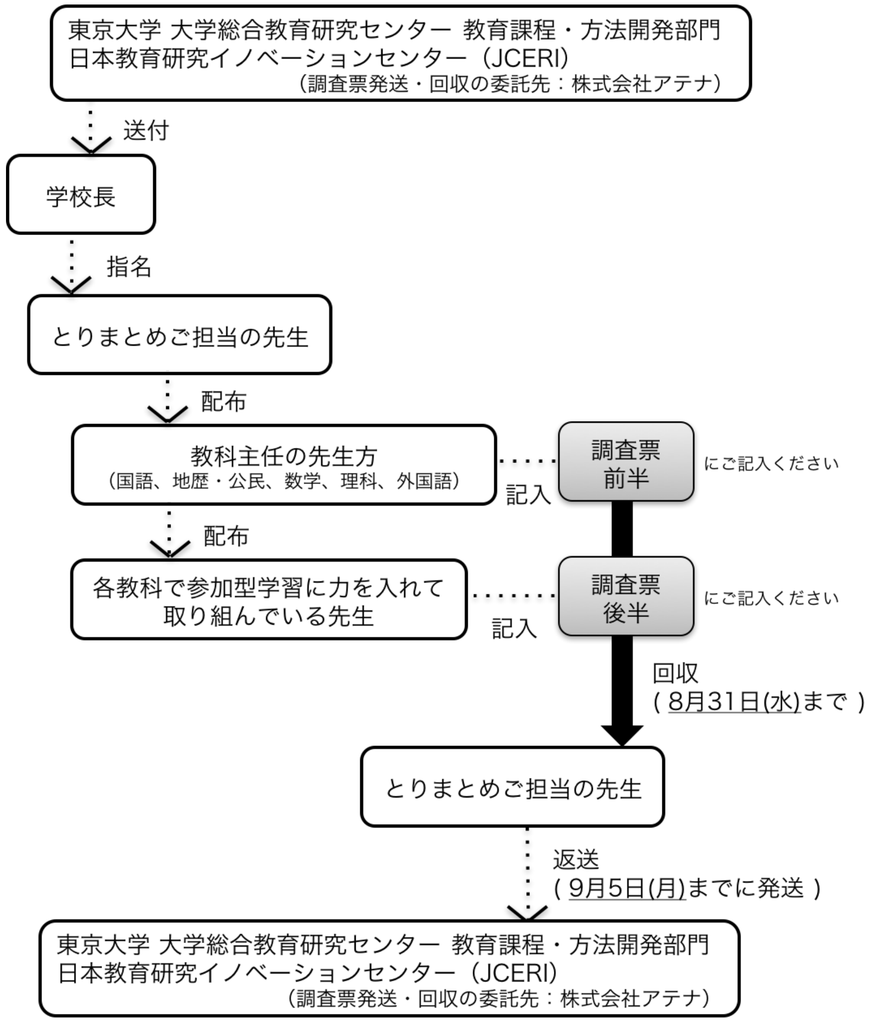
８月 31 日 (水) までに
とりまとめご担当の先生に
提出してください

※　すべての調査票をまとめて、９月５日(月) までに発送していただきますよう、
　　とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

［問い合わせ先］
○調査票の発送・回収に関するお問い合わせ
　日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）　担当　石鍋、近藤、赤塚、高井
　電話番号　03-6811-5569
　受付時間　10:00～18:00（土日祝を除く）
○質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ　※下記の電話番号は９月５日まで有効
　東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門　担当　木村、山辺、中原
　電話番号　070-6936-0724
　受付時間　10:00～17:00（土日祝、夏季休業〔8/12-18〕を除く）

【調査の概要】
　東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンターと連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。昨年に続き、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。
①　昨年と今年で参加型学習に関する取り組みに変化はあったか
②　参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか
　本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<http://manabilab.jp>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。
　お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。
【調査結果の取り扱い】
　回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。
【注意とお願い】
・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンターが有しています。調査票を利用しての独自の調査および研究はお控えください。
・調査票は指定した宛先のみに返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



ここでは、国語科の教科全体での取り組みについて、教科を代表される立場として、教科主任の先生にお尋ねします。

1 あなたが貴校の国語科の教科主任に着任された時期について、あてはまる数字を 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 2016 年３月以前に着任した
2. 2016 年４月以降に着任した

この調査は、指定した期間の参加型学習への取り組みの変化についてお尋ねするものです。

以降の質問について 1 の質問で
「1.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2015 年９月～2016 年８月（昨年度の調査回答時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。
「2.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2016 年４月～2016 年８月（着任時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。

まず、貴校での参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち１回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング　　など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文　　など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習　　など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。
※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。
ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

2 国語科での現在の参加型学習への取り組みについてお聞きします。

(1) 国語科での現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 国語科では参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない
   → 3 4 に回答し、回答を終了してください。
2. 教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる
   → 3 4 に回答し、p11 にお進みください。
3. 教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる
   → 2-(2) 3 4 に回答し、p5 にお進みください。

(2) (1)で３と回答された方は、国語科での教科としての現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている
2. 教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
3. 参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている

3 国語科での参加型学習の導入率についてお聞きします。国語科で行われているすべての授業のうち参加型学習を取り入れた授業をどの程度の割合で実施しているか（実施する予定でいるか）、科目別・学年別に、右側の空欄に最もあてはまる記号を記入してください。

a. 0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）
b. およそ 10%未満の授業で取り入れている
c. およそ 10%以上 25%未満の授業で取り入れている
d. およそ 25%以上 50%未満の授業で取り入れている
e. およそ 50%以上 75%未満の授業で取り入れている
f. およそ 75%以上の授業で取り入れている
ー. 授業が設置されていない

科目名	A １年	B ２年	C ３年
例) 国語総合	e	ー	ー
1. 国語総合			
2. 国語表現			
3. 現代文Ａ・Ｂ			
4. 古典Ａ・Ｂ			
5. (　　　　　　)			
6. (　　　　　　)			

記入例）
１年生の「国語総合」の授業がすべてで２つあり、そのうち１つの授業で参加型学習が実施されているなら、１年の列に「e」を記入する。

4 国語科での今後の参加型学習への取り組み方について、最もあてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

◆ 2 -(1) で１と回答された方は、ここで回答を終了してください。

◆ 2 -(1) で２と回答された方は、p11 へお進みください。

◆ 2 -(1) で３と回答された方は、p5 へお進みください。

5 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任としてどのようなことに取り組んできましたか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	5	4	3	2	1
2. 参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	5	4	3	2	1
3. 各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	5	4	3	2	1
4. 各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	5	4	3	2	1
5. 教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	5	4	3	2	1
6. 校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	5	4	3	2	1
7. 各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	5	4	3	2	1
8. 生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	5	4	3	2	1
9. 参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	5	4	3	2	1
10. 教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	5	4	3	2	1
11. 他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	5	4	3	2	1
12. 自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	5	4	3	2	1
13. 教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	5	4	3	2	1
14. 教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	5	4	3	2	1
15. 校内研修の企画運営に積極的に携わっている	5	4	3	2	1
16. 参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	5	4	3	2	1
17. 校長・教頭との意思の疎通を図っている	5	4	3	2	1
18. 他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	5	4	3	2	1
19. 教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	5	4	3	2	1
20. 管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	5	4	3	2	1
21. 教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	5	4	3	2	1
22. 教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	5	4	3	2	1

23. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが参加型学習の推進に向けて教科主任として取り組んでいることがありましたら、ご自由にお書きください。

6 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことは何ですか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	5	4	3	2	1
2. 複数教員による授業を実施できるようお願いした	5	4	3	2	1
3. 他の事務的作業を軽減するようお願いした	5	4	3	2	1
4. 校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	5	4	3	2	1
5. 関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
6. 指導方法に関するビデオや DVD などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
7. 同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
8. 同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
9. 学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	5	4	3	2	1
10. 意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	5	4	3	2	1
11. 学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	5	4	3	2	1
学校外との連携					
12. 校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	5	4	3	2	1
13. 他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
14. 大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	5	4	3	2	1
15. PTA や自治体との意思疎通を図るようお願いした	5	4	3	2	1
学校外からのサポート					
16. 補助金や助成金を獲得するようお願いした	5	4	3	2	1

17. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことがありましたら、ご自由にお書きください。

7 参加型学習の効果について、この期間の変化をお聞きします。国語科において、参加型学習を取り入れた授業の実施により、この期間で変化を実感した参加型学習の効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
5. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
探究する力					
7. 生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1
8. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
9. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
10. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
12. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
13. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	5	4	3	2	1
14. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
15. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
16. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
17. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
19. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
20. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
21. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
22. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
23. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
24. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1

26. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで変化を実感した効果がありましたら、ご自由にお書きください。

8 参加型学習の悩みについて、この期間の変化をお聞きします。国語科において、参加型学習を実施することでこの期間で増えた、あるいは減った困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
4. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
7. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
8. 授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
9. 授業中の生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
10. 参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	5	4	3	2	1
11. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
12. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
13. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
15. 予算が足りない	5	4	3	2	1
16. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
17. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
18. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
19. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
20. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
21. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

22. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで新たに生じた困難や課題、不安がありましたら、ご自由にお書きください。

9 国語科における各教員の考え方や行動についてお聞きします。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	5	4	3	2	1
2. 各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	5	4	3	2	1
3. 各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	5	4	3	2	1
4. 各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	5	4	3	2	1
5. 各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	5	4	3	2	1
6. 教材研究のための時間が確保されている	5	4	3	2	1
7. 各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	5	4	3	2	1
8. 各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	5	4	3	2	1
9. 悩み事を同僚同士が相談し合っている	5	4	3	2	1
10. 教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	5	4	3	2	1

10 昨年度（2015年度）に開催された、教員対象の「アクティブ・ラーニング」に関する研修についてお聞きします。

(1) 国語科教員が1人でも参加した学校主催の「アクティブ・ラーニング」に関する校内研修の回数を教えて下さい。…………年に（　　　）回

(2) (1)で開催された「アクティブ・ラーニング」の校内研修では、どのようなテーマを取り上げましたか。具体的なテーマについてご自由にお書きください。

(3) 教育委員会や他の外部機関が主催している「アクティブ・ラーニング」の研修を、どのように利用されていますか。教科としてあてはまるものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 教科のほとんどの教員が校務として参加している。
2. 教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している。
3. 教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている。
4. 教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている。
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

11 貴校の学習環境の整備状況についてお聞きします。国語科において、参加型学習を進める上での教具・設備の導入・活用状況についてお答えください。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んで数字に○をつけてください。

	すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している	すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる	すでに導入しているが参加型学習には活用していない	今後、導入する予定	導入する予定はない
1. タブレット型コンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
2. インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
3. 実物投影機（書画カメラ）	5	4	3	2	1
4. プロジェクタ	5	4	3	2	1
5. 電子黒板	5	4	3	2	1
6. クリッカー	5	4	3	2	1
7. グループ学習室	5	4	3	2	1
8. デジタル教科書	5	4	3	2	1
9. その他（具体的に記載：　　　　　　　　　　　）	5	4	3	2	1

国語科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる先生を１人思い浮かべてください。
本ページ以降の質問は、その先生にこの調査票を渡し、ご回答をお願いしてください。

あなたが、昨年度（2015 年度）から現在までに実施した参加型学習を取り入れた授業の中で、最も「うまくいった」と思われる「単元」を１つ思い浮かべてください。

本調査における「単元」とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」を指します。
例えば、「小説『こころ』（夏目漱石）を読む」など。

12 その単元はどの科目で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 国語総合（現代文）
2. 国語総合（古典）
3. 現代文Ａ・Ｂ
4. 古典Ａ・Ｂ
5. 国語表現
6. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

13 その単元はどの学年で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 高校１年生
2. 高校２年生
3. 高校３年生

14 その単元で扱った分野・テーマは何ですか。(1) あてはまる分野・テーマをすべて選んで数字に○をつけ、(2) その単元で扱った具体的な作品名と著者名を下の欄に記入してください。複数の出典を利用した場合は、主に活用したものを２つまで記入してください。

(1) 分野・テーマ

現代文	1. 小説	2. 評論	3. 詩歌
	4. その他（　　　　　　　　　　）		
古典	5. 古文の物語／説話／軍記	6. 古文の随筆／日記／紀行	7. 和歌
	8. ストーリー展開が中心にある漢文	9. 思想・評論など主張や議論が中心にある漢文	10. 漢詩・詩話
	11. その他（　　　　　　　　　　）		

(2) 出典

	著者名	作品名
1.		
2.		

15 その単元での参加型学習についてお聞きします。

(1) その単元では、どのような種類の参加型学習を実施しましたか。あてはまるものを 1 つずつ選んで数字に○をつけてください。

	実施の主体：生徒3名以上のグループ	実施の主体：生徒2名	実施の主体：生徒個人	実施しなかった
1. 生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	4	3	2	1
2. 生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	4	3	2	1
3. データを整理・分析する活動	4	3	2	1
4. 生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	4	3	2	1
5. 生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	4	3	2	1
6. 生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	4	3	2	1
7. 生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	4	3	2	1
8. 生徒が学校外の施設を見学する活動	4	3	2	1
9. 生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	4	3	2	1
10. 生徒同士が討論する活動（ディベート）	4	3	2	1
11. 生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4	3	2	1
12. 生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4	3	2	1
13. 生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	4	3	2	1
14. 生徒が学習について評価・採点する活動	4	3	2	1
15. 生徒が学習について客観的にふりかえる活動	4	3	2	1
16. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）	4	3	2	1

(2) その単元ではどのようなテーマ、流れで参加型学習を実施したのかを具体的に記入してください。

例）夏目漱石『こころ』の全文を自宅で読ませ、「K」の自殺の理由として最も大きく影響したものをグループディスカッションで検討させてから、クラスを２グループに分けて討論をさせた。これらを２回の授業に分けて行った。

(3) 授業で生徒がふりかえる活動を実施している方（(1)の 15 で 2～4 に○をつけた方）にお聞きします。あなたは生徒のふりかえりのためにどのような工夫をしていますか。具体的にご記入ください。

(4) その単元で実施した複数回の授業の中では、参加型学習を取り入れた授業をどのようなタイミングで実施しましたか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. その単元での毎回の授業
2. その単元のはじめの頃の授業
3. その単元の中頃の授業
4. その単元のおわりの頃の授業

(5) その単元を実施した科目では、年間を通してどれくらいの頻度で参加型学習を実施しましたか。（2016 年 4 月以降に実施した単元の場合は、どれくらいの頻度で実施する予定ですか。）もっとも近いものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 毎回の授業
2. 学期に複数回
3. 学期に 1 回
4. 年に 1～2 回

16 その単元で実施した参加型学習で使用した教材は何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科書
2. 副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材：ワークブック、ドリル、資料集など）
3. 大学入試対策の問題集・大学入試の過去問
4. 教員が独自に作成したプリント
5. 資料（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
6. その他（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

17 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような学力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを 1 つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合						
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	5	4	3	2	1	0
2. 各教科で身につけた知識・技能を活用する力	5	4	3	2	1	0
3. 教科を越えた知識や理解の統合	5	4	3	2	1	0
4. 教科内容に対する知的好奇心	5	4	3	2	1	0
5. 物事を多面的に見る力	5	4	3	2	1	0
言語を活用する力						
6. 文章などを正確に読み解く力	5	4	3	2	1	0
7. 自分の考えを言語で表現する力	5	4	3	2	1	0
探究する力						
8. 課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	5	4	3	2	1	0
9. 自分で情報を収集し、分析し、整理する力	5	4	3	2	1	0
10. 課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	5	4	3	2	1	0
11. これまでにない発想をしようとする創造性	5	4	3	2	1	0

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
12. 物事の道理や因果関係を理解する力	5	4	3	2	1	0
13. 自分の考えを深める思考力	5	4	3	2	1	0
対人関係を築き、協働する力						
14. 主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	5	4	3	2	1	0
15. 他者と協力するための社会性や協調性	5	4	3	2	1	0
16. 勤労観や職業観	5	4	3	2	1	0
17. 社会の一員としての市民性意識	5	4	3	2	1	0
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	5	4	3	2	1	0
自ら学びを切り開く力						
19. 何事にも積極的に取り組む意欲	5	4	3	2	1	0
20. 他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5	4	3	2	1	0
21. 社会変化に対応できる柔軟性	5	4	3	2	1	0
22. 自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5	4	3	2	1	0
卒業後の進路に役立つ力						
23. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	5	4	3	2	1	0
24. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	5	4	3	2	1	0
25. 就職で必要となる力	5	4	3	2	1	0

18 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような教科の力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
1. 背景知識の習得／古典常識の習得	5	4	3	2	1	0
2. 語い力	5	4	3	2	1	0
3. 文法力	5	4	3	2	1	0
4. 読解力	5	4	3	2	1	0
5. 記述力・論述力	5	4	3	2	1	0
6. その他（　　　　　　　　　　　　）	5	4	3	2	1	0

19 質問 17 18 で答えた効果を判断する際に、その判断材料としたものは何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 生徒の学習態度
2. 生徒の発言内容（発表内容）
3. 提出物（作文やレポートなど）
4. 授業内のチェックテスト（確認テストや小テストなど）
5. 学校独自のテスト（定期テストや実力テストなど）
6. 予備校などが主催する模擬試験
7. 生徒同士の相互評価
8. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 及び 日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に 8 月 31 日までにお渡しください。

調査票
地歴・公民科主任用

地歴・公民科

高等学校における参加型学習に関する実態調査 2016

東京大学　大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）

8 月 31 日 (水) までに とりまとめご担当の先生に 提出してください

※　すべての調査票をまとめて、９月５日(月) までに発送していただきますよう、
とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

［問い合わせ先］
◯調査票の発送・回収に関するお問い合わせ
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）　担当　石鍋、近藤、赤塚、高井
電話番号　03-6811-5569
受付時間　10:00～18:00（土日祝を除く）
◯質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ　※下記の電話番号は９月５日まで有効
東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門　担当　木村、山辺、中原
電話番号　070-6936-0724
受付時間　10:00～17:00（土日祝、夏季休業〔8/12-18〕を除く）

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンターと連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。昨年に続き、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 昨年と今年で参加型学習に関する取り組みに変化はあったか

② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<http://manabilab.jp>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

【調査結果の取り扱い】

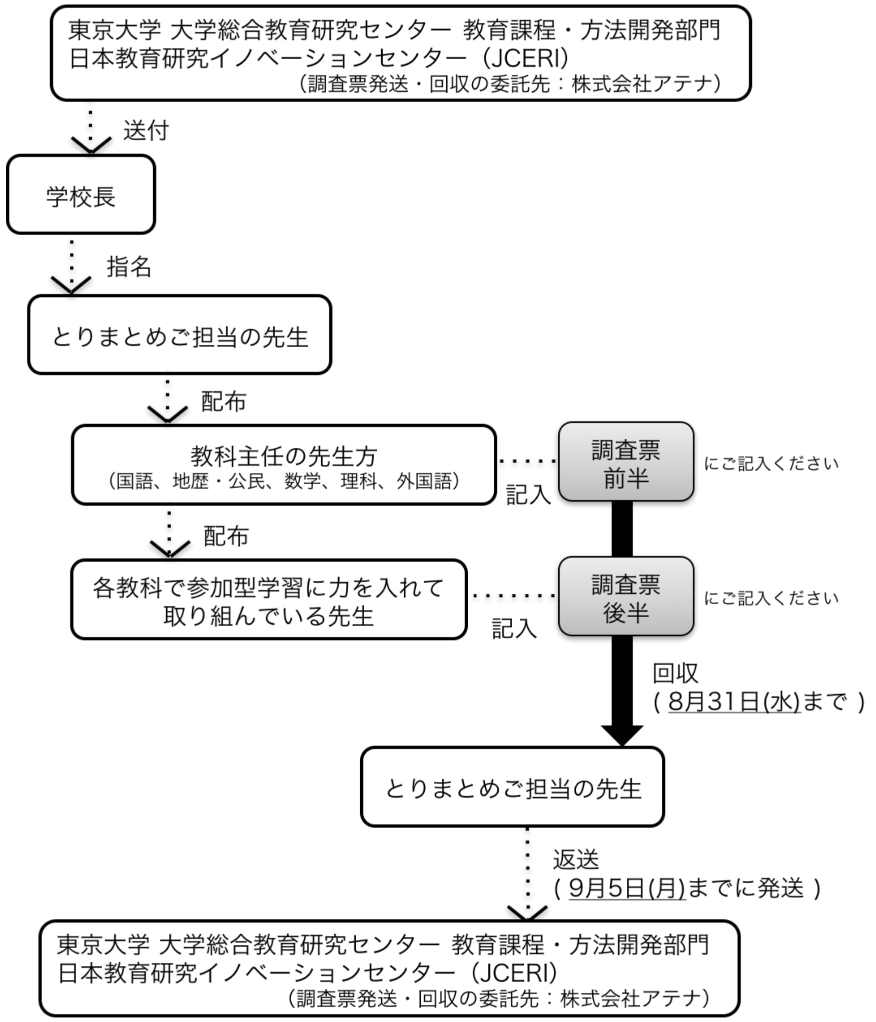
回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンターが有しています。調査票を利用しての独自の調査および研究はお控えください。

・調査票は指定した宛先のみに返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



ここでは、地歴・公民科の教科全体での取り組みについて、教科を代表される立場として、教科主任の先生にお尋ねします。

[1] あなたが貴校の地歴・公民科の教科主任に着任された時期について、あてはまる数字を1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 2016年3月以前に着任した
2. 2016年4月以降に着任した

この調査は、指定した期間の参加型学習への取り組みの変化についてお尋ねするものです。

以降の質問について [1] の質問で
「1.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2015年9月～2016年8月（昨年度の調査回答時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。
「2.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2016年4月～2016年8月（着任時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。

まず、貴校での参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング　など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文　など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習　など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。
※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。
ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

[2] 地歴・公民科での現在の参加型学習への取り組みについてお聞きします。

(1) 地歴・公民科での現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 地歴・公民科では参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない
   → [3] [4] に回答し、回答を終了してください。
2. 教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる
   → [3] [4] に回答し、p11 にお進みください。
3. 教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる
   → [2]-(2) [3] [4] に回答し、p5 にお進みください。

(2) (1)で 3 と回答された方は、地歴・公民科での教科としての現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている
2. 教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
3. 参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている

3 地歴・公民科での参加型学習の導入率についてお聞きします。地歴・公民科で行われているすべての授業のうち参加型学習を取り入れた授業をどの程度の割合で実施しているか（実施する予定でいるか）、科目別・学年別に、右側の空欄に最もあてはまる記号を記入してください。

a. 0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）
b. およそ 10%未満の授業で取り入れている
c. およそ 10%以上 25%未満の授業で取り入れている
d. およそ 25%以上 50%未満の授業で取り入れている
e. およそ 50%以上 75%未満の授業で取り入れている
f. およそ 75%以上の授業で取り入れている
ー. 授業が設置されていない

科目名	A 1 年	B 2 年	C 3 年
例) 世界史 A・B	e	e	d
1. 世界史 A・B			
2. 日本史 A・B			
3. 地理 A・B			
4. 現代社会			
5. 倫理			
6. 政治経済			
7. (　　　　　　　)			

例）
2 年生の「世界史 B」の授業がすべてで 2 つあり、そのうち 1 つの授業で参加型学習が実施されているなら、2 年の列に「e」を記入する。

4 地歴・公民科での今後の参加型学習への取り組み方について、最もあてはまるものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

◆ 2 -(1) で 1 と回答された方は、ここで回答を終了してください。

◆ 2 -(1) で 2 と回答された方は、p11 へお進みください。

◆ 2 -(1) で 3 と回答された方は、p5 へお進みください。

5 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任としてどのようなことに取り組んできましたか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	5	4	3	2	1
2. 参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	5	4	3	2	1
3. 各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	5	4	3	2	1
4. 各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	5	4	3	2	1
5. 教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	5	4	3	2	1
6. 校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	5	4	3	2	1
7. 各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	5	4	3	2	1
8. 生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	5	4	3	2	1
9. 参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	5	4	3	2	1
10. 教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	5	4	3	2	1
11. 他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	5	4	3	2	1
12. 自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	5	4	3	2	1
13. 教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	5	4	3	2	1
14. 教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	5	4	3	2	1
15. 校内研修の企画運営に積極的に携わっている	5	4	3	2	1
16. 参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	5	4	3	2	1
17. 校長・教頭との意思の疎通を図っている	5	4	3	2	1
18. 他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	5	4	3	2	1
19. 教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	5	4	3	2	1
20. 管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	5	4	3	2	1
21. 教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	5	4	3	2	1
22. 教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	5	4	3	2	1

23. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが参加型学習の推進に向けて教科主任として取り組んでいることがありましたら、ご自由にお書きください。

6 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことは何ですか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	5	4	3	2	1
2. 複数教員による授業を実施できるようお願いした	5	4	3	2	1
3. 他の事務的作業を軽減するようお願いした	5	4	3	2	1
4. 校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	5	4	3	2	1
5. 関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
6. 指導方法に関するビデオや DVD などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
7. 同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
8. 同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
9. 学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	5	4	3	2	1
10. 意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	5	4	3	2	1
11. 学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	5	4	3	2	1
学校外との連携					
12. 校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	5	4	3	2	1
13. 他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
14. 大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	5	4	3	2	1
15. PTA や自治体との意思疎通を図るようお願いした	5	4	3	2	1
学校外からのサポート					
16. 補助金や助成金を獲得するようお願いした	5	4	3	2	1

17. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことがありましたら、ご自由にお書きください。

7 参加型学習の効果について、この期間の変化をお聞きします。地歴・公民科において、参加型学習を取り入れた授業の実施により、この期間で変化を実感した参加型学習の効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
5. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
探究する力					
7. 生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1
8. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
9. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
10. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
12. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
13. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	5	4	3	2	1
14. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
15. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
16. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
17. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
19. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
20. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
21. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
22. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
23. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
24. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1

26. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで変化を実感した効果がありましたら、ご自由にお書きください。

8 参加型学習の悩みについて、この期間の変化をお聞きします。地歴・公民科において、参加型学習を実施することでこの期間で増えた、あるいは減った困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
4. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
7. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
8. 授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
9. 授業中の生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
10. 参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	5	4	3	2	1
11. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
12. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
13. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
15. 予算が足りない	5	4	3	2	1
16. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
17. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
18. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
19. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
20. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
21. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

22. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで新たに生じた困難や課題、不安がありましたら、ご自由にお書きください。

9 地歴・公民科における各教員の考え方や行動についてお聞きします。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	5	4	3	2	1
2. 各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	5	4	3	2	1
3. 各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	5	4	3	2	1
4. 各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	5	4	3	2	1
5. 各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	5	4	3	2	1
6. 教材研究のための時間が確保されている	5	4	3	2	1
7. 各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	5	4	3	2	1
8. 各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	5	4	3	2	1
9. 悩み事を同僚同士が相談し合っている	5	4	3	2	1
10. 教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	5	4	3	2	1

10 昨年度（2015年度）に開催された、教員対象の「アクティブ・ラーニング」に関する研修についてお聞きします。

(1) 地歴・公民科教員が1人でも参加した学校主催の「アクティブ・ラーニング」に関する校内研修の回数を教えて下さい。…………年に（　　　）回

(2) (1)で開催された「アクティブ・ラーニング」の校内研修では、どのようなテーマを取り上げましたか。具体的なテーマについてご自由にお書きください。

(3) 教育委員会や他の外部機関が主催している「アクティブ・ラーニング」の研修を、どのように利用されていますか。教科としてあてはまるものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 教科のほとんどの教員が校務として参加している。
2. 教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している。
3. 教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている。
4. 教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている。
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

11 貴校の学習環境の整備状況についてお聞きします。地歴・公民科において、参加型学習を進める上での教具・設備の導入・活用状況についてお答えください。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している	すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる	すでに導入しているが参加型学習には活用していない	今後、導入する予定	導入する予定はない
1. タブレット型コンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
2. インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
3. 実物投影機（書画カメラ）	5	4	3	2	1
4. プロジェクタ	5	4	3	2	1
5. 電子黒板	5	4	3	2	1
6. クリッカー	5	4	3	2	1
7. グループ学習室	5	4	3	2	1
8. デジタル教科書	5	4	3	2	1
9. その他（具体的に記載：　　　）	5	4	3	2	1

地歴･公民科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる先生を１人思い浮かべてください。
本ページ以降の質問は、その先生にこの調査票を渡し、ご回答をお願いしてください。

あなたが、昨年度（2015 年度）から現在までに実施した参加型学習を取り入れた授業の中で、最も「うまくいった」と思われる「単元」を１つ思い浮かべてください。

本調査における「単元」とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」を指します。
例えば、「幕藩体制の確立（織豊政権）」など。

12 その単元はどの科目で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 世界史Ａ・Ｂ
2. 日本史Ａ・Ｂ
3. 地理Ａ・Ｂ
4. 現代社会
5. 倫理
6. 政治経済
7. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

13 その単元はどの学年で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 高校１年生
2. 高校２年生
3. 高校３年生

14 その単元での学習活動についてお聞きします。

(1) その単元では、どのような種類の参加型学習を実施しましたか。あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	実施の主体			実施しなかった
	生徒3名以上のグループ	生徒2名	生徒個人	
1. 生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	4	3	2	1
2. 生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	4	3	2	1
3. データを整理・分析する活動	4	3	2	1
4. 生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	4	3	2	1
5. 生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	4	3	2	1
6. 生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	4	3	2	1
7. 生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	4	3	2	1
8. 生徒が学校外の施設を見学する活動	4	3	2	1
9. 生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	4	3	2	1
10. 生徒同士が討論する活動（ディベート）	4	3	2	1
11. 生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4	3	2	1
12. 生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4	3	2	1
13. 生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	4	3	2	1
14. 生徒が学習について評価・採点する活動	4	3	2	1
15. 生徒が学習について客観的にふりかえる活動	4	3	2	1
16. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）	4	3	2	1

(2) その単元ではどのようなテーマ、流れで参加型学習を実施したのかを具体的に記入してください。
例）太閤検地と刀狩が社会に与えた影響について、グループごとに図書館で調べ学習をさせた。その後、グループごとにレポートを作成させて、クラスで発表をさせた。調べ学習とレポート作成を3回の授業で実施した。

(3) 授業で生徒がふりかえる活動を実施している方（(1)の 15 で 2〜4 に○をつけた方）にお聞きします。あなたは生徒のふりかえりのためにどのような工夫をしていますか。具体的にご記入ください。

(4) その単元で実施した複数回の授業の中では、参加型学習を取り入れた授業をどのようなタイミングで実施しましたか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。
1. その単元での毎回の授業
2. その単元のはじめの頃の授業
3. その単元の中頃の授業
4. その単元のおわりの頃の授業

(5) その単元を実施した科目では、年間を通してどれくらいの頻度で参加型学習を実施しましたか。（2016 年 4 月以降に実施した事例の場合は、どれくらいの頻度で実施する予定ですか。）もっとも近いものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。
1. 毎回の授業
2. 学期に複数回
3. 学期に 1 回
4. 年に 1〜2 回

15 その単元で実施した参加型学習で使用した教材は何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。
1. 教科書（本文）
2. 教科書（本文以外）
3. 副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材：ワークブック、ドリル、資料集など）
4. 大学入試対策の問題集・大学入試の過去問
5. 教員が独自に作成したプリント
6. 資料（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
7. その他（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

16 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような学力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合						
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	5	4	3	2	1	0
2. 各教科で身につけた知識・技能を活用する力	5	4	3	2	1	0
3. 教科を越えた知識や理解の統合	5	4	3	2	1	0
4. 教科内容に対する知的好奇心	5	4	3	2	1	0
5. 物事を多面的に見る力	5	4	3	2	1	0
言語を活用する力						
6. 文章などを正確に読み解く力	5	4	3	2	1	0
7. 自分の考えを言語で表現する力	5	4	3	2	1	0
探究する力						
8. 課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	5	4	3	2	1	0
9. 自分で情報を収集し、分析し、整理する力	5	4	3	2	1	0
10. 課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	5	4	3	2	1	0
11. これまでにない発想をしようとする創造性	5	4	3	2	1	0
12. 物事の道理や因果関係を理解する力	5	4	3	2	1	0
13. 自分の考えを深める思考力	5	4	3	2	1	0
対人関係を築き、協働する力						
14. 主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	5	4	3	2	1	0
15. 他者と協力するための社会性や協調性	5	4	3	2	1	0
16. 勤労観や職業観	5	4	3	2	1	0
17. 社会の一員としての市民性意識	5	4	3	2	1	0
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	5	4	3	2	1	0
自ら学びを切り開く力						
19. 何事にも積極的に取り組む意欲	5	4	3	2	1	0
20. 他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5	4	3	2	1	0
21. 社会変化に対応できる柔軟性	5	4	3	2	1	0
22. 自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5	4	3	2	1	0
卒業後の進路に役立つ力						
23. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	5	4	3	2	1	0
24. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	5	4	3	2	1	0
25. 就職で必要となる力	5	4	3	2	1	0

17 質問 16 で答えた効果を判断する際に、その判断材料としたものは何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけください。

1. 生徒の学習態度
2. 生徒の発言内容（発表内容）
3. 提出物（作文やレポートなど）
4. 授業内のチェックテスト（確認テスト・小テストなど）
5. 学校独自のテスト（定期テスト、実力テストなど）
6. 予備校などが主催する模擬試験
7. 生徒同士の相互評価
8. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 及び 日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に 8 月 31 日までにお渡しください。

調査票
数学科主任用

高等学校における参加型学習に関する実態調査
2016

東京大学　大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）

数学科

8 月 31 日 (水) までに
とりまとめご担当の先生に
提出してください

※　すべての調査票をまとめて、９月５日(月) までに発送していただきますよう、
　　とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

[問い合わせ先]
◯調査票の発送・回収に関するお問い合わせ
　日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）　担当　石鍋、近藤、赤塚、高井
　電話番号　03-6811-5569
　受付時間　10:00～18:00（土日祝を除く）
◯質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ　※下記の電話番号は９月５日まで有効
　東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門　担当　木村、山辺、中原
　電話番号　070-6936-0724
　受付時間　10:00～17:00（土日祝、夏季休業〔8/12-18〕を除く）

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンターと連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。昨年に続き、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 昨年と今年で参加型学習に関する取り組みに変化はあったか

② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<http://manabilab.jp>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

【調査結果の取り扱い】

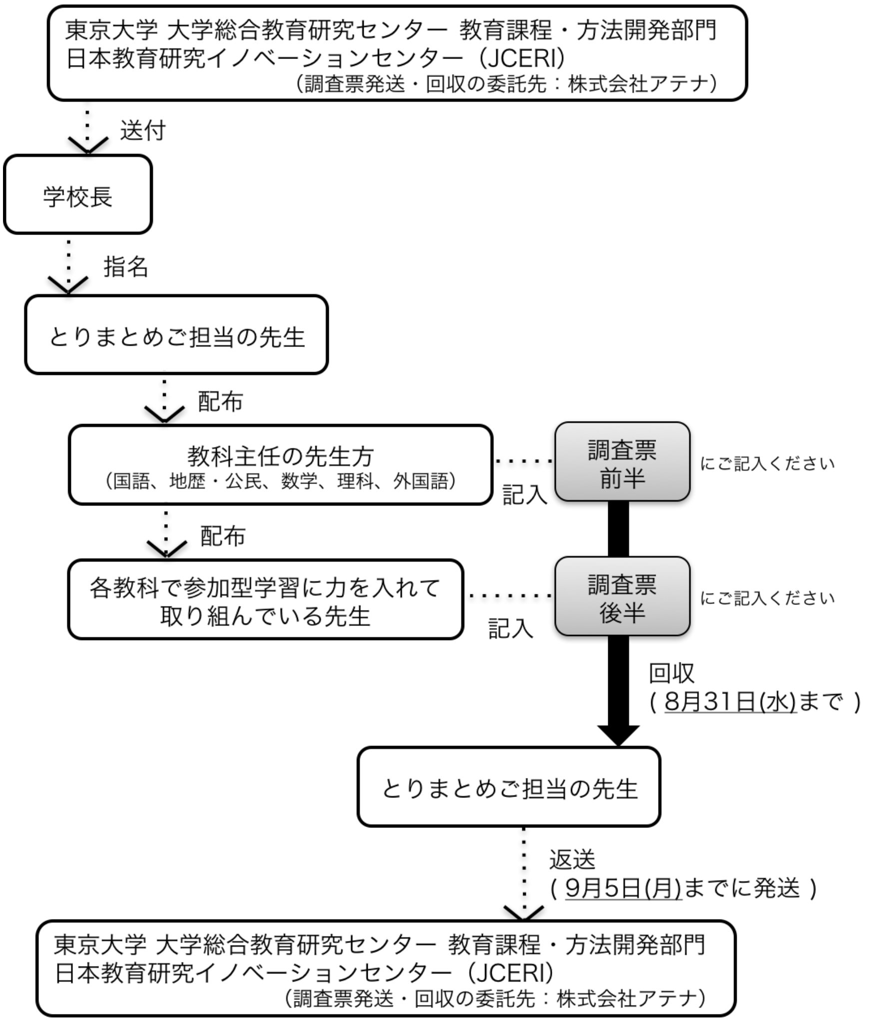
回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンターが有しています。調査票を利用しての独自の調査および研究はお控えください。

・調査票は指定した宛先のみに返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



ここでは、数学科の教科全体での取り組みについて、教科を代表される立場として、教科主任の先生にお尋ねします。

[1] あなたが貴校の数学科の教科主任に着任された時期について、あてはまる数字を 1 つ選んで数字に○をつけてください。
1. 2016 年３月以前に着任した
2. 2016 年４月以降に着任した

この調査は、指定した期間の参加型学習への取り組みの変化についてお尋ねするものです。

以降の質問について [1] の質問で
「1.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2015 年９月～2016 年８月（昨年度の調査回答時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。
「2.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2016 年４月～2016 年８月（着任時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。

まず、貴校での参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。
具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち１回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング　など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文　など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習　など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。
※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。
ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

[2] 数学科での現在の参加型学習への取り組みについてお聞きします。
(1) 数学科での現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。
1. 数学科では参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない
→ [3] [4] に回答し、回答を終了してください。
2. 教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる
→ [3] [4] に回答し、p11 にお進みください。
3. 教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる
→ [2]-(2) [3] [4] に回答し、p5 にお進みください。

(2) (1)で３と回答された方は、数学科での教科としての現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている
2. 教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
3. 参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている

３ 数学科での参加型学習の導入率についてお聞きします。数学科で行われているすべての授業のうち参加型学習を取り入れた授業をどの程度の割合で実施しているか（実施する予定でいるか）、科目別・学年別に、右側の空欄に最もあてはまる記号を記入してください。

a. 0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）
b. およそ10%未満の授業で取り入れている
c. およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている
d. およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている
e. およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている
f. およそ75%以上の授業で取り入れている
ー. 授業が設置されていない

科目名	A １年	B ２年	C ３年
例) 数学Ⅰ	e	ー	ー
1. 数学Ⅰ			
2. 数学Ⅱ			
3. 数学Ⅲ			
4. 数学A			
5. 数学B			
6. 数学活用			
7. (　　　　　　　　　)			

記入例）
１年生の「数学Ⅰ」の授業がすべてで２つあり、そのうち１つの授業で参加型学習が実施されているなら、１年の列に「e」を記入する。

４ 数学科での今後の参加型学習への取り組み方について、最もあてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

◆ ２-(1) で１と回答された方は、ここで回答を終了してください。

◆ ２-(1) で２と回答された方は、p11へお進みください。

◆ ２-(1) で３と回答された方は、p5 へお進みください。

5 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任としてどのようなことに取り組んできましたか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	5	4	3	2	1
2. 参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	5	4	3	2	1
3. 各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	5	4	3	2	1
4. 各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	5	4	3	2	1
5. 教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	5	4	3	2	1
6. 校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	5	4	3	2	1
7. 各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	5	4	3	2	1
8. 生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	5	4	3	2	1
9. 参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	5	4	3	2	1
10. 教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	5	4	3	2	1
11. 他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	5	4	3	2	1
12. 自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	5	4	3	2	1
13. 教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	5	4	3	2	1
14. 教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	5	4	3	2	1
15. 校内研修の企画運営に積極的に携わっている	5	4	3	2	1
16. 参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	5	4	3	2	1
17. 校長・教頭との意思の疎通を図っている	5	4	3	2	1
18. 他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	5	4	3	2	1
19. 教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	5	4	3	2	1
20. 管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	5	4	3	2	1
21. 教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	5	4	3	2	1
22. 教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	5	4	3	2	1

23. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが参加型学習の推進に向けて教科主任として取り組んでいることがありましたら、ご自由にお書きください。

6 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことは何ですか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	5	4	3	2	1
2. 複数教員による授業を実施できるようお願いした	5	4	3	2	1
3. 他の事務的作業を軽減するようお願いした	5	4	3	2	1
4. 校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	5	4	3	2	1
5. 関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
6. 指導方法に関するビデオや DVD などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
7. 同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
8. 同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
9. 学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	5	4	3	2	1
10. 意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	5	4	3	2	1
11. 学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	5	4	3	2	1
学校外との連携					
12. 校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	5	4	3	2	1
13. 他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
14. 大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	5	4	3	2	1
15. PTA や自治体との意思疎通を図るようお願いした	5	4	3	2	1
学校外からのサポート					
16. 補助金や助成金を獲得するようお願いした	5	4	3	2	1

17. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことがありましたら、ご自由にお書きください。

7 参加型学習の効果について、この期間の変化をお聞きします。数学科において、参加型学習を取り入れた授業の実施により、この期間で変化を実感した参加型学習の効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
5. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
探究する力					
7. 生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1
8. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
9. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
10. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
12. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
13. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	5	4	3	2	1
14. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
15. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
16. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
17. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
19. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
20. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
21. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
22. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
23. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
24. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1

26. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで変化を実感した効果がありましたら、ご自由にお書きください。

8 参加型学習の悩みについて、この期間の変化をお聞きします。数学科において、参加型学習を実施することでこの期間で増えた、あるいは減った困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
4. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
7. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
8. 授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
9. 授業中の生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
10. 参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	5	4	3	2	1
11. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
12. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
13. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
15. 予算が足りない	5	4	3	2	1
16. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
17. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
18. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
19. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
20. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
21. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

22. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで新たに生じた困難や課題、不安がありましたら、ご自由にお書きください。

9 数学科における各教員の考え方や行動についてお聞きします。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	5	4	3	2	1
2. 各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	5	4	3	2	1
3. 各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	5	4	3	2	1
4. 各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	5	4	3	2	1
5. 各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	5	4	3	2	1
6. 教材研究のための時間が確保されている	5	4	3	2	1
7. 各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	5	4	3	2	1
8. 各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	5	4	3	2	1
9. 悩み事を同僚同士が相談し合っている	5	4	3	2	1
10. 教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	5	4	3	2	1

10 昨年度（2015年度）に開催された、教員対象の「アクティブ・ラーニング」に関する研修についてお聞きします。

(1) 数学科教員が1人でも参加した学校主催の「アクティブ・ラーニング」に関する校内研修の回数を教えて下さい。…………年に（　　　）回

(2) (1)で開催された「アクティブ・ラーニング」の校内研修では、どのようなテーマを取り上げましたか。具体的なテーマについてご自由にお書きください。

(3) 教育委員会や他の外部機関が主催している「アクティブ・ラーニング」の研修を、どのように利用されていますか。教科としてあてはまるものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 教科のほとんどの教員が校務として参加している。
2. 教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している。
3. 教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている。
4. 教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている。
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

11 貴校の学習環境の整備状況についてお聞きします。数学科において、参加型学習を進める上での教具・設備の導入・活用状況についてお答えください。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んで数字に○をつけてください。

	すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している	すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる	すでに導入しているが参加型学習には活用していない	今後、導入する予定	導入する予定はない
1. タブレット型コンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
2. インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
3. 実物投影機（書画カメラ）	5	4	3	2	1
4. プロジェクタ	5	4	3	2	1
5. 電子黒板	5	4	3	2	1
6. クリッカー	5	4	3	2	1
7. グループ学習室	5	4	3	2	1
8. デジタル教科書	5	4	3	2	1
9. その他（具体的に記載：　　　　　　　）	5	4	3	2	1

数学科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる先生を１人思い浮かべてください。
本ページ以降の質問は、その先生にこの調査票を渡し、ご回答をお願いしてください。

あなたが、昨年度（2015 年度）から現在までに実施した参加型学習を取り入れた授業の中で、最も「うまくいった」と思われる「単元」を１つ思い浮かべてください。

本調査における「単元」とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」を指します。
例えば、「二次方程式」など。

12 その単元はどの科目で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 数学Ⅰ
2. 数学Ⅱ
3. 数学Ⅲ
4. 数学Ａ
5. 数学Ｂ
6. 数学活用
7. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

13 その単元はどの学年で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 高校１年生
2. 高校２年生
3. 高校３年生

14 その単元で扱った分野・テーマは何ですか。 (1) あてはまる分野をすべて選んで数字に○をつけ、(2) その分野で扱ったテーマを下の欄に記入してください。

(1) 分野

数学Ⅰ	1. 数と式	2. 二次関数	3. 図形と計量
	4. データの分析	5. その他（　　　　　　　　　　）	
数学Ⅱ	6. いろいろな式	7. 図形と方程式	8. 指数関数・対数関数
	9. 三角関数	10. 微分・積分の考え	
	11. その他（　　　　　　　　　　）		
数学Ⅲ	12. 平面上の曲線と複素数平面	13. 極限	14. 微分法
	15. 積分法	16. その他（　　　　　　　　　　）	
数学Ａ	17. 場合の数と確率	18. 整数の性質	19. 図形の性質
	20. その他（　　　　　　　　　　）		
数学Ｂ	21. 数列	22. ベクトル	23. 確率分布と統計的な推測
	24. その他（　　　　　　　　　　）		
数学活用	25. 数や図形と人間の活動	26. 遊びの中の数学	27. 社会生活と数学
	28. 数学的な表現の工夫	29. データの分析	
	30. その他（　　　　　　　　　　）		
その他	31. （　　　　　　　　　　　　　　　　　　）		

(2) テーマ（自由記述）

15 その単元での参加型学習についてお聞きします。

(1) その単元では、どのような種類の参加型学習を実施しましたか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	実施の主体			実施しなかった
	生徒3名以上のグループ	生徒2名	生徒個人	
1. 生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	4	3	2	1
2. 生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	4	3	2	1
3. データを整理・分析する活動	4	3	2	1
4. 生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	4	3	2	1
5. 生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	4	3	2	1
6. 生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	4	3	2	1
7. 生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	4	3	2	1
8. 生徒が学校外の施設を見学する活動	4	3	2	1
9. 生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	4	3	2	1
10. 生徒同士が討論する活動（ディベート）	4	3	2	1
11. 生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4	3	2	1
12. 生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4	3	2	1
13. 生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	4	3	2	1
14. 生徒が学習について評価・採点する活動	4	3	2	1
15. 生徒が学習について客観的にふりかえる活動	4	3	2	1
16. その他（　　　　　　　　　　　　　）	4	3	2	1

(2) その単元ではどのようなテーマ、流れで参加型学習を実施したのかを具体的に記入してください。

例）プロジェクタで１５分ほど学習内容を説明する。その後、４人１組のグループでの教え合いをし、小テスト満点を目指して理解を深める。最後１０分で小テストを行い、グループで答え合わせをした上で、テストの平均点を発表して、グループごとに競いあわせる仕組みをつくっている。この流れを毎回くりかえしている。

(3) 授業で生徒がふりかえる活動を実施している方（(1)の 15 で 2～4 に○をつけた方）にお聞きします。あなたは生徒のふりかえりのためにどのような工夫をしていますか。具体的にご記入ください。

(4) その単元で実施した複数回の授業の中では、参加型学習を取り入れた授業をどのようなタイミングで実施しましたか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. その単元での毎回の授業
2. その単元のはじめの頃の授業
3. その単元の中頃の授業
4. その単元のおわりの頃の授業

(5) その単元を実施した科目では、年間を通してどれくらいの頻度で参加型学習を実施しましたか。（2016年4月以降に実施した単元の場合は、どれくらいの頻度で実施する予定ですか。）もっとも近いものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 毎回の授業
2. 学期に複数回
3. 学期に1回
4. 年に1〜2回

16 その単元で実施した参加型学習で使用した教材は何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科書（基本事項・例題）
2. 教科書（練習問題）
3. 教科書（巻末・章末・発展問題）
4. 副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材：ワークブック、ドリル、資料集など）
5. 大学入試対策の問題集・大学入試の過去問
6. 教員が独自に作成したプリント
7. 資料（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
8. その他（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

17 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような学力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合						
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	5	4	3	2	1	0
2. 各教科で身につけた知識・技能を活用する力	5	4	3	2	1	0
3. 教科を越えた知識や理解の統合	5	4	3	2	1	0
4. 教科内容に対する知的好奇心	5	4	3	2	1	0
5. 物事を多面的に見る力	5	4	3	2	1	0
言語を活用する力						
6. 文章などを正確に読み解く力	5	4	3	2	1	0
7. 自分の考えを言語で表現する力	5	4	3	2	1	0
探究する力						
8. 課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	5	4	3	2	1	0
9. 自分で情報を収集し、分析し、整理する力	5	4	3	2	1	0
10. 課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	5	4	3	2	1	0

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
11. これまでにない発想をしようとする創造性	5	4	3	2	1	0
12. 物事の道理や因果関係を理解する力	5	4	3	2	1	0
13. 自分の考えを深める思考力	5	4	3	2	1	0
対人関係を築き、協働する力						
14. 主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	5	4	3	2	1	0
15. 他者と協力するための社会性や協調性	5	4	3	2	1	0
16. 勤労観や職業観	5	4	3	2	1	0
17. 社会の一員としての市民性意識	5	4	3	2	1	0
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	5	4	3	2	1	0
自ら学びを切り開く力						
19. 何事にも積極的に取り組む意欲	5	4	3	2	1	0
20. 他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5	4	3	2	1	0
21. 社会変化に対応できる柔軟性	5	4	3	2	1	0
22. 自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5	4	3	2	1	0
卒業後の進路に役立つ力						
23. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	5	4	3	2	1	0
24. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	5	4	3	2	1	0
25. 就職で必要となる力	5	4	3	2	1	0

18 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような教科の力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
1. 知識・技能（基本事項・計算）の習得	5	4	3	2	1	0
2. 情報収集・選別力 （問題文・図形・数学的表現から情報を読みとる力）	5	4	3	2	1	0
3. 目標を見極める力・判断力 （何が要求されているのか捉える力・構造理解する力）	5	4	3	2	1	0
4. 解答方針を定める力 （解法へのプランニング、次の一手の判断をする力）	5	4	3	2	1	0
5. 解答方針を実行する力 （方針の妥当性の評価、必要に応じた軌道修正、得られた結果の発展）	5	4	3	2	1	0
6. プレゼンテーション力 （自分の考えを適切な言葉で表現できる力）	5	4	3	2	1	0

19 質問 17 18 で答えた効果を判断する際に、その判断材料としたものは何ですか。あてはまるものを<u>すべて</u>選んで数字に○をつけてください。

1. 生徒の学習態度
2. 生徒の発言内容（発表内容）
3. 提出物（作文やレポートなど）
4. 授業内のチェックテスト（確認テストや小テストなど）
5. 学校独自のテスト（定期テストや実力テストなど）
6. 予備校などが主催する模擬試験
7. 生徒同士の相互評価
8. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

<u>以上で質問は終わりです</u>

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 及び 日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に <u>8 月 31 日</u>までにお渡しください。

調査票
理科主任用

高等学校における参加型学習に関する実態調査 2016

東京大学　大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）

8 月 31 日 (水) までに とりまとめご担当の先生に 提出してください

理科

※　すべての調査票をまとめて、９月５日(月) までに発送していただきますよう、
とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

［問い合わせ先］
◯調査票の発送・回収に関するお問い合わせ
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）　担当　石鍋、近藤、赤塚、高井
電話番号　03-6811-5569
受付時間　10:00～18:00（土日祝を除く）
◯質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ　※下記の電話番号は９月５日まで有効
東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門　担当　木村、山辺、中原
電話番号　070-6936-0724
受付時間　10:00～17:00（土日祝、夏季休業〔8/12-18〕を除く）

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンターと連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。昨年に続き、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 昨年と今年で参加型学習に関する取り組みに変化はあったか

② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<http://manabilab.jp>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

【調査結果の取り扱い】

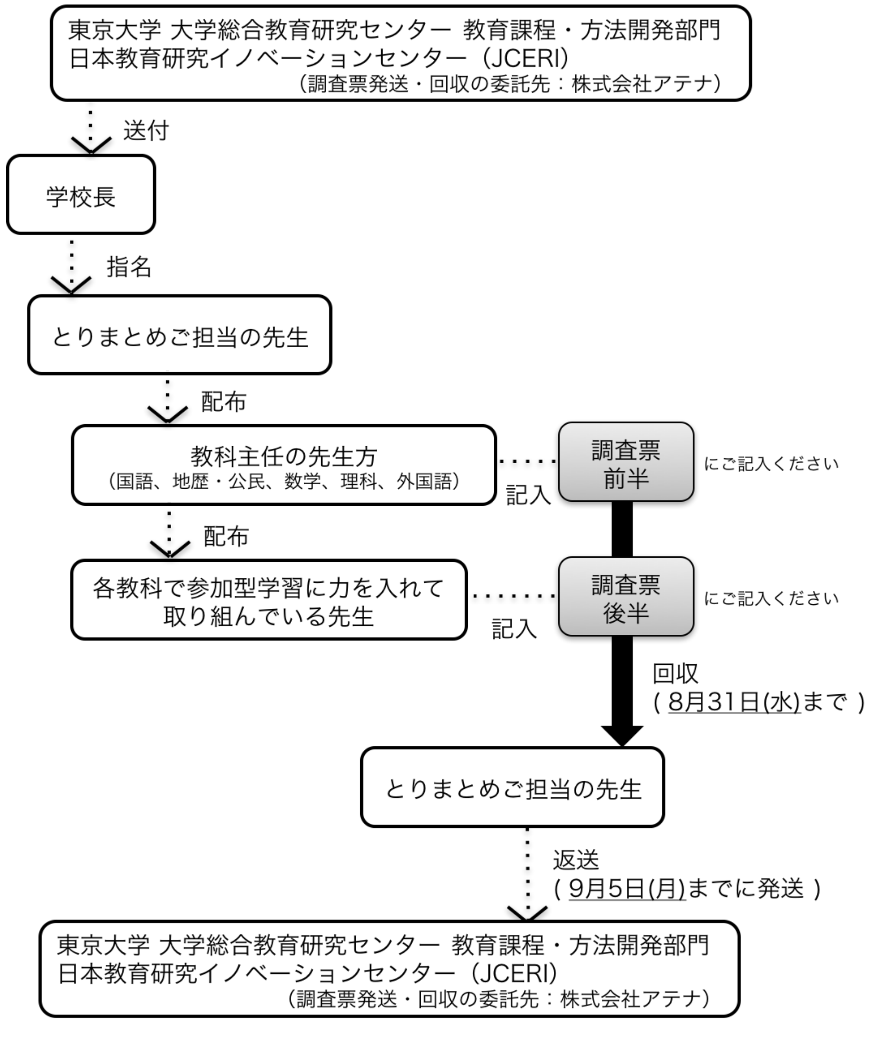
回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンターが有しています。調査票を利用しての独自の調査および研究はお控えください。

・調査票は指定した宛先のみに返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



ここでは、理科の教科全体での取り組みについて、教科を代表される立場として、教科主任の先生にお尋ねします。

[1] あなたが貴校の理科の教科主任に着任された時期について、あてはまる数字を 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 2016 年３月以前に着任した
2. 2016 年４月以降に着任した

この調査は、指定した期間の参加型学習への取り組みの変化についてお尋ねするものです。

以降の質問について [1] の質問で
「1.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2015 年９月～2016 年８月（昨年度の調査回答時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。
「2.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2016 年４月～2016 年８月（着任時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。

まず、貴校での参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち１回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション)、 プレゼンテーション、ブレインストーミング　など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション)、 自己による学習評価、作文　など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習　など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。
※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。
ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

[2] 理科での現在の参加型学習への取り組みについてお聞きします。

(1) 理科での現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 理科では参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない
   → [3] [4] に回答し、回答を終了してください。
2. 教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる
   → [3] [4] に回答し、p11 にお進みください。
3. 教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる
   → [2]-(2) [3] [4] に回答し、p5 にお進みください。

(2) (1)で３と回答された方は、理科での教科としての現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている
2. 教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
3. 参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている

３ 理科での参加型学習の導入率についてお聞きします。理科で行われているすべての授業のうち参加型学習を取り入れた授業をどの程度の割合で実施しているか（実施する予定でいるか)、科目別・学年別に、右側の空欄に最もあてはまる記号を記入してください。

a. 0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）
b. およそ10%未満の授業で取り入れている
c. およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている
d. およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている
e. およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている
f. およそ75%以上の授業で取り入れている
ー. 授業が設置されていない

科目名	A １年	B ２年	C ３年
例) 物理基礎	ー	e	ー
1. 科学と人間生活			
2. 物理基礎			
3. 物理			
4. 化学基礎			
5. 化学			
6. 生物基礎			
7. 生物			
8. 地学基礎			
9. 地学			
10. 理科課題研究			
11. (　　　　　　　)			

例)
２年生の「物理基礎」の授業がすべてで２つあり、そのうち１つの授業で参加型学習が実施されているなら、2年の列に「e」を記入する。

４ 理科での今後の参加型学習への取り組み方について、最もあてはまるものを １つ選んで数字に○をつけてください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

◆ ２-(1) で１と回答された方は、ここで回答を終了してください。

◆ ２-(1) で２と回答された方は、p11へお進みください。

◆ ２-(1) で３と回答された方は、p5 へお進みください。

5 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任としてどのようなことに取り組んできましたか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	5	4	3	2	1
2. 参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	5	4	3	2	1
3. 各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	5	4	3	2	1
4. 各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	5	4	3	2	1
5. 教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	5	4	3	2	1
6. 校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	5	4	3	2	1
7. 各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	5	4	3	2	1
8. 生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	5	4	3	2	1
9. 参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	5	4	3	2	1
10. 教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	5	4	3	2	1
11. 他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	5	4	3	2	1
12. 自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	5	4	3	2	1
13. 教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	5	4	3	2	1
14. 教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	5	4	3	2	1
15. 校内研修の企画運営に積極的に携わっている	5	4	3	2	1
16. 参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	5	4	3	2	1
17. 校長・教頭との意思の疎通を図っている	5	4	3	2	1
18. 他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	5	4	3	2	1
19. 教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	5	4	3	2	1
20. 管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	5	4	3	2	1
21. 教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	5	4	3	2	1
22. 教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	5	4	3	2	1

23. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが参加型学習の推進に向けて教科主任として取り組んでいることがありましたら、ご自由にお書きください。

6 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことは何ですか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	5	4	3	2	1
2. 複数教員による授業を実施できるようお願いした	5	4	3	2	1
3. 他の事務的作業を軽減するようお願いした	5	4	3	2	1
4. 校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	5	4	3	2	1
5. 関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
6. 指導方法に関するビデオやDVDなどを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
7. 同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
8. 同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
9. 学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	5	4	3	2	1
10. 意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	5	4	3	2	1
11. 学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	5	4	3	2	1
学校外との連携					
12. 校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	5	4	3	2	1
13. 他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
14. 大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	5	4	3	2	1
15. PTAや自治体との意思疎通を図るようお願いした	5	4	3	2	1
学校外からのサポート					
16. 補助金や助成金を獲得するようお願いした	5	4	3	2	1

17. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことがありましたら、ご自由にお書きください。

7 参加型学習の効果について、この期間の変化をお聞きします。理科において、参加型学習を取り入れた授業の実施により、この期間で変化を実感した参加型学習の効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
5. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
探究する力					
7. 生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1
8. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
9. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
10. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
12. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
13. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	5	4	3	2	1
14. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
15. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
16. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
17. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
19. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
20. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
21. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
22. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
23. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
24. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1

26. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで変化を実感した効果がありましたら、ご自由にお書きください。

8 参加型学習の悩みについて、この期間の変化をお聞きします。理科において、参加型学習を実施することでこの期間で増えた、あるいは減った困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
4. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
7. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
8. 授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
9. 授業中の生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
10. 参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	5	4	3	2	1
11. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
12. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
13. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
15. 予算が足りない	5	4	3	2	1
16. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
17. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
18. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
19. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
20. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
21. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

22. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで新たに生じた困難や課題、不安がありましたら、ご自由にお書きください。

9 理科における各教員の考え方や行動についてお聞きします。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	5	4	3	2	1
2. 各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	5	4	3	2	1
3. 各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	5	4	3	2	1
4. 各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	5	4	3	2	1
5. 各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	5	4	3	2	1
6. 教材研究のための時間が確保されている	5	4	3	2	1
7. 各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	5	4	3	2	1
8. 各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	5	4	3	2	1
9. 悩み事を同僚同士が相談し合っている	5	4	3	2	1
10. 教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	5	4	3	2	1

10 昨年度（2015年度）に開催された、教員対象の「アクティブ・ラーニング」に関する研修についてお聞きします。

(1) 理科教員が1人でも参加した学校主催の「アクティブ・ラーニング」に関する校内研修の回数を教えて下さい。……………………………………………… 年に（　　　）回

(2) (1)で開催された「アクティブ・ラーニング」の校内研修では、どのようなテーマを取り上げましたか。具体的なテーマについてご自由にお書きください。

(3) 教育委員会や他の外部機関が主催している「アクティブ・ラーニング」の研修を、どのように利用されていますか。教科としてあてはまるものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 教科のほとんどの教員が校務として参加している。
2. 教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している。
3. 教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている。
4. 教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている。
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

11 貴校の学習環境の整備状況についてお聞きします。理科において、参加型学習を進める上での教具・設備の導入・活用状況についてお答えください。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んで数字に○をつけてください。

	すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している	すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる	すでに導入しているが参加型学習には活用していない	今後、導入する予定	導入する予定はない
1. タブレット型コンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
2. インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
3. 実物投影機（書画カメラ）	5	4	3	2	1
4. プロジェクタ	5	4	3	2	1
5. 電子黒板	5	4	3	2	1
6. クリッカー	5	4	3	2	1
7. グループ学習室	5	4	3	2	1
8. デジタル教科書	5	4	3	2	1
9. その他（具体的に記載： ）	5	4	3	2	1

理科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる先生を１人思い浮かべてください。
本ページ以降の質問は、その先生にこの調査票を渡し、ご回答をお願いしてください。

あなたが、昨年度（2015 年度）から現在までに実施した参加型学習を取り入れた授業の中で、最も「うまくいった」と思われる「単元」を１つ思い浮かべてください。

本調査における「単元」とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」を指します。
例えば、「物理 力と運動」など。

12 その単元はどの科目で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 科学と人間生活
2. 物理基礎
3. 物理
4. 化学基礎
5. 化学
6. 生物基礎
7. 生物
8. 地学基礎
9. 地学
10. 理科課題研究
11. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

13 その単元はどの学年で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 高校１年生
2. 高校２年生
3. 高校３年生

14 その単元で扱った分野・テーマは何ですか。 (1) あてはまる分野をすべて選んで数字に○をつけ、(2) その分野で扱ったテーマを下の欄に記入してください。

(1) 分野

科学と人間生活	1. 科学技術の発展	2. 光や熱の科学	3. 物質の科学
	4. 生命の科学	5. 宇宙や地球の科学	6. これからの科学と人間生活
	7. その他（　　　　　　　　　）		
物理基礎	8. 力学	9. 熱	10. 波
	11. 電気	12. エネルギーとその利用	
	13. その他（　　　　　　　　　）		
物理	14. 力学	15. 熱	16. 波動
	17. 電磁気	18. 原子	
	19. その他（　　　　　　　　　）		
化学基礎	20. 化学と人間生活	21. 物質の構成	22. 物質の変化
	23. その他（　　　　　　　　　）		
化学	24. 物質の状態	25. 物質の変化と平衡	26. 無機物質
	27. 有機化合物	28. 天然有機化合物	29. 合成高分子化合物
	30. その他（　　　　　　　　　）		
生物基礎	31. 生物と遺伝子	32. 生物の体内環境の維持	33. 生物の多様性と生態系
	34. その他（　　　　　　　　　）		

生物	35. 生命現象と物質	36. 生殖と発生	37. 生物の環境応答
	38. 生態と環境	39. 進化と系統	
	40. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）		
地学基礎	41. 惑星としての地球	42. 活動する地球	43. 移り変わる地球
	44. 大気と海洋	45. 宇宙の構成	
	46. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）		
地学	47. 地球の概観	48. 地球の活動	49. 地球の歴史
	50. 大気と海洋	51. 宇宙の構造	
	52. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）		
理科課題研究	53. 特定の自然の事物・現象に関する研究	54. 先端科学や学際的領域に関する研究	55. 自然環境の調査に基づく研究
	56. 科学を発展させた実験に関する研究	57. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）	
その他	58.（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）		

(2) テーマ（自由記述）

15 その単元での参加型学習についてお聞きします。

(1) その単元では、どのような種類の参加型学習を実施しましたか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	実施の主体			実施しなかった
	生徒3名以上のグループ	生徒2名	生徒個人	
1. 生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	4	3	2	1
2. 生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	4	3	2	1
3. データを整理・分析する活動	4	3	2	1
4. 生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	4	3	2	1
5. 生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	4	3	2	1
6. 生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	4	3	2	1
7. 生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	4	3	2	1
8. 生徒が学校外の施設を見学する活動	4	3	2	1
9. 生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	4	3	2	1
10. 生徒同士が討論する活動（ディベート）	4	3	2	1
11. 生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4	3	2	1
12. 生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4	3	2	1
13. 生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	4	3	2	1
14. 生徒が学習について評価・採点する活動	4	3	2	1
15. 生徒が学習について客観的にふりかえる活動	4	3	2	1
16. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）	4	3	2	1

(2) その単元ではどのようなテーマ、流れで参加型学習を実施したのかを具体的に記入してください。

例）運動量保存の法則で、物理現象をイメージさせるために、グループごとに実験をさせた。その上で、演習問題に個人で取り組み、グループで答え合わせをさせ、答えが分かれる箇所ではディスカッションを実施した。これを２回の授業に分けて実施した。

(3) 授業で生徒がふりかえる活動を実施している方（(1)の 15 で 2〜4 に○をつけた方）にお聞きします。あなたは生徒のふりかえりのためにどのような工夫をしていますか。具体的にご記入ください。

(4) その単元で実施した複数回の授業の中では、参加型学習を取り入れた授業をどのようなタイミングで実施しましたか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. その単元での毎回の授業
2. その単元のはじめの頃の授業
3. その単元の中頃の授業
4. その単元のおわりの頃の授業

(5) その単元を実施した科目では、年間を通してどれくらいの頻度で参加型学習を実施しましたか。（2016 年４月以降に実施した事例の場合は、どれくらいの頻度で実施する予定ですか。）もっとも近いものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 毎回の授業
2. 学期に複数回
3. 学期に１回
4. 年に 1〜2 回

16 その単元で実施した参加型学習で使用した教材は何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科書（基本事項・例題）
2. 教科書（発展問題）
3. 教科書（観察・実験、探究活動）
4. 副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材：ワークブック、ドリル、資料集など）
5. 大学入試対策の問題集・大学入試の過去問
6. 教員が独自に作成したプリント
7. 資料（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
8. その他（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

17 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような学力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合						
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	5	4	3	2	1	0
2. 各教科で身につけた知識・技能を活用する力	5	4	3	2	1	0
3. 教科を越えた知識や理解の統合	5	4	3	2	1	0
4. 教科内容に対する知的好奇心	5	4	3	2	1	0
5. 物事を多面的に見る力	5	4	3	2	1	0
言語を活用する力						
6. 文章などを正確に読み解く力	5	4	3	2	1	0
7. 自分の考えを言語で表現する力	5	4	3	2	1	0
探究する力						
8. 課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	5	4	3	2	1	0
9. 自分で情報を収集し、分析し、整理する力	5	4	3	2	1	0
10. 課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	5	4	3	2	1	0
11. これまでにない発想をしようとする創造性	5	4	3	2	1	0
12. 物事の道理や因果関係を理解する力	5	4	3	2	1	0
13. 自分の考えを深める思考力	5	4	3	2	1	0
対人関係を築き、協働する力						
14. 主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	5	4	3	2	1	0
15. 他者と協力するための社会性や協調性	5	4	3	2	1	0
16. 勤労観や職業観	5	4	3	2	1	0
17. 社会の一員としての市民性意識	5	4	3	2	1	0
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	5	4	3	2	1	0
自ら学びを切り開く力						
19. 何事にも積極的に取り組む意欲	5	4	3	2	1	0
20. 他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5	4	3	2	1	0
21. 社会変化に対応できる柔軟性	5	4	3	2	1	0
22. 自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5	4	3	2	1	0
卒業後の進路に役立つ力						
23. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	5	4	3	2	1	0
24. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	5	4	3	2	1	0
25. 就職で必要となる力	5	4	3	2	1	0

18 質問 17 で答えた効果を判断する際に、その判断材料としたものは何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 生徒の学習態度
2. 生徒の発言内容（発表内容）
3. 提出物（作文やレポートなど）
4. 授業内のチェックテスト（確認テストや小テストなど）
5. 学校独自のテスト（定期テストや実力テストなど）
6. 予備校などが主催する模擬試験
7. 生徒同士の相互評価
8. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 及び 日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に 8 月 31 日までにお渡しください。

調査票
外国語科主任用

高等学校における参加型学習に関する実態調査
2016

東京大学　大学総合教育研究センター
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）

8月31日(水)までに
とりまとめご担当の先生に
提出してください

※　すべての調査票をまとめて、９月５日(月) までに発送していただきますよう、
とりまとめご担当の先生にお願い申し上げます。

[問い合わせ先]
◯調査票の発送・回収に関するお問い合わせ
日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）担当　石鍋、近藤、赤塚、高井
電話番号　03-6811-5569
受付時間　10:00～18:00（土日祝を除く）
◯質問内容、その他調査全般に関するお問い合わせ
東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門　担当　木村、山辺、中原
電話番号　070-6936-0724
受付時間　10:00～17:00（土日祝、夏季休業〔8/12-18〕を除く）

外国語科

【調査の概要】

東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門では、日本教育研究イノベーションセンターと連携し、学習者の能動的な学びへの参加を促す学習（参加型学習）の実態に関する調査を実施しました。昨年に続き、以下の点を明らかにするための質問をさせていただきます。

① 昨年と今年で参加型学習に関する取り組みに変化はあったか
② 参加型学習に取り組む学校や先生方は、どのような目的でどのような内容の授業を行っているか

本調査の分析結果は、特設ウェブサイト「未来を育てるマナビラボ」<http://manabilab.jp>にて、日本全国の教育関係者に無償公開し、共有させていただきます。同ウェブサイトにおいては参加型学習を展開するうえでの手助けとなるような実践的な工夫についての情報も収集・発信しております。授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

お忙しい中恐れ入りますが、本調査へのご協力をお願い申し上げます。

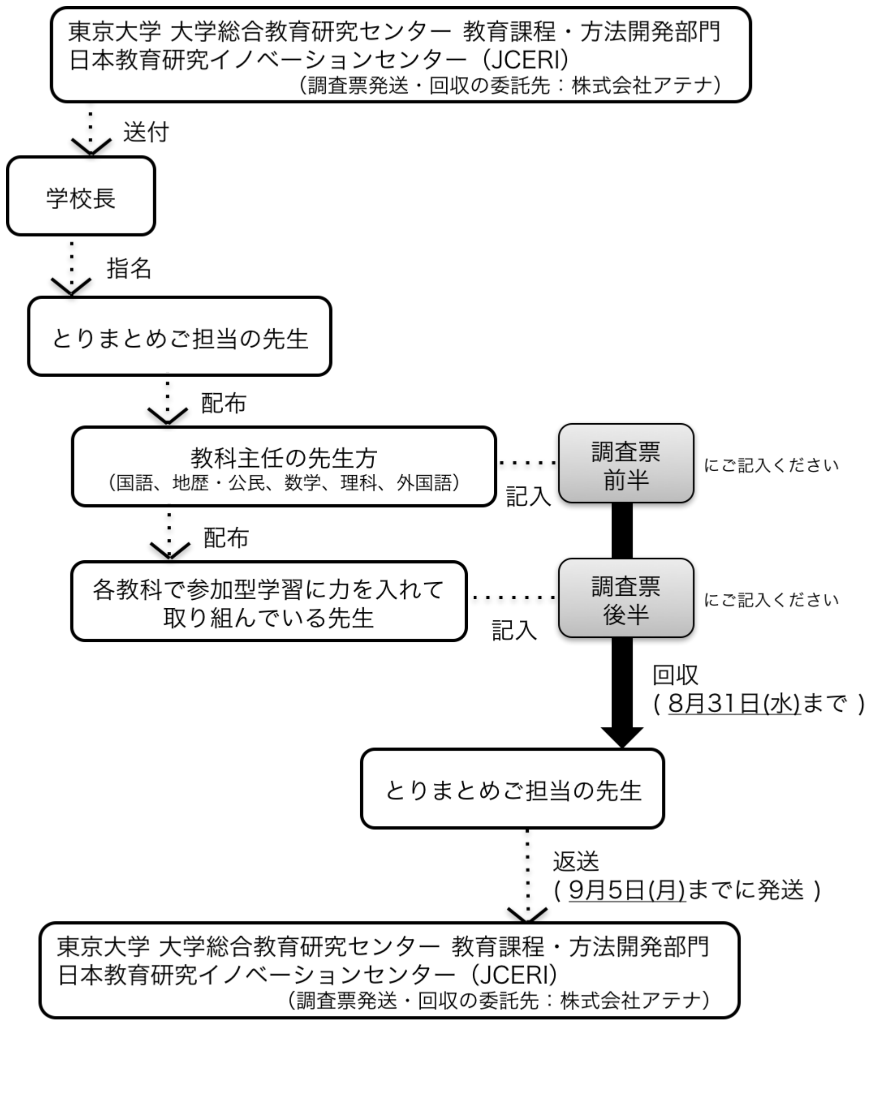
【調査結果の取り扱い】

回収された調査票は、厳重に保管します。また、回答された情報は、統計的に処理し、許可なく個人や学校が特定される形で公表されることはございません。

【注意とお願い】

・調査票の著作権は東京大学大学総合教育研究センター及び日本教育研究イノベーションセンターが有しています。調査票を利用しての独自の調査および研究はお控えください。
・調査票は指定した宛先のみに返送し、他の機関や個人に送ることはお控えください。

【調査の手順】



ここでは、外国語科の教科全体での取り組みについて、教科を代表される立場として、教科主任の先生にお尋ねします。

[1] あなたが貴校の外国語科の教科主任に着任された時期について、あてはまる数字を 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 2016 年３月以前に着任した
2. 2016 年４月以降に着任した

この調査は、指定した期間の参加型学習への取り組みの変化についてお尋ねするものです。

以降の質問について [1] の質問で
「1.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2015 年９月～2016 年８月（昨年度の調査回答時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。
「2.」を選んだ方は、「この期間」という指定に対して、2016 年４月～2016 年８月（着任時から現在まで）の実績・計画についてお答えください。

まず、貴校での参加型学習を取り入れた授業への取り組みについてお尋ねします。

本調査では、教員による一方向的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち１回でも実施した授業を調査の対象とします。

意見発表・交換型： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング　　など
理解深化型： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文　　など
課題解決型： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習　　など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。
※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。
ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

[2] 外国語科での現在の参加型学習への取り組みについてお聞きします。

(1) 外国語科での現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものを 1 つ選んで数字に○をつけてください。

1. 外国語科では参加型学習に取り組んでいる教員はまったくいない
   → [3] [4] に回答し、回答を終了してください。
2. 教科として組織的に取り組んでいるわけではないが、独自に参加型学習に取り組んでいる教員がいる
   → [3] [4] に回答し、p11 にお進みください。
3. 教科として組織的に参加型学習に取り組んでいる
   → [2]-(2) [3] [4] に回答し、p5 にお進みください。

(2) (1)で３と回答された方は、外国語科での教科としての現在の参加型学習への取り組みについて、あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科全体として参加型学習に関する目標を掲げている
2. 教科全体として参加型学習の推進に関する具体的な計画を策定している
3. 参加型学習の実施について、教科の会議などで積極的な呼びかけなどを行っている

３ 外国語科での参加型学習の導入率についてお聞きします。外国語科で行われているすべての授業のうち参加型学習を取り入れた授業をどの程度の割合で実施しているか（実施する予定でいるか)、科目別・学年別に、右側の空欄に最もあてはまる記号を記入してください。

a. 0%の授業で取り入れている（全く実施されていない）
b. およそ10%未満の授業で取り入れている
c. およそ10%以上25%未満の授業で取り入れている
d. およそ25%以上50%未満の授業で取り入れている
e. およそ50%以上75%未満の授業で取り入れている
f. およそ75%以上の授業で取り入れている
ー. 授業が設置されていない

科目名	A １年	B ２年	C ３年
例) コミュニケーション英語Ⅰ	e	ー	ー
1. コミュニケーション英語基礎			
2. コミュニケーション英語Ⅰ			
3. コミュニケーション英語Ⅱ			
4. コミュニケーション英語Ⅲ			
5. 英語表現Ⅰ			
6. 英語表現Ⅱ			
7. 英語会話			
8. (　　　　　　　　)			

記入例）
１年生の「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業がすべてで２つあり、そのうち１つの授業で参加型学習が実施されているなら、１年の列に「e」を記入する。

４ 外国語科での今後の参加型学習への取り組み方について、最もあてはまるものを １ つ選んで数字に○をつけてください。

1. 今後取り組む見込みはない
2. ここ数年間で取り組む予定はない
3. ここ数年間で取り組むことを検討している
4. ここ数年間で取り組む具体的な計画が進行中である
5. すでに取り組んでいるが、今後は縮小していく予定である
6. すでに取り組んでおり、今後も維持していく予定である
7. すでに取り組んでおり、今後はより充実させていく予定である

◆ ２-(1) で１と回答された方は、ここで回答を終了してください。

◆ ２-(1) で２と回答された方は、p11へお進みください。

◆ ２-(1) で３と回答された方は、p5 へお進みください。

5 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任としてどのようなことに取り組んできましたか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 教科の目標として、参加型学習の実施に関する数値目標を設定している	5	4	3	2	1
2. 参加型学習の実施に向けて、各教員の役割や責任を明確にしている	5	4	3	2	1
3. 各教員との日常の会話の中で、参加型学習への取り組みを意識化させている	5	4	3	2	1
4. 各教員が参加型学習のねらいを理解し、新しいことでも積極的に取り組めるように各教員に働きかけている	5	4	3	2	1
5. 教科内のチームワークがうまくいくように気を配っている	5	4	3	2	1
6. 校内巡視を定期的に行い、各教員や生徒の様子を観察し、その情報を教員にフィードバックしている	5	4	3	2	1
7. 各教員の指導計画に参加型学習が含まれているかを随時確認している	5	4	3	2	1
8. 生徒の学びと成長を評価する際に、学力検査だけでなく、参加型学習のねらいに適した評価を行うよう指導している	5	4	3	2	1
9. 参加型学習が円滑に行えるよう、施設や設備などの整備には気を配っている	5	4	3	2	1
10. 教科内の教員同士がお互いの授業実践を公開し合う機会を設けている	5	4	3	2	1
11. 他の教員の参加型学習の成功例をモデル・手本として知らせている	5	4	3	2	1
12. 自分の授業に参加型学習を積極的に取り入れることで、各教員にその姿勢を示している	5	4	3	2	1
13. 教科内で教材研究や単元開発の成果を共有する機会を設けている	5	4	3	2	1
14. 教員に対して、参加型学習に関する書籍や雑誌などに触れさせる機会を設けている	5	4	3	2	1
15. 校内研修の企画運営に積極的に携わっている	5	4	3	2	1
16. 参加型学習を実施している教員については、会議の機会等において称賛している	5	4	3	2	1
17. 校長・教頭との意思の疎通を図っている	5	4	3	2	1
18. 他教科の教員を巻き込めるように交渉能力を発揮している	5	4	3	2	1
19. 教科目標の設定に当たって各教員の意見に十分に耳を傾けている	5	4	3	2	1
20. 管理職層と教員との間に信頼感を育めるように努めている	5	4	3	2	1
21. 教員の意見や立場を管理職層に円滑に伝達している	5	4	3	2	1
22. 教育について各教員と建設的な議論をする機会をつくるようにしている	5	4	3	2	1

23. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが参加型学習の推進に向けて教科主任として取り組んでいることがありましたら、ご自由にお書きください。

6 この期間、参加型学習の推進に向けて、教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことは何ですか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 補助教員や実験助手などを配置できるようお願いした	5	4	3	2	1
2. 複数教員による授業を実施できるようお願いした	5	4	3	2	1
3. 他の事務的作業を軽減するようお願いした	5	4	3	2	1
4. 校内での研修会や勉強会で参加型学習を取り扱うようお願いした	5	4	3	2	1
5. 関連する書籍・雑誌などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
6. 指導方法に関するビデオや DVD などを購入、紹介するようお願いした	5	4	3	2	1
7. 同校の経験ある教員から助言が得られる仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
8. 同校の同僚・若手の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
9. 学校として参加型学習を推進する方針を打ち出すようお願いした	5	4	3	2	1
10. 意欲的な教育実践への取り組みを評価するようお願いした	5	4	3	2	1
11. 学校運営について、校長自身の考えを明確に示すようお願いした	5	4	3	2	1
学校外との連携					
12. 校外での研修会や勉強会への参加を奨励するようお願いした	5	4	3	2	1
13. 他校の教員との交流が促進されるような仕組みをつくるようお願いした	5	4	3	2	1
14. 大学の研究者や企業等と連携するようお願いした	5	4	3	2	1
15. PTA や自治体との意思疎通を図るようお願いした	5	4	3	2	1
学校外からのサポート					
16. 補助金や助成金を獲得するようお願いした	5	4	3	2	1

17. 上に挙げられた事項のほかに、この期間にあなたが教科主任として校長など管理職に働きかけてきたことがありましたら、ご自由にお書きください。

7 参加型学習の効果について、この期間の変化をお聞きします。外国語科において、参加型学習を取り入れた授業の実施により、この期間で変化を実感した参加型学習の効果はありますか。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合					
1. 生徒の教科における学業成績（学内定期考査など）が向上した	5	4	3	2	1
2. 生徒の進学実績が向上した	5	4	3	2	1

	変化を実感した	やや変化を実感した	どちらともいえない	あまり変化を実感していない	変化を実感していない
3. 生徒が教科で学んだことを生活の中で活かすことができるようになった	5	4	3	2	1
4. 生徒の教科を越えた知識や理解の統合が進んだ	5	4	3	2	1
言語を活用する力					
5. 生徒の文章などを正確に読み解く力が高まった	5	4	3	2	1
6. 生徒の自分の考えを言語で表現する力が高まった	5	4	3	2	1
探究する力					
7. 生徒が、身の回りの課題に気づき、自分がすべきことを判断できるようになった	5	4	3	2	1
8. 生徒が適切に情報を収集し、選択・活用できるようになった	5	4	3	2	1
9. 生徒が主体的に考え、動き、課題解決できるようになった	5	4	3	2	1
10. 生徒がこれまでにない発想をするようになった	5	4	3	2	1
11. 生徒が自分の考えを深められるようになった	5	4	3	2	1
対人関係を築き、協働する力					
12. 生徒に主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力が身についた	5	4	3	2	1
13. 普段は消極的な生徒が、授業の中で積極的に関われるようになった	5	4	3	2	1
14. 生徒の社会性や協調性が高まった	5	4	3	2	1
15. 生徒の職業や勤労に対する意識や理解が高まった	5	4	3	2	1
16. 社会の出来事などに対する生徒の問題意識が高まった	5	4	3	2	1
17. 地域社会との交流や相互理解が深まった	5	4	3	2	1
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組めるようになった	5	4	3	2	1
19. 生徒が他者と一緒に学ぶ楽しさを理解するようになった	5	4	3	2	1
20. 生徒と教員間のコミュニケーションが深まってきた	5	4	3	2	1
自ら学びを切り開く力					
21. 生徒の学習習慣（予復習）が身についた	5	4	3	2	1
22. 生徒が何事にも意欲的に取り組むようになった	5	4	3	2	1
23. 生徒が他者から言われなくても自分から主体的に学ぶようになった	5	4	3	2	1
24. 生徒が状況の変化に柔軟に対応できるようになった	5	4	3	2	1
25. 生徒の生き方についての自覚や将来の進路展望が深まった	5	4	3	2	1

26. 上に挙げられた事項のほかに、<u>この期間</u>に参加型学習を実施することで変化を実感した効果がありましたら、ご自由にお書きください。

8 参加型学習の悩みについて、この期間の変化をお聞きします。外国語科において、参加型学習を実施することでこの期間で増えた、あるいは減った困難や課題、不安はありますか。以下の項目について、あてはまるものを１つずつ選んで数字に○をつけてください。

	悩みが増えた	少し悩みが増えた	変わらない	少し悩みが減った	悩みが減った
教育効果や評価に関する困難や課題、不安					
1. 生徒の教科における学業成績（学内考査など）が低下する	5	4	3	2	1
2. 受験に必要な学力に結びつかない	5	4	3	2	1
3. 授業の進度が遅くなる	5	4	3	2	1
4. 各教員の授業の進度にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
5. 各教員の授業内容にばらつきが生じる	5	4	3	2	1
6. 生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい	5	4	3	2	1
7. 活動に目が向き、何のための活動なのかという目的を見失いがちである	5	4	3	2	1
授業中の生徒の学習態度に関する困難や課題、不安					
8. 授業中に授業内容に関係のない生徒の私語が増える	5	4	3	2	1
9. 授業中の生徒の集中力が低下する	5	4	3	2	1
10. 参加型学習になじめない生徒やついてこられない生徒がいる	5	4	3	2	1
11. 参加型学習をしても生徒の思考が活性化しない	5	4	3	2	1
教育資源に関する困難や課題、不安					
12. 授業中の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
13. 授業前後の教員の負担が増加する	5	4	3	2	1
14. 教員の授業スキルが不足している	5	4	3	2	1
15. 予算が足りない	5	4	3	2	1
16. 必要な施設・設備が足りない	5	4	3	2	1
17. 授業の時数が足りない	5	4	3	2	1
関係者の理解に関する困難や課題、不安					
18. 生徒の理解が得られない	5	4	3	2	1
19. 保護者の理解が得られない	5	4	3	2	1
20. 教員が参加型学習の必要性を感じていない	5	4	3	2	1
21. 教員間で参加型学習の是非に関する葛藤や対立がある	5	4	3	2	1

22. 上に挙げられた事項のほかに、この期間に参加型学習を実施することで新たに生じた困難や課題、不安がありましたら、ご自由にお書きください。

9 外国語科における各教員の考え方や行動についてお聞きします。以下の項目について、あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 各教員が研修に意欲的であり、自発的に自らの力量を高めようとしている	5	4	3	2	1
2. 各教員が教育の専門家としての強い使命感をもっている	5	4	3	2	1
3. 各教員が授業実践を公開し、お互いに建設的な意見を出し合っている	5	4	3	2	1
4. 各教員が安定志向ではなく、新しい実践を作り出すための挑戦や変化を好んでいる	5	4	3	2	1
5. 各教員が教育目標を理解し、目標達成に向けて努力している	5	4	3	2	1
6. 教材研究のための時間が確保されている	5	4	3	2	1
7. 各教員が授業実践の工夫を自由に試みることができる	5	4	3	2	1
8. 各教員の教育活動に対する管理職からの関与が少ない	5	4	3	2	1
9. 悩み事を同僚同士が相談し合っている	5	4	3	2	1
10. 教材研究や単元開発において、同僚同士が支援し合っている	5	4	3	2	1

10 昨年度（2015年度）に開催された、教員対象の「アクティブ・ラーニング」に関する研修についてお聞きします。

(1) 外国語科教員が1人でも参加した学校主催の「アクティブ・ラーニング」に関する校内研修の回数を教えて下さい。……………… 年に（　　　）回

(2) (1)で開催された「アクティブ・ラーニング」の校内研修では、どのようなテーマを取り上げましたか。具体的なテーマについてご自由にお書きください。

(3) 教育委員会や他の外部機関が主催している「アクティブ・ラーニング」の研修を、どのように利用されていますか。教科としてあてはまるものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 教科のほとんどの教員が校務として参加している。
2. 教科の一部の教員が校務として参加し、他の教員と情報共有している。
3. 教科として参加が奨励されているが、義務付けられておらず、教員個々の判断に任せている。
4. 教科として働きかけることはなく、教員個々の判断に任せている。
5. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

11 貴校の学習環境の整備状況についてお聞きします。外国語科において、参加型学習を進める上での教具・設備の導入・活用状況についてお答えください。以下の項目について、あてはまるものを 1 つずつ選んで数字に○をつけてください。

	すでに導入しており、教科全体の方針として参加型学習に活用している	すでに導入しており、参加型学習に活用している教員がいる	すでに導入しているが参加型学習には活用していない	今後、導入する予定	導入する予定はない
1. タブレット型コンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
2. インターネットに接続されたコンピュータ（生徒用）	5	4	3	2	1
3. 実物投影機（書画カメラ）	5	4	3	2	1
4. プロジェクタ	5	4	3	2	1
5. 電子黒板	5	4	3	2	1
6. クリッカー	5	4	3	2	1
7. グループ学習室	5	4	3	2	1
8. デジタル教科書	5	4	3	2	1
9. その他（具体的に記載： ）	5	4	3	2	1

外国語科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる先生を１人思い浮かべてください。
本ページ以降の質問は、その先生にこの調査票を渡し、ご回答をお願いしてください。

あなたが、昨年度（2015 年度）から現在までに実施した参加型学習を取り入れた授業の中で、最も「うまくいった」と思われる「単元」を１つ思い浮かべてください。

本調査における「単元」とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」を指します。
例えば、「Lesson6 THE GREAT JOURNEY」など。

12 その単元はどの科目で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. コミュニケーション英語基礎
2. コミュニケーション英語Ⅰ
3. コミュニケーション英語Ⅱ
4. コミュニケーション英語Ⅲ
5. 英語表現Ⅰ
6. 英語表現Ⅱ
7. 英語会話
8. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

13 その単元はどの学年で実施されたものですか。あてはまるものを１つ選んで数字に○をつけてください。

1. 高校１年生
2. 高校２年生
3. 高校３年生

14 その単元で扱った出典・分野は何ですか。(1) その単元で扱った出典を記入してください。（複数の出典を利用した場合は、主に活用したものを２つまで記入してください。）
(2) その出典を活用して参加型学習を実施した分野について、あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

(1) 出典（自由記述）

1.	
2.	

(2) 分野

1. 英文和訳	2. 文法・語法 (会話文・対話文以外)	3. 会話文・対話文
4. 英作文（自由英作文以外）	5. 自由英作文	6. ヒアリング
7. その他（　　　　　　　　　　　）		

15 その単元での参加型学習についてお聞きします。

(1) その単元では、どのような種類の参加型学習を実施しましたか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	実施の主体			実施しなかった
	生徒3名以上のグループ	生徒2名	生徒個人	
1. 生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	4	3	2	1
2. 生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	4	3	2	1
3. データを整理・分析する活動	4	3	2	1
4. 生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	4	3	2	1
5. 生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	4	3	2	1
6. 生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	4	3	2	1
7. 生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	4	3	2	1
8. 生徒が学校外の施設を見学する活動	4	3	2	1
9. 生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	4	3	2	1
10. 生徒同士が討論する活動（ディベート）	4	3	2	1
11. 生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	4	3	2	1
12. 生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	4	3	2	1
13. 生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	4	3	2	1
14. 生徒が学習について評価・採点する活動	4	3	2	1
15. 生徒が学習について客観的にふりかえる活動	4	3	2	1
16. その他（　　　　　　　　　　　　　　　）	4	3	2	1

(2) その単元ではどのようなテーマ、流れで参加型学習を実施したのかを具体的に記入してください。

例)「おすすめの旅」をテーマに、これまでに習った英語表現を使って、グループごとにパワーポイントでプレゼン原稿を作成させた上で、グループごとに発表をさせた。また、生徒から、プレゼン内容について英語で質問をさせて、それに対して回答をさせた。これらを3回の授業で実施した。

(3) 授業で生徒がふりかえる活動を実施している方（(1)の 15 で 2～4 に○をつけた方）にお聞きします。あなたは生徒のふりかえりのためにどのような工夫をしていますか。具体的にご記入ください。

(4) その単元で実施した複数回の授業の中では、参加型学習を取り入れた授業をどのようなタイミングで実施しましたか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. その単元での毎回の授業
2. その単元のはじめの頃の授業
3. その単元の中頃の授業
4. その単元のおわりの頃の授業

(5) その単元を実施した科目では、年間を通してどれくらいの頻度で参加型学習を実施しましたか。（2016年4月以降に実施した単元の場合は、どれくらいの頻度で実施する予定ですか。）もっとも近いものを1つ選んで数字に○をつけてください。

1. 毎回の授業
2. 学期に複数回
3. 学期に1回
4. 年に1～2回

16 その単元で実施した参加型学習で使用した教材は何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 教科書（基本事項・例題）
2. 教科書（発展問題）
3. 副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材：ワークブック、ドリル、資料集など）
4. 大学入試対策の問題集・大学入試の過去問
5. 教員が独自に作成したプリント
6. 資料（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
7. WEB上の記事や文章から（具体的に記載:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
8. その他（具体的に記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

17 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような学力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
基礎的な知識・技能の習得・活用・統合						
1. 各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	5	4	3	2	1	0
2. 各教科で身につけた知識・技能を活用する力	5	4	3	2	1	0
3. 教科を越えた知識や理解の統合	5	4	3	2	1	0
4. 教科内容に対する知的好奇心	5	4	3	2	1	0
5. 物事を多面的に見る力	5	4	3	2	1	0
言語を活用する力						
6. 文章などを正確に読み解く力	5	4	3	2	1	0
7. 自分の考えを言語で表現する力	5	4	3	2	1	0
探究する力						
8. 課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	5	4	3	2	1	0
9. 自分で情報を収集し、分析し、整理する力	5	4	3	2	1	0
10. 課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	5	4	3	2	1	0

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
11. これまでにない発想をしようとする創造性	5	4	3	2	1	0
12. 物事の道理や因果関係を理解する力	5	4	3	2	1	0
13. 自分の考えを深める思考力	5	4	3	2	1	0
対人関係を築き、協働する力						
14. 主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	5	4	3	2	1	0
15. 他者と協力するための社会性や協調性	5	4	3	2	1	0
16. 勤労観や職業観	5	4	3	2	1	0
17. 社会の一員としての市民性意識	5	4	3	2	1	0
18. 途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	5	4	3	2	1	0
自ら学びを切り開く力						
19. 何事にも積極的に取り組む意欲	5	4	3	2	1	0
20. 他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	5	4	3	2	1	0
21. 社会変化に対応できる柔軟性	5	4	3	2	1	0
22. 自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	5	4	3	2	1	0
卒業後の進路に役立つ力						
23. 大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	5	4	3	2	1	0
24. 大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	5	4	3	2	1	0
25. 就職で必要となる力	5	4	3	2	1	0

18 その単元で実施した参加型学習は、生徒にどのような教科の力をつける効果があったと思われますか。あてはまるものを1つずつ選んで数字に○をつけてください。

	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかったので判断できない
1. 語い力・文法力	5	4	3	2	1	0
2. 背景知識	5	4	3	2	1	0
3. 論理的に分析する力	5	4	3	2	1	0
4. 読解力	5	4	3	2	1	0
5. 記述・論述力	5	4	3	2	1	0
6. リスニング力	5	4	3	2	1	0
7. スピーキング力	5	4	3	2	1	0
8. 仮説をたて推論する力	5	4	3	2	1	0
9. 他者の立場に立ち判断する力	5	4	3	2	1	0
10. その他（　　　　　　　　　　　）	5	4	3	2	1	0

19 質問 17 18 で答えた効果を判断する際に、その判断材料としたものは何ですか。あてはまるものをすべて選んで数字に○をつけてください。

1. 生徒の学習態度
2. 生徒の発言内容（発表内容）
3. 提出物（作文やレポートなど）
4. 授業内のチェックテスト（確認テストや小テストなど）
5. 学校独自のテスト（定期テストや実力テストなど）
6. 予備校などが主催する模擬試験
7. 生徒同士の相互評価
8. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

以上で質問は終わりです

このたびは、東京大学 大学総合教育研究センター 教育課程・方法開発部門 及び 日本教育研究イノベーションセンター（JCERI）による「高等学校における参加型学習に関する実態調査」にご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが、回答が終わりましたら、この回答用紙をとりまとめご担当の先生に 8 月 31 日までにお渡しください。

2017 年 12 月 20 日 発行

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 ２０１６
最終報告書

編著者　木村 充,
裴 麗瑩
小山田 建太
伊勢坊 綾
村松 灯
田中 智輝
山辺 恵理子
町支 大祐
渡邉 優子
中原 淳

編集・発行　東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1